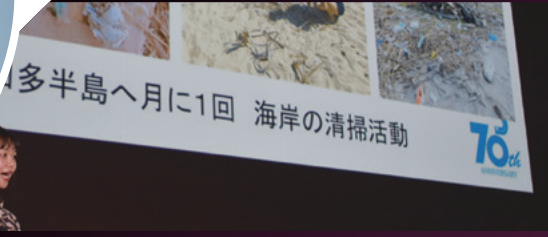


70<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY



# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

Junior Chamber  
International Japan  
NAGOYA



JCI  
Nagoya

# CONTENTS

## 第 70 年度会報

第 70 年度公益社団法人名古屋青年会議所スローガン	2
一年を顧みて【理事長】	3
「第 70 年度を振り返って」第 70 年度正副理事長座談会	4
一年を顧みて【直前理事長・監事・顧問・室長・出向役員】	12
例会報告	21
事業報告	45
事業報告 - 地域貢献事業	51
委員会報告	53
各種大会レポート	63
総会報告・理事会レポート	67
青年会議所運動	75
青年会議所（JC）とは	76
JC 三信条・JC 宣言・綱領・2000 年宣言	77
公益社団法人日本青年会議所の歴史及び活動	78
JCI・日本 JC 歴代役員出向者一覧表	80
公益社団法人名古屋青年会議所の歩み	84
公益社団法人名古屋青年会議所 第 70 年度組織図	100
2020 年度出向会員一覧	104
公益社団法人名古屋青年会議所 第 71 年度組織図	108
2021 年度出向会員一覧	112
歴代理事会構成メンバー	116
JC 歴別会員名簿	140
年度別卒業予定者名簿	142
編集後記・第 70 年度編集メンバー	144

## 公益社団法人名古屋青年会議所 第70年度スローガン

## 「持続可能な名古屋をつくらう!!」

## 一年を顧みて



第70代理事長  
光田 侑司

「平成」という時代が終わり、「令和」という新たな時代を迎え、名古屋青年会議所としても70周年という節目を迎えた第70年度。「持続可能な名古屋をつくらう 過去を負わず、未来を待たず 今必要とされていることに挑戦しよう」という基本理念を掲げてスタートした。予定者期間に多くの事業議案を審議可決し、年度が始まって「さあ、いよいよ始まるぞ」と意気込みを新たにしていたところに、新型コロナウイルスという未曾有の危機が世界を襲った。対外的な活動は大幅に制限せざるを得ず、WEBを活用するか、若しくは内容の変更や中止を余儀なくされた事業・例会もあった。しかし、そのような中でも、安易に活動を止めるのではなく、その状況下でも最大限できることを探し、取り組んでいくことが我々青年経済人の務めであると考え、できうる限りの活動をさせていただいた。

まず、経済という観点から、「世をおさめ民を救う」という本来の意味での経済がこのまちに持続可能な形で根づいていくために、「良い会社」をテーマとした例会や、子供たちにカードゲームを通じて経済の仕組みを学んでいた事業によって、「良い会社」を目指す企業を増やす取り組みを行った。そして、すべての人が活躍できる社会を構築するために、優秀な外国人財を受け入れることで企業がより発展していくための環境整備を目指した事業や、障がい者の賃金格差を解消するための商品開発事業を実施した。また、ジェンダー格差を解消するために、夫婦・パートナー間の家事・育児分担に関するコミュニケーションを促進する事業を実施した。

次に、人財育成という観点から、持続可能な人財育成の仕組みを構築するために、社会課題解決を目指して活動している学生へ資金とネットワークを提供してその活動を後押しする事業・例会を行い、活動の成果を名古屋市長への提言としてまとめた。また、人生100年時代のロールモデルとなる人財を発掘し、その活動を支援すると共に、リカレント教育の重要性を伝えるための社会実験となる事業を実施し、行政への提言につなげた。名古屋青年会議所の持続可能な人財育成として、会員拡大に関する方針を、会員の数よりも質、そして育成を重視する方向へ大きく転換し、期中退会者ゼロを目指す会員拡大とオリエンテーションを実施した。122名の入会があり、オリエンテーションへの出席率は例年より10%以上高い83%を記録した。

国際面の活動に関しては、新型コロナウイルスの影響を最も大きく受けたが、ICT技術を活用しながら、渡航ができない状況下でもできる限りの国際交流を推進した。市民が名古屋の魅力を再認識し、自らその魅力を発信してもらう契機とするために、ロケイニングを中心とした事業を実施した。2026年のアジア競技大会を見据え、昨年度からの継続事業として実施する予定であった子供のサッカー大会は、日本・中国・韓国・タイ・ウズベキスタンの5か国から参加いただく予定であったが、コロナ禍で、リアルでの開催はかなわなかった。しかし、オンラインゲームの世界大会へと切り替え、JCIのネットワークを活用しながら、多くの団体とも連携し、素晴らしい大会を開催することができた。第67年度から実施してきた3G-Projectについても、海外への渡航がかなわない中、Zoomを活用した新しい形の国際交流を実施した。民間企業同士の仕事を通じた国際交流についても、インターネットを使った交流を重ね、JCIマニラとのビジネスマッチングにつなげた。

名古屋青年会議所の対外ブランディングの強化として、経済情報アプリを用いて名古屋青年会議所の活動をPRしたり、事業・例会の広報活動にWEB広告を活用したりと、インターネットを通じた情報発信へ大きくシフトした。講師や趣旨によって新聞広告を活用するなど、戦略的に発信媒体を変えながら、多くの人へ名古屋青年会議所の情報を届けることができた。また、歴代理事長をはじめ各地青年会議所のメンバーにご参加いただきながら、400名規模で70周年記念式典を開催することができたことは、全国の青年会議所への素晴らしいブランディングにつながった。本年度最大の運動発信の場として開催したJCフェスティバル例会には、1,300名を超える方にご参加いただくことができた。また、名古屋青年会議所が、持続可能な組織として、世の中から必要とされ大切にされ、成果を出し続けていくために、諸会議のあり方や組織のあり方を見直した。諸会議の開催にもZoomを活用したほか、これからの時代に対応していくため、定款・諸規程の見直しも行った。緊急事態宣言下においては、当初予定していなかったYouTubeでの情報発信や、医療従事者への支援、献血プロジェクトなど、その時必要とされている事業を実施した。

70周年・コロナ禍という特殊な年度の中、運動を止めることなく名古屋青年会議所の運動をお支えいただいた、代表世話人をはじめとする特別会員の皆様、そして現役会員の皆様に、心より感謝を申し上げます。この1年という時間を過ごした後に我々に残るものは、数多くの高い壁を乗り越えてきた経験と、壁と共に乗り越え同じ時間を過ごした友情だけとお伝えしてきた。皆様の手元にその素敵な光り輝くものがあるならば、それは間違いなく自らを成長させたかけがえのないものになったと確信する。皆様ができこないことに挑戦し続け、高い壁を乗り越えた先に、持続可能な名古屋のまちがつけられることを切に願っている。

## 「第70年度を振り返って」第70年度正副理事長座談会



日 時：2020年12月15日（火）  
 場 所：名古屋JC会館 正副室  
 出席者：理事長 光田 侑司  
 副理事長 鈴木 信輝  
 副理事長 橘田 英明  
 副理事長 遠藤 圭  
 副理事長 高橋 雅大  
 専務理事 齋藤 亮治  
 常務理事 土屋 勝義  
 司 会 吉川 徹（広報・ブランディング委員長）

**吉川広報・ブランディング委員長**  
 まず、皆様から一言ずつ第70年度の総括をいただきたいと思います。

**光田理事長** 本年度は70周年でしたので、周年式典をやらなければならない、というのが1つと、組織改革を結構やってきたという自負はあります。ともかく（新型コロナウイルスの影響で）大変だったの一言ですね。正副の7人で集まることすら極端に少なかったように思います。一方で、例会は4月だけ中止になってしまいましたが、ほぼすべての委員会が事業・例会を行うことができましたし、皆様のおかげで何とか1年やってこれたと思います。

**齋藤専務理事** ルールや会議のあり方等について、いろいろやり方を変えた1年だったなという印象です。正副の7人の意見が一致することが多く、スムーズに委員会へ意思伝達を行うことができたのではないかと思います。

**鈴木筆頭副理事長** 人財グループとしてはすべての事業・例会を行うことができたので、タイミング的な面もありますが内容を工夫して実行力を持ってやり抜けたと満足しています。当初描いていた形とは少し違った形となりましたが、基本的にはそれぞれの与えられたミッションをやりきることができたのではないかと思います。会員拡大については、拡大路線から退会者ゼロを目指すという方向転換をしましたが、それをしっかりと実践することができました

し、次年度の輩出という意味でも、グループとして選挙に9名出馬していただいたというところで、次代につながる成果を残せたのではないかと考えています。

**橘田副理事長** ブランディンググループとして、今年は広報・ブランディングに力を入れてきました。特に、新型コロナウイルスの影響もあって、特に広報・ブランディングの重要性が増したということがありました。すべての委員会と連携して成功のカギを握ってきたのではないかと思います。また、日本青年会議所をはじめ、地区やブロック等の集まりや、各LOMとの接点が少なかった分、渉外委員会の活躍の場が少なくなってしまったのは残念でした。加えて、渉外委員会が例会を担当するという

ことは異例という中で大家族会という楽しそうな企画を考えて下さったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催することができなかったというのは残念でした。そのような中、70周年特別委員会が7月例会70周年記念式典と10月JCフェスティバル例会を成功させてくれました。これらは名古屋青年会議所にとっても大きなブランディングになったのではないかと思います。

**遠藤副理事長** 経済グループは、人を集めることを中核に据えた事業等が多く、その意味では辛い面が多い1年だったと思います。新型コロナウイルスの影響で地域の経済も影響を受ける中、当グループとしても影響は少なくなかったと思います。



理事長 光田 侑司

**高橋副理事長** 国際グループとしても、いわゆる「飛べなかった」ということは残念だったと言うしかないのですが、その中でも本当によく国際のミッションをこなしていただいたなと思います。JCIのネットワークを使い、世界の仲間とWEBでつながる活動を行うことができたということは意義が大きかったと思います。また、各委員会に必ずカウンターパートがあり、行政や外郭団体と一緒に事業や例会をつくって来ました。JCだけでやるのではなく、JCと共にやる、というところもしっかり取り組めたのではないかと思います。グループとしては非常に一体感がありました。個性が強く、迷惑をかけた部分もありましたが、個々のパワーがあったからこそ色々なことができたと思います。新型コロナウイルス

感染症対策セミナーに関しては、とある理事から電話があったんです。「JC最近何もやれてないじゃないですか。」と。じゃあ何か一緒にやるかと聞いたら「やれません。」と。(笑)その想いに後押ししてもらいまして、理事長と話をし、じゃあ僕たちがやろうかと。じゃあ僕が議案書きますよ、と。そして発信力を高めるために吉川委員長にも手伝ってもらって実施しました。少しでも会員の役に立ちたいという想いから実施させていただいたのですが、副理事長ながら久しぶりに議案も書かせていただきましたし、そこから個々の理事が動いてくれた、そのきっかけになれたというのが良かったなと思います。医師会への寄付もできましたし、ウズベキスタンとも仲良くなれました。1年を通じて、しっかり成果を出せ

たのではないかと思います。青年会議所は国際的な組織ですので、この国際の強みというのを活かして今後も名古屋に貢献する組織になっていきたいなと思います。

**土屋常務理事** 総務グループは、新型コロナウイルスという非常事態において、盤石な基盤をつくらなければならなかったのですが、一部皆様が不安に感じられることもあったのではないかと思います。一方で、今後の組織のあり方について、定款諸規定の見直し等を行い、今後につながる活動ができたと思います。また、総務グループとして1月と12月の例会を担当しましたが、グループとしてはしっかりと担いを全うできたのではないかと考えています。

**吉川広報・ブランディング委員長** ありがとうございます。続きまして、各グループの担当事業・例会や委員会の担い等について、それぞれコメントいただきたいと思っています。

**橋田副理事長** まず渉外委員会については、しっかり活動できたのは予定者期間と1月の京都会議とナゴヤナイトの設営、そして2月の名古屋会議くらいまでで、それ以降はなかなか活躍する機会がなかったという感じがします。もちろん新型コロナウイルスという環境に大きく左右された部分はあるのですが、私たちとしても十分に活躍の場を提供できなかったのは申し訳なかったなと思います。広報・ブランディング委員会については、本当に頑張ってくれた



副理事長 鈴木 信輝

委員会だなと思います。広報という手法を使って、対外への発信を上手に行うことができたと思います。また、70周年ということで、記念誌の作成や NewsPicks の事業を行いました。この NewsPicks の事業は、対内外に大きな反響を呼んだ、とても意義のある事業となり、今思うと、新しい例会や事業のスタイルのヒントにも繋がったのだと思います。70周年特別委員会に関しては、他に周年を迎えた LOM は少なくなかったのですが、多くの LOM が周年式典の開催を控える中で、先陣を切って、400名を超える方々にお集まりいただき、日本青年会議所の会頭にもご臨席いただく形で式典を開催できたのは、とても大きなことだったと思います。まさしく70周年の節目に「名古屋ここにあり」と日本全国に示すことができたのではないのでしょうか。また、10月JCフェスティバル例会については、理事長が参加できなかったのは残念だったという個人的な思いはありますが、ご参加いただいた皆様から「このご時世において、このようなイベントをやっていただけるのはすごくありがたい」と感謝の言葉をいただくことができました。今後の名古屋青年会議所の活動への賛助・協賛にもつなげていただけるような、とても良い例会だったのではないかと考えています。

**遠藤副理事長** 経済グループとしては、先ほども述べましたように、まず人を集めてナンボというところが前提としてありましたので、なかなか厳しい1年だったなというところが

あります。一方で、年度の終盤には、カードゲームを使って子供たちに経済の仕組みを学んでもらうという経世済民プログラムが、参加していただいた方にとっても好評をいただきました。人財プラットフォーム探求構築委員会に関しては、もともと、優秀な外国人財と企業とを結び付けて、労働力不足を解消していこうという発想で取り組み始めたのですが、新型コロナウイルス禍がやってきて、むしろ人財が企業から放出されるような状況となってしまったため、なかなか当初描いていたような事業は行うことができませんでした。ただそのような中でも、ポータルサイトを立ち上げ、その中でWEBセミナーを公開したり、実際に外国人留学生にインターンシップに参加していただいたりと、最低限の活動は

できたのではないかと考えています。雇用格差解消実現委員会は、障がい者の賃金格差を是正するため、障がい者の方に製造していただくクッキーを開発し、その販路をつくるという活動をしました。こちらはしっかりと製品化をすることができましたし、事業として一定の成果を上げられたと思います。ジェンダー平等社会構築委員会も、コロナ禍の中にあって、よく頑張ったと思います。家族を最強チームにするミーティングシートは、非常に多くの方に実践していただくことができました。私自身も家庭で実践してみました。改めて家庭に向き合ってみる良い機会になりました。また、コロナ禍に対応した事業として、このミーティングシートを軸にしたWEBセミナーを複数回開催し、こちらも多く



副理事長 橋田 英明

の方に参加していただくことができました。

**鈴木筆頭副理事長** まず社会課題解決人財育成委員会ですが、学生自身に事業構築をしてもらうという新しい試みを行いました。結果として、参加していただいた高校生の方々には、事業を通じて得られたデータを9月例会で発表できた上に、提言書という形でまとめて名古屋市長にお渡しするという貴重な経験までしていただくことができましたし、学生の皆様や教師の方からも、なかなかこのように自ら活動に参加して発表していく場というものが無い中で貴重な経験をさせていただいたという言葉いただきました。これは、3月例会にご出演いただいたワールドシップオーケストラの方々も

同様です。新型コロナウイルス禍で表現の場が著しく減っている中で、その場を提供することができたことで、名古屋青年会議所が社会に存在意義を示せたのではないかと考えています。3月例会名古屋人間力大賞については、エントリー数が15名と伸びなかったことが悔やまれますが、メディアと連携して、若者の活動を後押しすることができたと思います。一方で、もっとこの活動を世の中に知ってもらい、もっと多くの優れた若者を応援できる形をつくりあげていきたいところですので、また次年度以降も頑張っていたきたいと思います。リカレント教育を推進する事業では、9名の方に実際に学び直しの体験をしていただきましたが、現在、名古屋市の方でも生涯学習推進体制の整備・充実が図

られているとのことで、少しずつリカレント教育の重要性が世間に認知されてきたかなと思っています。会内の人財という意味では、今年度、これまでの拡大路線から「期中退会者ゼロを目指す」という大きな方向転換をする中で、山内特別委員長を中心に、110名の目標に対して122名の入会と、しっかりと成果を出していただきました。残念ながら新型コロナウイルスの影響もあって期中退会者ゼロとはいきませんでした。例年よりも退会者を大きく減らすことができました。また、新入会員に対するオリエンテーションは、WEBを活用しつつ無理なく参加できる方法を考えていただき、実際に、例年よりも新入会員の活動参加率は向上しました。グループとして取り組んだものとして、コロナ禍における献血運動「JCI名古屋ナイチンゲール Project」があります。これはとてもスピード感をもって事業構築をすることができたのですが、第1弾は会員企業の施設を借りて実施し、会員中心に参加者を募りました。そしてその様子をメディアに取材していただき、緊急事態宣言下においても不要不急な外出に当たらない献血活動の必要性を社会へ発信しました。それをきっかけに、市内の各所で献血ができるというアナウンスも行いました。そして、我々も予期していなかったのですが、そのような記事を見た一般企業の方から名古屋青年会議所に「是非協力させてほしい」とお声をいただいて第3弾の実施に至りました。大きな発信力をもつことができたというもあり



副理事長 遠藤 圭

ますし、我々だけが行うものではなく、市民の方々を巻き込んだ運動展開ができたと考えます。このような非常時こそ我々青年会議所のスピード・価値が問われていると強く感じました。

**高橋副理事長** まず、相羽・鶴飼両室長についてですが、性格は全然違いますが、本当によく支えていただきました。グローバルシティ確立委員会は、名古屋の魅力の世界に知っていただくためにまず名古屋市民がどれだけその魅力を理解しているかという点にアプローチしました。あつた宮宿会の協力を得て、自転車で熱田地区の名所を巡るというフォトコンテスト事業を行いました。普段、名古屋市民は自動車で移動することが多いですが、自分の足で見て回ることによってその魅力を再認識していただくことができたのではないかと思います。そして認識するだけでなく、#visitnagoyaというハッシュタグをつけてその魅力を世界に向けて発信していただくということをやってきました。もう1つは10月JCフェスティバル例会のサブイベントとしてロゲイニングを実施しました。こちらは名古屋コンベンションビューローの協力を得て、その年1回の企画の一部を提供していただく形で実施させていただきました。こちらも先ほどの事業と同様に、自分の足で回っていただくということが大切で、アスリートとして参加する人、家族と一緒に参加する人、色々な楽しみ方があって、非常に面白い企画になったのではないかと考えています。国

際スポーツ交流推進委員会にはとても頑張っていただきました。昨年の年末は、彼らはウズベキスタンにいました。鶴飼室長も三宅委員長も、それぞれ役職が決まってまず私から「ウズベキスタンに行くよ」と告げられてびっくりしていましたが、実際にウズベキスタンを訪問し、友好関係を築き、内閣官房とのパイプもできました。それが11月例会にもつながりましたし、とても良いスタートダッシュが切れたと思います。また開催はかないませんでした。日中韓・ウズベキスタン・タイの5か国の子供たちを名古屋に集めてサッカー大会を開催するという壮大なプログラムを計画していました。それがかなわなくなり、代わりにeスポーツ、ウイニングイレブンの国際交流試合を実施することになりました。三宅委

員長はその後APDCに出向していただき、早速JCIネットワークを活用していただいていると思います。2月例会のサブフォーラムは満員御礼となりました。アジア競技大会へ向けた機運を高めるためのフォーラムでしたが、委員会としても、アジア競技大会へ向けて大きな担いをしていただいたと思います。非常にまとまった、力のある委員会でした。次にグローバルな課題解決人財育成委員会。こちらは本当に元気な委員長で。私も元気をもらうこともありました。室長も元気でしたし、彼らしかできない形だったかなと思います。3G-Projectは、大きく変わった点があります。今までは、学生の方にお願ひして、費用も名古屋青年会議所側がすべて負担する形で参加していただいていたのですが、今回は、多



副理事長 高橋 雅大

くの応募者の中から選ばれた方に、参加費を負担していただく形で実施しました。この参加の形を変えろということを実現してくれたということとはとても大きなことでした。いつまでも3G-Projectのために毎年名古屋青年会議所が何百万円も出し続けるわけにはいきません。このプロジェクトを持続可能なものにしていくためにも、先ほど述べたように形を変えることができたというのは本当に大きな意義があります。もう1つ、とても重要なことは、このコロナ禍の中でも実施し続けたということです。この2点を、私はとても評価しています。参加していた学生の方々は、事業後も、3G-Projectのハッシュタグをつけた投稿をしてくれているとのことです。個人的には、3G-Projectは名古屋青年会議所の

手を離れた形で実施される形に昇華するという夢があります。11月例会については、三宅委員長の力も借りていますので、グローバルな課題解決推進委員会単体というよりは、国際グループ全体で取り組んだと思っています。もともとは全く違った形での例会構築を考えていたのですが、形がかなり変わり、共生社会をテーマとした例会となりました。名古屋市・名古屋市障害者スポーツセンターとアイデアを出し合っ、飽きさせない例会構築ができたと思います。特に、リアルタイムで海外とつないでフォーラム構築をするということは今までなかなかなかったのではないかなと思います。民間外交推進委員会については、委員長に非常に苦戦しました。(笑)このコロナ禍でどうやって民間外交をビジネスにす

るのか、という大変難しいテーマでした。会員益という側面もありましたので、何とか成功させなければならぬと思い、KOTRAという団体に力を借りて、実際にビジネスマッチング会を開催しました。KOTRAに関しては、私自身も社業の人材採用でかなりお世話になりました。相羽室長もKOTRA経由で実際に従業員を雇用し、現在営業の仕事を頑張っているとのこと。是非、青年会議所活動を通じてそのような団体を知っていただくことで、社業に役立てることができると思います。6月例会については、コロナ禍で大変なことになりそうだったのをWEB開催に切り替え、その中でラップ例会を実現するという難しいミッションを形にしてくれました。講師の大概先生も大変ユーモアのある方で、非常に助けられたなと思います。もう1点、杉原委員長の事業で記憶にあるのは、マニラとのビジネスマッチング事業において、看護の先生に講演をいただいたのですが、その方が、新型コロナウイルスの最前線の現状を涙ながらにお話になったんです。これを聞いて私も非常に胸に刺さり、決して新型コロナウイルスに感染してはならないなという想いを強くしました。

**土屋常務理事** まず、杉山総務室長。彼女無しでは絶対に総務室は成り立たなかったなと思います。女性ならではのきめ細やかさに本当に助けられました。細かすぎる部分もありましたが。(笑)男性が多い名古屋青年会議所の中で、杉山室長

の視点はとても価値のあるものでした。財務委員会については、本当に大変な状況の中で12月例会を開催していただきました。秋元委員長をはじめとする財務委員会メンバーの皆様には感謝しかありません。財務委員会は本年度賛助企業の募集活動も担当しました。加えて、全委員会を統率して協賛金もしっかりと管理していただき、全体の事業構築を支えていただきました。総務委員会については、副委員長中心に当事者意識を高くもって頑張っていただきました。おかげさまで、最優秀会員会議所賞を受賞することができました。何より本年度は、Zoom含め、諸会議の開催方法がコロコロ変わりました。その度に総務委員会の皆様には大変な思いをさせたのですが、文句1つ言わず設営をしていただきました。彼らにも本当に感謝しています。また両委員会共にですが、新型コロナウイルスの影響で当初の計画議案から大幅な修正を余儀なくされる委員会が少なくなく、そのため議案数が例年よりも非常に多かつたと思います。その議案をくまなくチェックし、各委員会を導くことができたのは、総務・財務両委員会の頑張りによるもの、そして、その両委員会を束ねる杉山室長の頑張りによるものというほかありません。

**齋藤専務理事** 本年度は、新型コロナウイルスの影響で、事業も例会も、実施方法を大きく変えることになりました。これによって、参加方法が多様化するなど、良かった面も

あると思っています。また、全体として、大変な状況の中でも、できることにしっかりとチャレンジしていただき、それぞれ成果を出していただけたのではないかなと思います。

**吉川広報・ブランディング委員長**  
皆様、ありがとうございました。



専務理事 齋藤 亮治



常務理事 土屋 勝義

## 一年を顧みて



直前理事長

浅野 弘義

今年度、名古屋青年会議所で直前理事長のお役目をいただくと同時に、日本青年会議所に顧問として出向させていただいた。必然的に全国の LOM の動きも耳に入ってくることとなったが、新型コロナウイルスの影響で、全国的に殆どの LOM が周年行事の開催に尻込みする中で、名古屋青年会議所が先陣を切る形で 70 周年記念式典を開催できたことは、非常に意義深いことであった。式典にご参列いただいた日本青年会議所の石田全史会頭からも、全国の LOM を牽引するかのよう、名古屋青年会議所が 70 周年記念式典を開催したことについて、非常に感謝しているとの言葉をいただき、日本青年会議所に出向している身として、また名古屋青年会議所の一員として、とても誇らしかった。大変厳しい状況の中で式典の開催を決断していただいた光田理事長をはじめとする執行部の皆様、そして、徹底した感染対策を行い、式典を成功に導いていただいた木下特別委員長をはじめとする 70 周年特別委員会の皆様に、心より御礼を申し上げます。

本年度、名古屋青年会議所では、WEB 会議の導入や例会への WEB 参加、そして出席規程をはじめとする定款諸規程の見直しなどがなされた。刻一刻と変化していく時代、そして働き方改革、ワークライフバランス等、時間の使い方に関する価値観の変容に、名古屋青年会議所も対応していかなければ、組織の明るい未来は望めない。その意味で、本年度、組織の土台となる定款諸規程を見直し、時代に即した形へ変えることができたのは、大きな一歩と言えよう。年会費未納者の処遇に関する定款変更については、会員の権利を制限する方向での改正であるため、今後、委員会レベルでの会員へのしっかりとしたフォローが必要となる。この規定が実際に適用されるのは次年度以降ということになるが、執行部を中心に、会員に対するフォローをしっかりと行っていただきたい。また、会員一人ひとりも、しっかりと当事者意識をもって、組織のあり方について、今後も議論を深めていただきたい。

日本青年会議所での活動についてもこの場を借りてご報告させていただく。本年度は、顧問という立場で出向させていただいた。顧問という役職は、議長委員長たちを育てる役回りである。会議を厳粛に進めるため、あえて厳しい意見を述べさせていただく場面も少なくなかったが、1 年間見ている中で、議長委員長たちは確実に成長したと思う。もともと日本中のエース格が議長委員長として出向してくる訳だが、その彼らの成長に少しだけでも立てたとすれば、望外の喜びである。

事業に関しては、TOYP が、名古屋青年会議所も活用した NewsPicks の協力を得て、発信力ある事業構築をすることができた。また、コロナ禍が来る前から精力的に動いていた Smile by Water 事業も、しっかりとした成果を上げられたと思う。

日本青年会議所でも、2 月の金沢会議以降は、対外への活動はなかなか思うようにできなかった。一方で、もともと一丁目一番地に据えていた組織改革については、大きく変えられた部分も多かった。まず、会議の進行方向については、会議が始まる前に各議案に対する意見をまとめておくという手法をとった。そうすることで、議案上程者はあらかじめ対応を準備した上で会議に臨むことができ、会議に要する時間を短縮することができた。意見を出す際も、アラを探すのではなく、どうすればもっと良い議案になるのか、という前向きな意見だけを述べることを推奨し、前向きな会議運営を心がけた。

また、JC 会館計画策定会議の座長という役目も拝命した。日本 JC 会館は老朽化しており、今後、修繕等の経費が高み、会の運営を圧迫することが予想される。この問題を解決するため、会議において議論を重ね、建替えに向けた準備を進めるという結論を出した。この中で重要視したのは、会員の負担に頼らない JC 会館の維持という観点である。現在 5 階建ての JC 会館を 10 階建てに変更し、その一部をテナントとして貸し出して収益化することで、会員の負担に頼らない JC 会館維持を目指し、持続可能な組織づくりへとつなげていく。

私は、本年度をもって名古屋青年会議所を卒業させていただいた。名古屋青年会議所での活動や出向を通じて、本当に多くのことを学ばせていただいた。特に、第 69 年度、理事長という大役を務めさせていただいたのは、何にも代えがたい経験となった。第 69 年度、ダイバーシティマネジメントという分野に特に力を入れてきたが、外国人雇用や男性の育児休暇制度の整備など、ここで取り組んだことは、すべて自分の社業にも取り入れている。また、青年会議所での国際の経験を活かして、海外との取引もスムーズに始めることができた。何より、青年会議所に所属する最も大きなメリットは、意識の高い仲間と共に社会課題へ向き合う中で、常に最新の情報に触れることができるということだと思ふ。私は、卒業を迎え、今後、最新の情報に触れる機会を失うことを、とても怖く感じている。それほどまでに、名古屋青年会議所の存在は私にとってかけがえのないものであった。

理事長を務めさせていただいた第 69 年度、私は、名古屋青年会議所の本質は社会貢献にこそあると考え、ほぼすべての事業・例会を対外向けとし、徹底して市民のためになる、市民に参加していただける事業・例会構築を求めた。持続可能な組織づくりのためには、会員益も決して疎かにできないが、私は、市民のために精一杯頑張る過程で得られる学びこそが最大の会員益であると信じて疑わない。名古屋青年会議所が、今後もまちのため、市民のために全力を尽くす団体であることを願ってやまない。

結びとなるが、名古屋青年会議所をお支えいただきましたすべての皆様、そして名古屋青年会議所の全会員に心から感謝申し上げ、直前理事長としての 1 年の総括に代えさせていただきます。



監事

大井 貴正

第 70 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、名古屋青年会議所も大幅に活動を制限された。計画通りに実施できなかった事業もあった一方、全国の LOM に先駆けて、400 名以上が参加する形で周年式典を開催することができたのは、とても意義のあることであったと思う。

感染症対応の必要に迫られたことで、過去の慣例に縛られることなく、大幅な運用の変更をすることができた部分もある。例えば、例会や委員会は、これまで現地に来なければ参加として認められなかったが、WEB 参加という形での出席ができるようになった。結果として、どうしても移動時間の関係で参加がかなわなかった会員も、WEB 上で例会等に参加することができるようになった。一方で、画面上での参加であるが故に、開会から閉会まで通して参加しているかどうかの確認が取りづらくなったという一面も否定できない。これからは WEB 上での参加というものは避けては通れないだろうが、第 70 年度の検証を踏まえ、より市民や会員が多くのものを得られるよう、今後も工夫を重ねていってほしい。

私自身、青年会議所の活動を通じて学んだことは多くある。一例だが、第 68 年度の 10 月例会（地域で支える育児支援社会を確立する例会）で、育児中の人でも働きやすい職場環境づくりやテレワークに関するお話があった。私はこの例会での話を聞いて、1 週間以内に、自社に子連れで出勤できる環境を整備した。テレワークについても行政の担当者呼んで社業への活用を検討した。青年会議所の諸会議で用いられている議案フォーマットは、アレンジを加えつつも、社内の会議に活用している。青年会議所活動で得た学びを活かしたことで、確実に従業員

のパフォーマンスは上がっていると感じている。

私も卒業を迎えるが、12 年にわたる青年会議所活動を通じて、1 つだけ「答え」だと確信しているものがある。それは、「人間関係がすべて」だということである。委員会が機能して良い事業・例会ができるかどうか、グループとして、あるいは室としてしっかりと目的を達成できるかどうか、すべては人間関係が基本である。これからの青年会議所を担う皆様には、是非この基本を大切に、頑張ってください。



監事

春名 潤也

本年度、新型コロナウイルスの影響で、大勢の人を集めることができなくなり、様々な事業が当初計画していたように実施することができなかった。その一方で、広報面においては、主に WEB 上で、様々な工夫を凝らした情報発信を行うことができた。SNS を中心とする WEB 上での情報発信については、ここ数年、会内でもその重要性が問われてきていたが、本年度は、大きく躍進することができたのではないかと。また、NewsPicks という新しい情報発信媒体を活用したことも新しいチャレンジであったと思う。過年度においては、テレビ番組等での発信も行ってきたが、時代の最先端を行く NewsPicks という媒体に着目し、新しい形での情報発信にチャレンジできたことは、非常に意義深かったと考えている。

今年は 2 月頃から新型コロナウイルスの感染が広まり、4 月には愛知県からも緊急事態宣言が発出された。その中で、@NAGOYA モニュメントに医療従事者への感謝のメッセージ等を投影するプロジェクションマッピングを実施したり、新型コロナウイルスの影響による献血供給量の減少に着目した献血促進プロジェクトである JCI 名古屋ナイチンゲール Project、名古屋医師会への防護服等の寄付など、社会の課題に合わせた活動も行うことができた。

また、海外渡航がかなわない中、WEB 中継によりウズベキスタンのパラアスリートに生出演していただいた 11 月フォーラムは印象深かったし、各事業・例会を、次代の社会の担い手である学生と共に構築することで、未来へつながる活動も行うことができ、若者世代との連携という JC ならではの醍醐味もコロナ禍の中でも実現することができたのではないかと。

本年度は、70 周年という節目の年であると同時に、70 年度代のスタートの年でもあった。名古屋青年会議所が持続可能な組織として永続していくために、出席規程をはじめとする定款諸規定の見直しなどがなされた。新型コロナウイルスにより必要に迫られたという側面もあるが、今後、名古屋青年会議所の基盤を整えることができたことは、大きな成果と言える。第 71 年度以降、この基盤を活かし、さらにインパクトある運動が展開されることを心よりお祈りし、第 70 年度の総括に代えさせていただきます。





顧問  
武田 裕規

私は、第60年度に名古屋青年会議所に入会した。60周年の年度に入会し、11年間のJC生活を経て、本年度、70周年の年度に卒業を迎えることとなった。コロナ禍の中にありながら、400名を超える人が一堂に会する形で開催された7月例会70周年記念式典は、非常に感慨深いものがあった。その70周年記念式典の中で、光田理事長から、定款諸規程の見直しを含めた今後の組織のあり方について、しっかりと考えていかなければならないという発信がなされ、早速、出席規程をはじめとする定款諸規程が改定された。本年度のテーマは「持続可能」であったが、組織を持続させていくためには、時代に合わせ、変えるべき部分は変えていかなければならない。コロナ禍という状況下で変化を迫られた部分もあったとは思いますが、働き方等を含め、世の中の価値観が変わっていく中で、青年会議所も、時代に合わせ、組織の形を変えていくべきである。

青年会議所に入会した翌年、名古屋青年会議所には、全国大会の主管LOMという大役が与えられていた。秋の全国大会開催に向けて機運を高めていくという最中に、東日本大震災が発災した。震災発災後、名古屋青年会議所は、迅速に募金活動を開始した。当時の委員長は、決して組織の指示によってではなく、自分の判断で、自分自身の信念に基づいて行動していた。青年会議所は、有事の時こそ真価を発揮する団体であると思う。今年、社会は新型コロナウイルスという災害に見舞われたが、名古屋青年会議所は、迅速に、社会が求めているものを見極め、行動したと思う。

全国大会は、まだ入会2年目だったということもあり、あ

と言う間に終わってしまったという印象があるが、それでも、名古屋青年会議所が一丸となって大きなミッションに取り組んだことによって、確実に組織としての団結力は深まったと思う。若い会員にも一人ひとりに役割が与えられたことで、会員は、大きく成長することができたと思う。人は、ある程度負荷がかからなければ、成長できない。青年会議所での活動は、決して楽ではなく、一定の負荷が伴う。しかしその負荷が、青年を、社会人として、一回りも二回りも成長させてくれることは間違いない。私はこれで卒業となるが、名古屋青年会議所が今後も名古屋の次代を担うリーダーの成長の場であり続けることを心より祈念し、本年度の総括に代えさせていただきます。



顧問  
佐地 宏之

本年、名古屋青年会議所は設立70周年という佳節を迎えるとともに、世界を一変させてしまった新型コロナウイルスという未知の脅威との対峙を余儀なくされた。緊急事態宣言の発出を受け、初の例会中止という判断を下さざるを得なくなったのみならず、ほぼすべての運動が修正や抜本的な変更を強いられる事態となり、光田理事長をはじめ、当該年度の運動の中核を担う理事会構成メンバーは忸怩たる思いであったろう。しかし、このコロナ禍が名古屋青年会議所にもたらしたものは、狼狽と混乱だけではなく、組織改革やJC運動のあり方が問われ続けてきたわけであるが、様々な理由から大胆な変革は実現されてこなかった。しかし、如何なる理屈や言い訳をも封殺し、強制的に社会のあらゆるシステムを変えてしまったこの新たなウイルスは、名古屋青年会議所も例外なく変革の渦の中に飲み込んだのである。

ニューノーマルという言葉に代表されるように、これからの当たり前は、これまでの当たり前とは違ったものになった。その変化に機敏に対応し、定款の変更を以ってインターネット等の手段を用いた出席を公式に認めたということは、名古屋青年会議所にとって大きな転換点となるであろう。しかし、その評価は今後の組織運営、運動構築のあり方によって大きく変わってしまう。これまで議論されてきたように、時間を合わせて同じ場所に集まるということの会員の負担と、未知のウイルスが突き付けた大人数で集まることのリスクに鑑みれば、インターネットを使った出席という手法は大きな前進である一方、対面でのリアルな経験の共有が感じさせてくれる熱量や、一見無駄にも見える膨大な時間を費やすことで生まれる絆、仲間たちと多くの苦楽を共にす

ることで得られる卒業の喜び等、JCの良さが薄められてしまいう危険性も孕んでいるからである。つまり、ハンドリングを誤れば、所謂アクティブメンバーを減少させ、ひいてはJC運動の衰退・青年会議所の社会的プレゼンスの低下を招いてしまうのである。

だからこそ、我々は今一度青年会議所の本質を見つめ直さなければならない。会員を含む青年をPOSITIVE CHANGEさせるには、どのような取り組みが必要なのか。我々が、胸を張って時代の先駆者であると表明し続けるためには、どのような組織でなければならないのか。少なくともその両者を兼ね備えるためには、次代をデザインするだけの叡智と、変化を恐れぬ勇氣と、必ず自分たちの手で成し遂げるのだという情熱が必要であると思う。卒業を迎える老兵の最後の手向けとして、これから輝かしい未来を創っていく現役の皆さんに心からのエールと激励を送り、顧問の総括とさせていただきます。



顧問  
白瀧 征人

今年、新型コロナウイルスの大流行で、社会は大混乱に陥った。そのような中で、名古屋青年会議所は、理事会その他の諸会議や例会・委員会のWEB開催をいち早く取り入れた。名古屋青年会議所がZoomを用いたWEB会議等を実践したことで、そこで得たノウハウを社業に活かした会員も少なくなかったのではないだろうか。

9年間の青年会議所生活で得たものは多かった。2018年度、日本青年会議所の稼働人財育成委員会へ委員長として出向した際、女性にもっと輝いてもらうためにはどうしたらいいのか、少子化問題にどう立ち向かっていくのかという課題について内閣府とディスカッションを重ねた。委員会内で色々調べた結果、子をもつ女性にとって、社会で活躍するためにネックとなっていたのは、子供の存在だった。働く時間をつくるために子供を預ければお金がかかる、そのお金を稼ぐためには長い時間働かなければならない、というジレンマに陥っていたのだ。私は昨年、新たに介護事業所を立ち上げることとなったが、その際、日本青年会議所で学んだことを活かし、保育所を併設した事業所を開設することにした。その事業所を開設するための土地も、名古屋青年会議所の先輩に相談していたら、その先輩が貸してくれることになった。このように、青年会議所は、私に幅広い見識と人脈をもたらしてくれた。

これからの名古屋青年会議所を背負っていく後輩たちには、できるだけチャレンジをしていって欲しいと思っている。チャレンジした先には必ず大きなものが得られる。これは自分の経験から間違いなく言えることである。一方で、青年会議所に没頭しすぎて仕事や家庭が疎かになってしまつては元も子もない。本年、新型コロナウイルスの影響も

あって、会議等の効率化を図ることができたと思う。名古屋青年会議所が持続可能な組織として続いていくためにも、効率化すべきところは効率化し、無駄な時間や労力は削減しながら、少しでもまちのために頑張っていって欲しいと思う。そして、次年度は、盟友である寺田拓也君が理事長を務められる。彼はとても人間味がある男であり、何より人間関係を大事にする。そんな寺田理事長の下で、会員の皆様には、自分自身にとつての青年会議所の価値というものを見出していただければと思う。



顧問  
寺田 拓也

本年度、顧問という役職を拝命し、1年間、敬愛する光田理事長を支えることに専念してきた。中でも、私が重点を置いたのは、後進の育成という観点である。理事会や、持続可能なJC探究会議において、理事委員長へ向けて話をさせていただく機会を多くいただいた。その機会に、私が伝えられることは、しっかりとお伝えしてきたつもりである。

理事委員長たちは、今まさに委員会メンバーと向き合い、そして理事として与えられたミッションに向き合っている。そのような理事委員長たちに対し、少し早く同じ役職を経験させていただいた身として、現場で活用できること、1年経って委員長職が終わった時に初めて実感できるようなこと、副理事長まで経験したからこそ言うことができることを、伝えられる範囲で、そして委員長たちが必要とする時期の1~2か月前を目安に、しっかりと伝えてきた。何より私が心がけてきたことは、理事委員長たちを鼓舞する内容にしよう、と言うことである。

せっかく顧問というお役目をいただいたし、個人的に伝えたいと思うことも少なくはないが、それよりも、組織が良くなることを伝えてきた。光田理事長率いる第70年度の理事会に席をいただけたことに、改めて心から感謝申し上げます。

本年度は、愛知ブロック協議会へ監査担当役員として出向させていただいた。監査担当役員というお役目に従い、心を鬼にして、特に予定者クールから春先までは、意識的に厳しい意見を述べさせていただいた。本来であれば、監査担当役員というお役目は、春先にはひと段落となる。しかし本年度は、コロナ禍ですべてが覆されてし

まった。それまで準備してきたものがすべて台無しになってしまった中で、私は、厳しく鍛え上げるというより、鼓舞する側に回った。

様々な事業が二転三転し、中止になるものも多く、これまでの経験が全く通用しなかったが、ある意味新鮮であったし、良い経験となった。この出向経験は、人生の宝物になると確信している。

出向させていただき、一年半にわたってご支援をいただいた光田理事長をはじめとする名古屋青年会議所の皆様には、愛知ブロック出向者を代表し、心からの感謝を申し上げ、1年間の総括に代えさせていただきます。



顧問  
西原 政熙

第70年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、多くのことが例年とは異なる環境下、しかも次々と変化していく状況での1年であった。そんな中、顧問という立場からどのように関わっていくか、非常に難しい1年であった。理事会、事業・例会、委員会、そして理事候補者選出選挙においてもWEB・ズームでの開催が行われた。少し前では想像もなかったことを素早く様々な手段を用いて開催を行えたことは、さきかけの団体に相応しいものであり、光田理事長が掲げる「持続可能」に伴ったことであった。同時に時代の変化共に、組織が進化していく流れを感じた1年でもあった。そして、顧問は理事長が言いづらいことを言う立場、つまり代弁者であると先輩から教えられた。光田理事長の考えすべてを推し量ることは不可能ではあるが、時代・手法は変われども青年会議所としての本質というものは決して変わるものではない。JCのためのJC活動ではなく、目的を持ち、自己の成長と持続可能な名古屋の創造のために、どうしていくのか。そういったことを少しでも伝えるべく顧問として活動させていただいた。

また、今年度は持続可能な組織を探求していくことを目的とした持続可能なJC探究会議において、アドバイザーという役をいただいた。テーマごとに定款・規約の変更まで視野に入れ、理事・常任理事の方々と議論する貴重な時間をいただいた。そこで感じたことは、古くからある慣例やルールといったものがどういう経緯で作成され、今も運用されているのかということがあまり知られていないということであった。これを機に多くのことを理事の方々も考え、理解する契機となったこと、そして理事としてこれからの組織の在り方に向き合う流れができたことは有意義ではな

かっただろうか。今年度、なぜ定款・規約の変更が行われたのか、その背景もしっかりこれからの世代に引き継いでいただきたい。

時代と共に組織も大きく変化していくであろうし、していかなければならない。しかし、先輩から受け継いできたもの・伝統は忘れずに持続可能な名古屋、そして持続可能な名古屋青年会議所であり続けることを祈念すると共に、この担いをいただいた第70年度光田理事長を始めとする理事会構成メンバー、そして会員皆様に感謝申し上げ総括とさせていただきます。



渉外・広報室長  
小林 靖浩

名古屋青年会議所の下支えをする担いを持ち、渉外・広報室はスタートした。当室は2委員会の構成である。渉外委員会では正副団のアテンド業務を行いながら、4月例会の担当という重責を担うこととなった。4月例会のテーマは「大家族会」。通常委員会単位で行う家族会を名古屋青年会議所全体で行うといったものである。子供たちの喜ぶ顔が見られることがその親にとっても最高の癒しになると考え、体操のお兄さんと共にブンバ・ポーンを踊る事業となった。また、同時に参加者全員でドミノ倒しを行い、ドミノが倒れるとアニバーサリー70の文字が現れるという名古屋青年会議所70周年を参加者全員で祝える設えとした。しかし、3月からの新型コロナウイルスの蔓延により中止せざるを得なかったことは今でも残念に思う。アテンド業務の大半もコロナにより中止となったものが多かったが、京都会議と世界会議のアテンド業務を慣れない中でも打ち合わせを重ね完璧にこなしていた姿が印象的であった。

一方、広報・ブランディング委員会はコロナ禍にも拘らず大変多くの担いがあった。特に印象的だったのが、名

古屋青年会議所のブランドを確立する事業である。経済情報アプリNewsPicksを使い、名古屋青年会議所に対する市民の認知度を高めることを目的とした事業だ。名古屋青年会議所の70周年に際し、どのような手法を用いれば効果的に名古屋青年会議所の軌跡・活動を市民に伝えられるのか試行錯誤しながら開催した事業であったが、目標としていた70万人を大きく上回る視聴者数を獲得することができ、大きなインパクトを与えることができた事業となった。また、本年度は運動発信の際に用いるメディアに着目し、改善を行った。例年の新聞広告やテレビ広告といった手法ではなくWEB広告という手法を導入し、多くの市民に運動を発信できた。

結びに、竹腰・吉川両委員長と共に、課せられた担いに対し多くの時間を費やし悩みながらも乗り越えることができたことを心より嬉しく思う。大変な担いも両委員長だからこそ乗り越えられたと確信している。名古屋青年会議所70周年という節目の年に室長の担いをいただけたことに心から感謝申し上げる。



総活躍社会構築室長  
山田 洋資

2019年の総務委員長を経て、2020年度（第70年度）に外国人雇用、女性活躍、障がい者雇用を促進する委員会を束ねる総活躍社会構築室長として、3委員会を担当させていただいた。また、3月から新型コロナウイルスが猛威を奮う中での事業や例会、委員会運営をやり遂げてくれた委員長に感謝を申し上げます。

外国人雇用は、高度外国人財に焦点を当て、日本でこれから減少するであろう労働者人口を補填する有効な担い手としての外国人雇用の促進事業を行った。2月の例会では外国人雇用の有効性と手法に関して焦点を当て、会員と市民にお伝えした。また事業では、名古屋市内外の大学や人材派遣会社と連携を取り、日本に就職したくてもかなわない留学生と企業をつなぐホームページを開設、そしてインターンシップを実施した。留学生も日本における就業の並々ならぬ意欲を見せながらも、企業が求める人財とは何かを探っていた姿が印象的であった。

一方、障がい者が活躍をする社会の実現に向けて、雇用手差解消実現委員会は事業を行い、例会を開催し

た。障がいをもっていても一般の労働者と同一のものづくり、パフォーマンスが発揮できることを、市民やJC会員に知らしめるべく、活動を行った。障がい者が苦勞の末に作り上げたサクッキーは味も大変素晴らしく、10月例会での評価の高さは今でも忘れることができない。見た目も味も一般で販売されているクッキーとは変わらない、同価格でも十分競争力をもっているということが1年の活動の中で十分感じられた。

またジェンダー平等の点においては、今年は家庭内の育児分担について焦点を当て、決して育児分担を強いる形としてではなく、夫婦がお互いに育児分担について深く考え、お互いにいたわるような最強家族シートを作成し、3600世帯を超える方々に実践いただいた。このシートが今後も残り、また実践されることを願ってやまない。

結びに、3つの委員会を任せていただいたことを最初はプレッシャーに感じながらも、岩下・安田・岩崎委員長を信じてやってきてよかったと思う。第70年度の節目の年に室長の担いをいただいたことに感謝を申し上げます。



人財育成室長  
太田 武志

「持続可能な名古屋をつくろう」という大きな旗印を掲げてスタートした第70年度の運動であったが、まさに「持続可能」という言葉の重みを身に染み入る1年であった。2020年1月に日本で初めて確認された新型コロナウイルスは、我々の掲げた運動に多大なる制限を否応なしにかけることとなった。しかし、この有事においても我々が目指すゴールである「持続可能な名古屋をつくる」という旗印のおかげで、決してぶれることなく様々な事業や例会を中止にせず、できることを精一杯やり抜くことができた。感染拡大防止の観点から、当然様々な計画変更や延期などはあったものの、人財育成室が任せていただいたすべての例会と事業は、会員の皆様の多大なるご理解とご協力のおかげで何とかやり抜くことができた。また、4月から5月の緊急事態宣言下においては、人財グループで一丸となって予定にはなかった事業を早期に垂直立ち上げし、対外・対内共に事業を実施することができた。コロナ禍における献血不足という社会課題に一石を投じたナイチンゲール事業においては、メディアからも多くの取材を受け、まさに今必要とされている社会課題に取り組み、自ずと名古屋青年会議所の価値

は向上するということを実体験として感じる事ができた。また、この新型コロナウイルスという未知との遭遇は「我々の存在意義は果たして何なのか」を常に自問自答させてくれた。この有事において、我々が数多の社会課題に目を背け、膝を抱えて何もせず、自らの保身や利益が優先するような団体であれば、名古屋青年会議所はもはや持続不能であるという確信をもっている。しかし、第70年度の運動を見ていただければ分かる通り、名古屋青年会議所という団体はいかなる時代においてもしなやかに対応し、そして、世のため人のためにやると決めたことは覚悟をもって挑戦する胆力を持ち合わせた、素晴らしい人財の集合体である。傍から見れば、第70年度は暴風の中でのJC活動を余儀なくされたような年度に見えるかもしれないが、この苦難を共に戦いぬいたソウルメイトとの出会いは、紛れもなく生涯忘れることのないかけがえのない財産である。この様な機会をいただいた名古屋青年会議所すべての皆様へ報恩謝徳の念をもって、次なる新たな歩みをスタートすることをお誓い申し上げ、第70年度名古屋青年会議所 人財育成室室長としての総括とさせていただきます。



交流人口拡大推進室長  
鵜飼 伸弥

まずもって、当室のグローバルシティ確立委員会、国際スポーツ交流推進委員会の2委員長をはじめ副委員長、メンバーの皆様へ感謝を申し上げます。特に委員長の皆様は、新型コロナウイルス感染症の影響で当初掲げた計画に大幅な変更があったが、そのような状況下でも真摯に向き合い、それぞれに葛藤や苦勞もあったが、個性豊かに委員会を統率し素晴らしい事業、例会を開催していただいた。

松岡委員長率いるグローバルシティ確立委員会の担当するJCフェスティバル例会の開催副主管では、フォトゲイニングを通じ、参加者に改めて名古屋の魅力を確認、発信していただいた。グローバルシティを確立する事業では、熱田地区 photo まち巡りでレンタサイクルの有効性を示したと共に、熱田地区の魅力を見ることができた。新型コロナウイルス感染症対策に関する支援事業では、医療従事者へ防護服、マスクの寄贈を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で外国人に名古屋の魅力に認識していただくことはかなわなかったが、今事業例会を通じて発信された名古屋の魅力が外国人観光客の目に届き、一人でも多くの観光客

が名古屋に来ていただけることを願う。三宅委員長率いる国際スポーツ交流推進委員の担当するJCカンファレンス例会の開催副主管では、基調講演、パネルディスカッションを通じてアジア競技大会の開催効果について示し、持続可能な都市へと発展させていくことを提唱した。スポーツを通して国際交流を推進する事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、名古屋に各国の小学生を招いての事業ができなかったが、インターネット上で、日本・韓国・タイ・インドネシア・ウズベキスタンのチームが参加した esports 大会を実施した。世界各国の参加者・視聴者がつながり、各国の青年会議所の活動を動画で配信し、ブランディングにつなげた。

新型コロナウイルス感染症により、松岡委員長、三宅委員長は大変な困難い立ち向かい、できこないことに挑戦してきた。現在も立ち続けているその姿が、高い壁を乗り越えた証拠であると感じる。本年度の経験を活かし、皆から羽ばたき、益々の活躍を祈念申し上げます。最後に室長という担いをいただき改めて心より深く感謝を申し上げます。



関係人口拡大推進室長  
相羽 哲弘

名古屋青年会議所での現役最終年度に、関係人口の拡大推進を目的にグローバルな課題解決推進委員会・民間外交推進委員会という個性溢れる国際系2委員会を担当させていただいたことは喜びに堪えない。また、新型コロナウイルスに翻弄され、2委員会共に正解が分からぬ中、もがき苦しみがらも全ての担いと委員会運営をやり遂げてくれたことに感謝を申し上げます。

4回目を迎えた3G-Projectで特筆すべきは、開催直前まで参加員に苦しみ従前の姿から、参加費用を設定したにも関わらず応募多数により参加学生を選抜するほどの姿へと進化させたこと、Web・対面を融合させコロナ禍に屈することなく新たな国際交流を創り上げたことである。事業報告会で学生一人ひとりから感謝の言葉を聞いた際、心を揺さぶられた会員は私だけではないだろう。事業参加学生は、誰もが共生できる社会を実現する11月例会にも登壇し、事業での国際交流やグローバルな課題に対するアクションの発表と共に、障がい者との共生についてはつらつと発信し、市民に理解を促してくれた。この例会は名古屋市長障害者スポーツセンターとの3者連携共催であり、当会議所例会予算を上回る協賛を預かり開催し、新た

な例会の在り方を実証してくれたことを付け加えておく。

会員が国際ビジネスを入口として、民間外交の必要性を感じることを目的に開催した6月例会では、対内かつWEBならではの趣向を凝らし、ラップを用いた国際ビジネスの必要性訴求や海外ビジネスを実践する当事者との直接対談を実施し、リアル開催に劣らぬ臨場感や躍動感と共に、国際ビジネスとその先の民間外交の必要性を伝えることができた。また、民間外交を推進する事業では海外進出を成功させた中小企業の実例紹介に加え、姉妹JCとのビジネスマッチング会や韓国企業とのWeb商談会を実施し、参加者が国際ビジネスを身近に感じるような機会を提供できた。なお、姉妹JCと当事業を合同開催したことは、姉妹JCとの新たな連携の形を創った成果であると考えられる。

結びに、自覚はさておき厳しい室長と評された一方で、寺嶋・杉原両委員長を始め委員会メンバーが達成感に満ちた光景を目にするにつれ、室長冥利に尽きず皆様に感謝申し上げます。できこないことに挑戦し、因らざる新たな形の運動を見出してくれたことは、名古屋青年会議所の今後の国際に生かされる、つまり持続可能な国際運動につながることを確信している。



総務室長  
杉山 浩子

当室は、名古屋青年会議所が市民意識変革団体として今後も社会に求められる組織であり続けられるよう、先達から紡がれてきた伝統と精神を引き継ぎながらも、時代に合わせて変えるべきところは変え、持続可能なものとなるように活動をやってきた。総務室としての担いは大きく分けて2つあり、組織を円滑に運営する上での潤滑油となること、そしてすべての運動が最大限の効果をもって適切に発信されるものとなっているか総務・財務両面からのチェックを行い、運動をサポートすることである。本年度は、奇しくも新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業・例会のみならず、諸会議・委員会運営に至るまで例年通りの形で進めることができず、新たな形を模索することとなった。

諸会議はWEB上での開催となり、例会もWEB上、事業も対面で実施できないなど、誰も今まで経験したことがない状況に陥ったが、このような状況下でも現状を悲観することなく、様々な工夫を凝らして構築された議案書によって名古屋青年会議所の底力を感じさせていただいた。また、SNSを利用した対外広報活動だけでなく、WEB上での事業・例会は長期

にわたって情報が発信される可能性が高いため、コンプライアンス・適切性といった観点から細心の注意を払ってチェックを行った。そして、名古屋青年会議所が今後も持続可能な組織となるよう、組織の根幹である定款・諸規程について見直しを行った。単年度制である青年会議所活動の中で、次代が困難な状況に陥った際にも迷うことなく、まちの未来に向けてそのエネルギーを費やせる形に、定款・諸規程の改定や規程の追加を行えたことは、第70年度総務室としての誇りである。

諸般の事情により、5月以降は総務委員長不在のままに総務室の運営を行うこととなったが、すべての事業・例会、組織運営を円滑に進めることができたのは、このような状況にも屈せず主体的に動いていただいた総務委員会の皆様、総務グループ長としてグループをお支えいただいた土屋常務理事、与えられた担い以上の働きを見せてくれた秋元委員長をはじめとする財務委員会の皆様、そして裏側からいつも支えて下さった事務局の皆様のおかげである。第70年度という節目の年に、総務室として様々な挑戦をさせていただいたことに感謝申し上げます、1年間の総括とさせていただきます。



出向役員  
深澤 和将

JCI2019-2020APDC 開発担当役員として、また公益社団法人日本青年会議所に兼務委員として出向させていただきました。2019-2020は、ラオス・スリランカ・タイ・ミャンマー・ニュージーランド・ベトナム・東ティモールと7つのターゲットカントリーがあり私は東ティモールを担当させていただきました。

主な活動内容としては、東ティモールには会員数約30名のJCIデリーの1ロムしかありませんでしたので、会員拡大をするためにJCIの意義や目的やメリットについてのプレゼンテーションを学生や社会人を集め開催させていただきました。また、新たなロムを作るべく近郊の街に出向き同じくJCIについてのプレゼンテーションを開催させていただきました。2016年に誕生したロムということもあり、行政や関係諸団体とのつながりを深めるために、市長やJICAなどを訪問し、JCIへの理解と、会員拡大や事業に対して持続的に協力していただくことを依頼し、関係性を深めさせていただきました。

APDCの任期が2019年6月から2020年6月というこ

とで、年が明けてからはコロナの影響を受けてしまい、予定していた現地での事業は参加することができませんでした。WEBを用いての定期的なミーティングや事業実施に対してのアドバイスやフォローをメインに活動させていただきました。

また、2020年度の京都会議では、APDCの認知を高めることを目的としてAPDCの概要を簡単にまとめたポスターや各担当国での活動内容や特産物などをブースを出展させていただきました。

さらに、金沢会議では、セミナーの時間をいただき、JCIモンゴルがAPDCのサポートを受け、JCIに正式加盟するまでの軌跡をテーマにAPDCセミナーを開催させていただきました。2019年度浅野理事長をはじめとさせていただきます貴重な時間となりました。

最後に、このような素晴らしい国際の機会をいただくと共に、約1年間の出向に対してのご支援とご理解をいただきました。2019年度浅野理事長をはじめとさせていただきます名古屋青年会議所の皆様へ深く感謝を申し上げます。



出向役員  
早矢仕 友幸

公益社団法人日本青年会議所2020年度国際グループアジアアライアンス構築委員会に委員長として出向させていただきました。アジア太平洋地域の急激な経済発展が著しい現在、より積極的な国際交流が必要とされ、互いの国の発展のために協力、意見交換などが重要となっています。また、近隣のアジア諸国では、歴史問題や安全保障に関して緊張が深刻化している中、恒久的な平和を目指す我々が率先して取り組む必要があります。アジアの経済発展が著しい現在だからこそ民間同士の国際交流を積み重ね、友情を深く相互理解を深め、将来にわたって共存共栄できる関係を構築し国益へと広げていくことが必要であると背景から、当委員会では、アジア太平洋地域の平和と安定に向けた人的なつながりを強固なものとし、国際的課題を共有することで、アジア太平洋地域における国際交流と恒久的な平和の確立、新たな未来志向の友好関係を構築することを目的として活動してまいりました。

具体的には、アジア太平洋諸国NOMとの友好関係構築及びJCIAPDC・合同常任理事会のサポートを行いまし

た。特に、各国新年式典や京都会議・金沢会議において、各国のJCIメンバーと国際交流を深めアジア太平洋地域における民間外交の一翼を担いました。新型コロナウイルス感染症が広がり海外渡航が制限されてからは、アジア13か国のNOM会頭と石田会頭のWEB対談を行い、パンデミック状況下においてJCIのネットワークを生かしたリアルタイムな現地情報を交換することで、互いに連携をしていくための礎を築きました。また、「#Work together!」の精神を広めるためにアジア友好「まずはお互いを知ることから始めませんか」をテーマとした10分間の短編映画「ハンペン」を制作しました。制作に際しては、協賛金及びクラウドファンディングを活用して目標であった770万円を達成し、完成した映画は、日本全国、世界に向けて100万人以上に拡散しました。全国から当委員会へご出向いただいたメンバーの皆様のご協力のもと、事業を作り上げることができました。最後に、1年2か月にわたり多大なるご支援とご協力をいただいた光田理事長をはじめとさせていただきます名古屋青年会議所の皆様へ改めて厚く御礼を申し上げます。

# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

例会報告

## 1月例会

## 新年賀詞交歓会

## 開催日

2020年1月14日(火)

## 開催場所

名古屋観光ホテル 曙の間

## 担当

総務委員会



2020年1月14日(火)、名古屋観光ホテル曙の間において、公益社団法人名古屋青年会議所の1月例会新年賀詞交歓会が開催されました。

当日は、自治体・関係諸団体・報道関係・日本青年会議所・各地青年会議所・姉妹JC・特別会員の方にご参列いただき、第70代理事長の光田侑司君より第70年度の運動方針である所信の表明をさせていただきました。

第70年度は「持続可能な名古屋をつくろう!!」をスローガンに掲げ、「持続可能な経済の構築」・「持続可能な人財育成」・「国際社会との持続可能な連携」・「持続可能な組織づくり」の4つを柱に市民の皆様に明るい豊かな社会を築くため、公益社団法人名古屋青年会議所と関係諸団体と共にして年間を通した協力体制を築き、より良い運動を展開してまいります。

ご参列者の代表挨拶では、公益社団法人日本青年会議所副会頭 岡村徳久君より1年間の運動成功祈願や会員に対する激励をいただきました。また、来賓の代表挨拶では中部地区を代表する愛知県知事大村秀章様、名古屋市長河村たかし様より祝辞と激励の言葉をいただき、会員の意欲の向上や公益社団法人名古屋青年会議所の今後の活動への期待感を感じることができました。



## 2月例会

## 開催日

2020年2月16日(日)

## 開催場所

ウインクあいち 大ホール・会議室 1303

## 担当

経済民確立特別委員会

## 2月フォーラム「～みんなが活躍できる社会



2020年02月16日(日)、ウインクあいちにおいて、公益社団法人名古屋青年会議所の2月フォーラムが開催されました。

第70年度は「持続可能な名古屋をつくらう!!」をスローガンに掲げています。2月フォーラムは、まちを構成する経済・人財・国際という要素をより良くし、人財・国際の観点から多様性を受け入れて国際交流を深めると共に、健全な成長を継続する地域経済をつくるための意識づけをする契機とすることを目的として開催されました。

当日は、公益社団法人名古屋青年会議所の第70代理事長である光田侑司君による挨拶の後、少子化や超高齢化社会に伴う生産年齢人口の減少という問題への対応の必要性を想起させるオープニング映像で幕を開けました。

国際をテーマとするサブフォーラムでは、原田宗彦氏(早稲田大学スポーツ科学研究部教授)による基調講演と原田宗彦氏・山口素弘氏(元サッカー日本代表)・中尾美樹氏(元水泳選手・2000年シドニーオリンピック銅メダリスト)による鼎談を通じて、2026年アジア競技大会の開催を控えた中で名古屋が目指すまちの姿や地域活性化・名古屋の魅力・国際交流といったテーマについてお話いただきました。

人財をテーマとするサブフォーラムでは、厚切りジェイソン氏



## へ～持続可能な名古屋をつくらう!」



(ワタナベエンターテインメント)・近藤秀将氏(行政書士法人KIS近藤法律事務所代表)によるトークディスカッションを実施し、積極的に優秀な外国人を雇用することの必要性をお話しいただくと共に、これからの時代における外国人雇用のあるべき姿について白熱した議論が交わされました。

経済をテーマとするメインフォーラムでは、青野慶久氏(サイボウズ株式会社代表取締役)による基調講演をいただきました。チームとしての強さをもちながら、一人ひとりの個性を活かすことができる組織・働き方の多様化についてお話いただきました。新たな時代が訪れる中で、経営者・従業員それぞれが時代の変化に即した意識をもつと共に、チームの多様化を受け入れるために会社のビジネスモデルを見直す必要性について、参加者にとって大きな学びとなる内容の講演であり、会場からは万雷の拍手が送られました。

各フォーラムを通じて、経済・人財・国際という観点からまちをより良くしていくために必要となることを確かに伝え、参加者に持続可能な名古屋をつくるための意識が醸成されたことを実感することができました。



3月  
例会

## 開催日

2020年3月16日(月)

## 開催場所

愛知大学名古屋キャンパスグローバル  
コンベンションホール

## 担当

リカレント教育推進委員会

## 3月フォーラム「人間力大賞を表彰する例会」



2020年3月16日(月)、愛知大学名古屋キャンパスグローバルコンベンションホールにおいて、公益社団法人名古屋青年会議所の3月フォーラムが開催されました。

名古屋人間力大賞とは『名古屋のまちで社会貢献活動を積極的に実践している「人間力」あふれる若者を発掘する』ことを目的とした賞です。2017年、2019年と続いて3回目の開催になり、総勢15人が応募し、第一次選考を通過したファイナリストが名古屋人間力大賞のグランプリ受賞をめぐり最終プレゼンを行いました。海洋プラスチック問題に“かわいい”アクセサリーの制作販売からアプローチする山崎姫菜子氏、伝統工芸のワークショップを通じて多文化交流を図るダルモマイケル氏、正しい職業観をもった教育者育成活動を行う吉川直樹氏、環境都市名古屋を発信すべく活動する伊藤勝利氏、ヒューマンビートボックスを通じて社会福祉貢献を行う目黒雄大氏、の5人が最終選考に挑みました。

それぞれの思いがこもったプレゼンの結果、グランプリは海洋プラスチック問題を扱った山崎氏が受賞しました。

「世の中のためになることを楽しみながら行っていきたい」と受賞の言葉を述べておられます。審査員を代表して講評を行ったのは2018年にJCI日本主催の人間力大賞(2019年より「TOYP大賞」)グランプリを受賞した尾中友哉氏です。

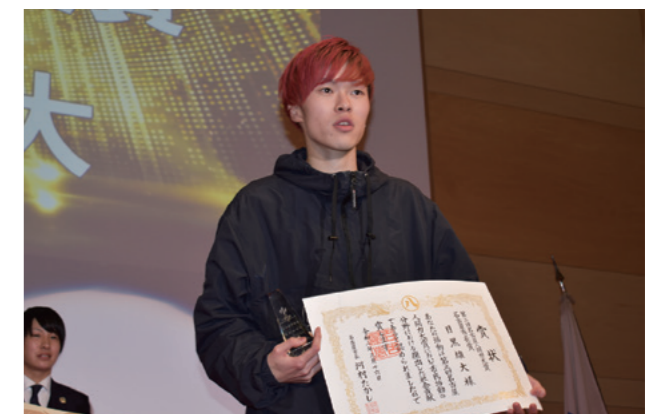


「SDGsや社会貢献を強く意識せず、自然体で活動に取り組まれた結果がそうになっている方がたくさんいらっしゃいました。」と語っていただきました。

審査の間に「人生100年時代の生き方」と題し、元F1ドライバーで現在は社会福祉施設を運営している山本左近氏、名古屋市立大学の鶴飼宏成教授で対談が行われました。山本氏は特にパラレルキャリアの重要性、鶴飼氏はリカレント教育の重要性をそれぞれの視点から語っていただきました。

閉会に際し、オーケストラ演奏を聞いたことがない子供たちに音楽を届ける団体 Worldship Orchestra による演奏を行いました。オープニングでは、東京オリンピックのファンファーレで会場を華やかに盛り立てました。そしてエンディングでは、実際に公演で演奏している曲目に加え、「栄光の架橋」、そして東日本大震災復興支援曲「花は咲く」を演奏し、人間力大賞受賞者・ファイナリスト・参加者たちに、エールを送りました。

人間力大賞と銘打つだけあり、それに相応しい団体の素晴らしい演奏とともにフィナーレを迎えました。



## 5月例会

## 5月フォーラム「職場環境を整えて持続可能な会社をつくろう!～家事・育児分業の促進が会社を変える～」

## 開催日

2020年5月14日(木)

## 開催場所

Web上 (Zoom 使用)

## 担当

ジェンダー平等社会構築委員会



2020年5月14日、名古屋青年会議所会員を対象に5月例会が開催されました。

当日は、最初に、テレワークの導入・運用をサポートする株式会社ワークスマイルラボの石井聖至氏より、多様な働き方を導入することで人財不足解消・離職率の低下に役立てられるとお話いただきました。次に、「優秀人財を定着させるアプリ」を提供する株式会社シンクスマイルの新子明希氏より、若手育成や企業風土改革のためには、現場レベルでの活発なコミュニケーションが必要不可欠であるとお話いただきました。最後に、働き方改革のコンサルタントを行う株式会社ワーク・ライフバランスの堀江咲智子氏より、愛知県では女性人財が十分に活用されておらず、会社の活性化のためには、労働時間を減らして社員の付加価値を高め、権限移譲による自発的な社員を増やすことが必要不可欠であるとお話いただきました。そして、オンライン投票の結果、最優秀賞は株式会社ワークスマイルラボに決定しました。

「家族を最強チームにするミーティングシート」が企業にもたらすメリットについて、家事シェア研究家の三木智有氏とシートの実施にご協力いただきましたアウラインターナショナル株式会社代表取締役の右近雅也氏との対談を行いました。働く女性が増える中で、社員の幸せを実現するためには、会社

## な会社をつくろう!～家事・育児分業の促進が会社を変える～」



内の評価だけではなく、家庭内での事情を考慮することが重要であり、その結果、離職率の低下やモチベーションの高い社員の育成につながることで、また、男女共に互いが相手を気遣って、家事・育児に時間を使うことで、充実した家庭環境が生まれることを語っていただきました。

会員の会社が求めるサービスを事前に把握し提示することで、会員に当事者意識をもたせると共に、オンライン投票やリアルタイムでのコメント入力、プレゼンテーション企業と連絡を後日取り合うことのできる仕組みを提供し、ただ聞くだけではない双方向型の新しい例会となりました。また、会員が参加しやすいリモートでのオンラインによる開催形式を取り入れました。これら既存の手法に捉われない新しい試みの結果、多数の会員が参加し、会社・家庭におけるワーク・ライフバランス実現への重要性を認識する機会となりました。





# 6月例会

## 6月フォーラム「民間外交を推進する例会」

**開催日**

2020年6月8日(月)

**開催場所**

名古屋青年会議所会館、Zoom アプリ

**担当**

民間外交推進委員会



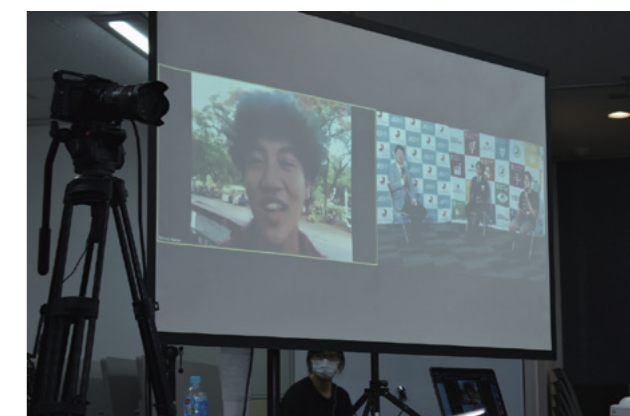
2020年6月8日(月)、JC会館、Zoomにおいて、公益社団法人名古屋青年会議所の6月フォーラムが開催されました。

本例会は、海外の方とビジネスを通じて、民間でつながることを目的として開催いたしました。当日は、公益社団法人名古屋青年会議所の第70代理事長である光田侑司君による挨拶の後、名古屋市市長の河村たかし様にもお越しいただき激励を頂きました。アフターコロナ、世界はどう変わる？持続可能な企業を目指して。世界の仲間と笑顔でつながる日へ。

今回のような緊急事態に直面しても、持続可能な経営を行っていくためには何が必要なのかを、JETRO(日本貿易振興機構)並びに中小機構のアドバイザーを務め、中小企業診断士としても活躍されている大槻恭久氏に、貴重なご講演をして頂き、民間外交の重要性についての理解を深めることができました。

海外とのビジネスをより身近に感じて頂きたく、トークセッションやラップノトルという様々な設えを用意しました。

今後、海外進出するにあたり何から始めれば良いか等の貴重なアドバイスを頂きました。



7  
月  
例  
会

## 7月フォーラム「70周年記念式典」

## 開催日

2020年7月11日(土)

## 開催場所

ホテルナゴヤキャッスル天守の間

## 担当

70周年特別委員会



2020年7月11日(土)、ホテルナゴヤキャッスル天守の間において、公益社団法人名古屋青年会議所の7月例会70周年記念式典が開催されました。

当日は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、時差来場・サーモグラフィーの導入・WEB配信の併用・動画による祝辞等、様々な対策を講じた上での開催となりました。ご来賓として、名古屋市長河村たかし様には会場までお越しをいただきまして祝辞を頂戴しました。中部経済産業局長高橋淳様、愛知県知事 大村秀章様におかれましては事前に撮影をさせていただきまして動画にて祝辞を頂戴しました。また、公益社団法人日本青年会議所第69代会頭石田全史君より来訪青年会議所を代表してご挨拶いただいたほか、海外の姉妹青年会議所からも祝賀のビデオメッセージをいただきました。その後、特別会員を代表して第21代理事長中北智久先輩よりご挨拶いただきました。最後に名古屋青年会議所の事業を発祥とする少年少女合唱団地球組のリモート合唱映像と当会議所の振り返り映像を上映しました。会員一人ひとりが名古屋青年会議所の69年間の運動並びに先達の想いを理解して、青年会議所運動への意欲を高めることができました。



## 8月例会

## 8月フォーラム「理事候補者選出選挙 立会

## 開催日

2020年8月28日(金)

## 開催場所

愛知県名古屋市中村区名駅 4-4-38

## 担当

総務委員会(運営は選挙管理委員会に一任)



公益社団法人名古屋青年会議所 2021 年度(第 71 年度)の運動の中核を担う理事を選ぶため、8月例会「理事候補者選出選挙立会演説会」をウインクあいち大ホールにおいて開催しました。次年度の理事になりたいと立候補した候補者たちは、委員会メンバーと共に、理事として相応しい考え方や立ち振る舞いを1か月の選挙期間で身につけます。その集大成となる本例会に向け、理事になりたいと立候補した候補者は全2回のコーカスに臨みました。

8月11日(火)、ウインクあいち大会議室にて行われた第1回コーカスでは、「人となり」をテーマにした2分間のスピーチ並びに質疑応答が行われました。「人となり」は、候補者が選挙期間を通して絶えず向き合わなければならないテーマです。自分は一体何者なのか、今の自分を形成しているものとは何か、何が自分を突き動かしているのかについて、候補者は委員会メンバーと共に考え、本番に臨みました。

続いて、8月21日(金)、名古屋市公会堂4階ホールにて第2回コーカスを行いました。選対長から候補者への応援スピーチの後、「名古屋青年会議所として今だからできること」をテーマにした2分間のスピーチ、質疑応答が行われました。どの応援スピーチも、候補者に寄り添い、最も多くの時間を過ごした選対長ならではの内容となりました。候補者のスピーチ

## 演説会」



においては、After コロナを見据えた名古屋青年会議所のあり方や未来ビジョンについての考えが発信されました。

理事候補者選出選挙の締めくくりとして、立会演説会を行いました。テーマは「無題」。各候補者は選挙期間の集大成を3分にまとめ、会員に向けて発信しました。本年度はコロナ禍での開催となったため、ソーシャルディスタンスを確保した座席配置とし、現地に來ることができなかった会員に向けてYouTubeを用いたライブ配信も行いました。全候補者の演説後には、選挙管理委員長 土屋勝義君の講評に続き、第70代理事長 光田侑司君から候補者に対するねぎらいの言葉をいただき、約1か月の選挙期間を締めくくりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年と異なる選挙運営を各候補者は強いられました。結果として、候補者の大きな成長につながる期間となりました。本例会に参加した会員からは、最後に候補者の声をリアルに聞ける機会があったのはとても良かったとの声を多数いただき、名古屋青年会議所の未来をすべての会員が真剣に考える良い機会となりました。



9  
月  
例  
会

## 開催日

2020年9月14日(月)

## 開催場所

なごのキャンパス 体育館

## 担当

社会課題解決人財育成委員会

## 9月フォーラム「社会課題解決×ビジネス ～



2020年9月14日(月)、9月フォーラム「社会課題解決×ビジネス～社会課題を取り組みたいあなたへ～」を開催いたしました。プレゼンテーションでは講師として学生企業家の小川嶺氏をお招きし、パネルディスカッションでは佐々木紀彦氏や名古屋青年会議所と共同事業を実施した学生たちにもご参加いただきました。

本例会は、新型コロナウイルス感染への対応のため、100名限定の事前予約制による現地開催とTwitterで視聴者から質問や意見を募り、寄せられた質問や意見をパネルディスカッションで取り上げるオンラインによるライブ配信の視聴とのハイブリット様式にて行いました。



プレゼンテーションでは、学生起業家の小川嶺氏(株式会社タイミー代表取締役)をお招きして、自身が起業を目指して活動してきた原点から、うまくいかなかった苦い経験、失敗を糧に次のサービスをつくりだすマインドについてお話しいただきました。自身の経験からつくったサービスが最近の人手不足が顕著な店舗・企業の労働力不足の解消につながると感じ、社会問題とビジネスを合致させることが重要だと語られました。「自分にとってのやりたいことと社会にとって必要なサービスが合致すればビジネスは成功する」との講評で締めくくりました。

## 社会課題解決に取り組みたいあなたへ～」



パネルディスカッションでは、パネリストに佐々木紀彦氏(株式会社ニューズピックス取締役)や、第2部に引き続き小川嶺氏、名古屋青年会議所と共同事業を実施した学生たちにもご参加いただきました。佐々木氏からは、コロナショックを経てビジネスとして評価されるためには社会課題の解決に取り組むことが重要視されているという現状についてのお話があり、その上で社会課題解決の活動を持続的に行うために活動していくことの大切さについて、意見交換が行われました。

最後に、社会課題解決人財育成委員会 安井委員長より「本フォーラムは社会課題解決の活動を持続的な取り組みとするためのビジネスの接点を探るべく開催し、名古屋の若者が社会課題解決を一步踏み出して挑戦するきっかけになれば幸いです」と締めて、本フォーラムを終えました。



10月  
例会

## 10月フォーラム「JC フェスティバル例会」

## 開催日

2020年10月3日(土)

## 開催場所

ポートメッセなごや 名古屋市国際展示場  
第2展示館

## 担当

70周年特別委員会



2020年10月3日(土)、ポートメッセなごや名古屋国際展示場第2展示館において、公益社団法人名古屋青年会議所の10月例会JCフェスティバル例会が開催されました。当日は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、時差受付・サーモグラフィーの導入・来場者のマスク着用徹底等、様々な対策を講じた上での開催となりました。メインフォーラムの冒頭には、久田勘鷗氏より、能楽の演目解説、名古屋と能楽の歴史等について基調講演をいただきました。その後、観世清和氏・野村萬斎氏・久田勘鷗氏より能楽(能・狂言・半能)をご披露いただきました。観世清和氏には能の中でも代表的な演目である「羽衣」をご披露いただきました。観世清和氏は観世流の宗家にあたり、当代随一の演じ手であり、厳かな雰囲気の中、観世清和氏が演じなければ体験できない本物の能をご覧いただきました。続いて、野村萬斎氏には狂言の中でも一般の方にも分かりやすい「佐渡狐」をご披露いただきました。能で引き締まった雰囲気の間から打って変わって、観客席からは笑い声も聞こえてきました。最後に久田勘鷗氏に半能の「石橋」をご披露いただきました。石橋の見どころと言っても良い力強い獅子舞もあって、会場は大いに盛り上がりました。一流の能楽師による能楽を観劇いただくことで、来場者の方々に、名古屋において伝統文化として発展してきた



能楽の精神を体感してもらうことができました。メインフォーラム会場内には、お茶席ブース・能楽体験ブース・協力団体ブースを設置しました。お茶席ブースでは行列ができる盛況ぶりであり、また、能楽体験ブースについても新型コロナウイルス感染拡大もあり、事前予約制としましたが、全3回とも満席となりました。協力団体ブースについては6団体にご協力をいただき、どのブースにも人が絶えない盛況ぶりでした。特に障がい者が製造したクッキーを配布するブースでは、長蛇の列ができており、SNS等での発信を通じて障がいの能力の高さを周知することができました。また、サブイベントとして、ロゲイニング「アクセシブルナゴヤ2020」を開催しました。参加者は名古屋港ガーデンふ頭臨港緑園つといの広場を出発して、名古屋市内に設置されたスポットにて写真撮影を行っていただきました。参加者はSNS等に写真を投稿し、投稿によるポイントを獲得しながら名古屋の魅力を発信いただきました。



# 11月例会

## 開催日

2020年11月14日(土)

## 開催場所

ウイנקあいち・大ホール

## 担当

グローバルな課題解決推進委員会

## 11月フォーラム「誰もが共生できる社会を現



2020年11月14日(土)、11月フォーラム「誰もが共生できる社会を実現する名古屋フォーラム～挑戦し続ける熱き勇者たち～」を開催いたしました。本フォーラムは、名古屋市・名古屋市障害者スポーツセンターとの共催フォーラムであり、その第2部を、11月例会として行いました。

テーマ1 特別対談では、パラ陸上選手である井谷俊介氏と名古屋おもてなし武将隊の織田信長氏をお招きし、テーマ2では、井谷氏・信長氏に加え、名古屋青年会議所の3G-Project 事業に参加した高校生にもプレゼンターとして登壇いただきました。フィナーレでは「上を向いて歩こう」の合唱動画を上映しました。

本例会は、新型コロナウイルス感染症への対策のため、参加者数を限定した現地開催とYouTubeによるライブ配信の視聴とのハイブリット様式にて行いました。

テーマ1では、パラ陸上選手である井谷氏と信長氏による特別対談を行いました。井谷氏からは、健常者から障がい者となった経験や、パラスポーツとの関わりなど、自身の実体験に基づく貴重かつ分かりやすいお話をいただき、参加者が障がいに対する理解を深めることにつながりました。

パート2では、織田氏・井谷氏にもパート1から引き続き参加いただき、信長氏、司会の佐野瑛厘氏のコーディネートによ

## 現する名古屋フォーラム～挑戦し続ける熱き勇者たち～



り、名古屋青年会議所の事業である3G-Projectに今年度参加した高校生からの活動報告と共生社会の実現に向けた提言を行いました。コロナ禍において海外への渡航や海外の人達との交流が満足にできない中、世界のあり方も変化していくこと、その最中にある自分たちが共生社会の実現のために何ができるのかを考えた成果を、各々自分の言葉で発表し、参加者からも大いに共感を得ることができました。

フィナーレでは、学生・障がい者の方々・名古屋青年会議所会員をはじめとする様々な方に参加していただいた、「上を向いて歩こう」の合唱動画を上映しました。コロナ禍をはじめとする不安な社会状況であるからこそ、人々のつながりで明るい未来の共生社会を創っていくことの重要性を強く意識づけることができました。

最後に、高橋雅大副理事長より、共生社会について誰もが考えて行動していくことの重要性和、今年度の名古屋青年会議所の活動へのご協力に対する感謝を申し上げ、本フォーラムを締めくくりました。



12月  
例会

## 開催日

2020年12月8日(火)

## 開催場所

名古屋東急ホテル 3階「ヴェルサイユの間」  
(メイン会場)・4階「雅の間」(サテライト会場)

## 担当

財務委員会

## 12月例会「～できっこないことに挑戦しよう～」



本例会は、2020年から始まる新型コロナウイルスの世界的流行と、第三波と目される感染者の急拡大の中開催されることとなりました。従来の社会・生活様式が劇的に変化する中で、厚生労働省の示した、『新しい生活様式』と名古屋青年会議所独自の対策の下、関係各所からの指導も受けながら、無事に開催されることとなりました。

本例会は、例年通りの式典の部と懇親会の部という二部構成でなく、式典の部、褒賞の部、卒業式の部の三部構成で開催に変更しました。また、感染リスクを下げるために、飲食を提供せず、エンターテインメントも行わない形へと変更しました。さらに、会員一人ひとりがソーシャルディスタンスを保ち、安心して例会に参加できるように、円卓形式からシアター形式の配席へと工夫を加えました。

最初に、式典の部では第70年度の活動軌跡を動画で振り返ることにより、新型コロナウイルスという未曾有の事態に対し、名古屋青年会議所が持続可能な名古屋のために、いかに『できっこないことに挑戦』してきたかを振り返りました。その後光田理事長による第70年度の活動報告並びに、次代の会員に向けてメッセージを頂戴しました。そして、第71第理事長予定者、寺田拓也君の挨拶により、名古屋青年会議所の意思を継承しました。



次に褒賞の部では、本年度の名古屋青年会議所会員の中から最も活躍した会員並びに委員会を表彰し1年間の活動をねぎらいました。光田理事長より、個人賞であるMVJは井上有香君、理事長特別賞は澤田章弘君を表彰しました。続いて委員会賞は、最優秀例会賞は70周年特別委員会、最優秀事業賞はグローバルな課題解決推進委員会、最優秀新入会員拡大賞は財務委員会、最優秀委員会賞は社会課題解決人財育成委員会、そして理事長特別賞は人財プラットフォーム探求構築委員会がそれぞれ表彰されました。

最後に、卒業式の部では登壇した卒業予定者一人ひとりから、現役会員へ向けてメッセージを頂戴すると共に出席が叶わなかった卒業予定者からも録画やZoom中継でメッセージを頂戴しました。従来では卒業予定者が花道を歩き、花束を受け取るという賑やかな形式による進行でしたが、本年は1人ひとりのメッセージに注目できる形へと変え、本来の意味での卒業式らしさを演出することができました。



# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

事業報告



名古屋青年会議所のブランドを確立する事業  
(@NAGOYA プロジェクションマッピング)

場所  
金シャチ横丁付近の@NAGOYA  
モニュメント



日程  
プロジェクションマッピングの実施:  
2020年4月30日  
ミニ番組の配信:2020年5月2日

新型コロナウイルス感染症が拡大し、社会が未曾有の事態に見舞われる中、社会に対して前向きなメッセージを発信することができないか。そのような観点から、本事業開催に至りました。

時は緊急事態宣言下。市民を集めて直接何かを伝えるということができない状況ではありません。その中で、名古屋青年会議所が見つけた大きな成果物である@NAGOYA モニュメントを活かしつつ、時代や状況に即した方法で、閉塞感だらけの社会に対して少しでも前向きになれるようなメッセージを発信しようと考え、@NAGOYA モニュメントにプロジェクションマッピングで映像やメッセージを投影し、その様子を撮影してミニ番組化することとしました。

収録の様子は新聞2紙に取材されたほか、YouTubeにて公開したミニ番組は日本青年会議所のウェブサイト「We Believe Web」でも紹介され、社会に広くメッセージを発信することができました。また、@NAGOYA モニュメントの新たな活用可能性を示すことができ、今後のブランディングの方向性の1つを示すことができたという点でも、意義ある事業であったと考えます。

担当/ 広報・ブランディング委員会

メディア等を用いた対外へのJC運動の発信

場所  
名古屋市内



日程  
2020年1月1日(水)~  
2020年12月31日(木)

名古屋青年会議所は、果たしてその存在と魅力を正しく市民に伝えられているのだろうか。この長年の課題に対して、本年度は広報とブランディングの2つの切り口から解決に挑みました。

本年度の特徴は、ディスプレイネットワーク広告というWEB広告を活用した情報発信です。通り一辺倒の情報発信ではなく、例会ごとに情報を届けたいターゲットを明確にしました。具体的には、地域・年齢層・性別や社会的属性等を明確にし、かつ、検索キーワードを設定することで、動員を図りたい属性の市民にピンポイントに広告を届けることができました。

また、効果的な広告内容や配信時期を各担当特別委員会・委員会に検討していただくために、年度の初めには広告の専門家をお招きして広報セミナーを実施しました。ブランディングとは「約束」であるとのテーマをもとに、どのように名古屋青年会議所の魅力を市民に伝えていくのか、すなわち我々が市民の皆様にお約束できることは何かということ学んでいただきました。

新しい広告手法を通じて名古屋青年会議所の存在や活動を認識した市民も多く、本年度の事業は名古屋青年会議所の周知という意味で非常に有益であったと考えます。

担当/ 広報・ブランディング委員会

名古屋青年会議所のブランドを確立する事業  
(経済情報アプリを用いた討論番組の制作)

日程  
記事配信:2020年2月6日(木)  
番組放送:2020年2月11日(火)



70年間にわたり名古屋のまちのために運動を展開してきた名古屋青年会議所の歴史や活動概要を多くの市民に認知していただき、名古屋青年会議所会員にもより深く理解していただくことを目的として、近年急速にシェアを伸ばし、経済界から注目を浴びているNewsPicksとコラボレートして、同社の看板番組であるThe UPDATEにおいて名古屋のまちづくりをテーマとした討論番組を制作しました。

番組は、メインMCである佐々木紀彦氏・古坂大魔王氏のほか、パネリストに木下斉氏(一般社団法人エアリア・イノベーション・アライアンス代表理事)・林高生氏(株式会社エイチーム代表取締役)・MEGURU氏(ZIP-FMミュージックナビゲーター)・高田淳史氏(元トヨタ自動車レクサスブランドマネジメント部長)を迎え、光田理事長を交えて名古屋のまちの未来像について熱い議論が交わされました。

番組放送に先立ち、光田理事長のインタビュー記事もNewsPicks上で公開されました。番組は70万回以上再生され、多くの方から、名古屋のまち、そして青年会議所に対するコメントが寄せられました。

担当/ 広報・ブランディング委員会

「良い会社」を創造する事業:みんなの経済「経世済民プログラム」

場所  
なごのキャンパス体育館



日程  
2020年11月23日(月)

11月23日(月)なごのキャンパス体育館において、「良い会社」を創造する事業:みんなの経済「経世済民プログラム」を実施いたしました。当事業は講義と経済カードゲームを使って、子供たちに経済の仕組みと、「良い会社」について理解していただくことを目的として行いました。

講師には株式会社ドンクルズ代表取締役の松岡慎也氏を迎え、物の生産、物の加工、商品の売買、納税、公共サービスの充実、経済の循環の仕組みを紐解いた内容の講義と、「良い会社」とは何かをテーマに講義していただきました。

経済カードゲームでは、経済の仕組みの中の物の生産、物の加工、商品の販売を疑似体験できるものとなっています。

参加した子供たちは各グループに分かれ、各グループが一つの会社となり、他社と協力しながらお金を増やしていく姿は「良い会社」の体験として子供たちの心に残る事業となりました。

御同行いただいた保護者の方たちからも、子供の経済教育の場の必要性に気付いていただき、称賛の声を多数いただくことができ、大成功で事業を閉会することができました。

担当/ 経世済民確立特別委員会

優秀な外国人材と多様性を求める企業をつなげる事業

日程  
2020年11月2日~11月5日



当委員会は、少子高齢化等を原因とする将来的な働き手不足に対応するために、高度外国人材の積極的な雇用を促進するための事業を実施しました。

新型コロナウイルスの影響もあり、当初予定していた会場を借りてのセミナー等は実施できませんでしたが、WEBを用いての外国人雇用促進セミナー及び外国人雇用フォローアップセミナー動画を配信し、11月には外国人留学生のインターンシップも開催することができました。

単純労働者ではない優秀な外国人材の雇用は、名古屋の中小企業ではほとんど行われていません。しかし、それは経営者が必要性を感じていないからではなく、外国人材とのつながりをもつ機会がないことが主な原因です。当委員会の事業において、インターンシップ受け入れ企業2社は、いずれも外国人材に対するインターンシップを始めて行った企業です。いずれの企業からも参加した外国人材の日本語のレベルの高さや意欲的な姿勢に驚いたとの評価をいただいています。

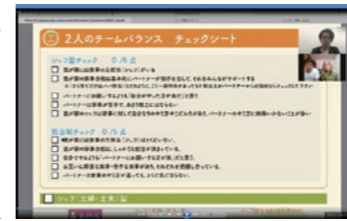
本事業をきっかけにして、名古屋のまちにおける優秀な外国人材の雇用が促進されることを期待しています。

担当/ 人材プラットフォーム探求構築委員会

ジェンダー平等社会を実現する事業

場所 WEB上、名古屋青年会議所

日程  
【WEBセミナー】  
①しみけんはあちゅう夫妻 2020年9月17日(木)19:30~20:30@ほっさくら  
夫妻 2020年9月28日(月)19:30~20:30  
【愛知県並びに名古屋市との報告会開催】  
2020年10月27日(火)16:00~17:00



本事業は、家事・育児分担の男女間格差を是正し、家庭内での話し合いを促進させ、男女相互のライフプランを実現させるための時間をつくりだすことを目的として実施されました。

事業は、最強チーム家族~家族を最強チームにするミーティングシート~を作成し、多くの市民が家庭内での話し合いのきっかけをつくりだすために、WEB上にてミーティングシート実践のためのセミナーを2回開催し、結果報告のための愛知県並びに名古屋市との報告会を開催しました。推進方法としては、企業や団体にミーティングシートの有用性を伝え、企業や団体に広く実践していただきました。WEBセミナーでは、SNSに影響をもつ講師を選定することで、効率的にミーティングシート実践を促進することができました。

話し合いを促進する仕組みを作ることは比較的簡単ですが、実践していただくことが難しいです。新型コロナウイルスの影響によって、企業や団体に訪問することが難しい状況の中においても諦めずに実践を推進した名古屋青年会議所会員の行動力によって、目標7,530名(3,765世帯)という数多くの市民に対して、ミーティングシートを実践していただくことができました。

担当/ ジェンダー平等社会構築委員会

障がい者も1人の人材として活躍する事業

場所  
WEB販売



日程  
2020年2月~2020年10月

福祉施設と一般企業が連携し、商品の共同開発・販路拡大に関心があがり、すでに菓子製造を行っている障がい者就労支援事業所を募集するため、名古屋市に協力を依頼し、市内の障がい者就労支援事業所を公募しました。応募いただいた事業所の中から「社会福祉法人名古屋手をつなぐ育成会 サポートセンター being 桜山」を選定し、本事業はスタートしました。

2月初旬から、菓子製造の専門家として丹羽萌子氏(SweetsHERO)にご協力をいただき、新商品「サクッキー」開発に向けて会議を重ね、原材料や商品内容の改善を行いました。また、パッケージデザインは相山女学園大学・生活環境デザイン学科の学生に依頼し、旧来商品からデザインを一新しました。

さらに、今までは福祉イベントでしか販売機会がなかったため、EC機能を設けたWEBサイトを立ち上げ、ネット購入できるようになりました。これにより、販売の機会が飛躍的に拡大し、売上向上することで障がい者の方々の収入向上につながります。

本事業は、福祉施設と一般企業におけるマッチング事例として大きく前進することができました。

サクッキー HP <http://www.sacookie.net/>

担当/ 雇用格差解消実現委員会

SDGs未来都市を軸にした社会課題を解決する人材を育成する事業

場所  
【事業立ち上げセミナー】JC会館  
【人間力大賞受賞者との交流会】JC会館



日程  
【事業立ち上げセミナー】  
2月15日(土)14:00~16:00  
【人間力大賞受賞者との交流会】  
10月15日17:00~19:00

名古屋の若者が社会課題に取り組む土壌を創出するべく、当委員会は事業を行ってまいりました。

2月に社会課題解決事業の立ち上げセミナーを実施し、学生が考えた社会課題を解決する事業案を非営利型一般社団法人Nancyと名古屋国際高校Sus-teen!からいただきました。そして両団体の事業案をブラッシュアップして共に事業をつくり上げていきました。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大もありましたが事業は継続して行い、Nancyとは子供たちに対して多種多様な職業体験を通じて働くことの楽しさや難しさを学び、Sus-teen!とは名古屋の魅力や市民の皆様を再認識してもらうようなSDGsに関連した商品を探索、開発しその商品を提供するWEBショップ「ええがやナゴヤ」を出店しました。

両団体と共に進めた事業を9月フォーラム「社会課題解決×ビジネス~社会課題に取り組みたいあなたへ~」にて発表し、既に社会課題の解決に取り組む活動を行っている方々と共に社会課題を解決する事業の必要性と継続性を周知しました。

担当/ 社会課題解決人材育成委員会

## リカレント教育を推進する事業

場所 JC会館

日程【第1回モニター選考会】2020年4月10日(金)【第2回キャリアカウンセリング】2020年5月15日(金)【第3回学び直し体験】2020年5月21日(木)・6月18日(木)・7月15日(水)【第4回学び直しの成果測定】2020年7月29日(水)【第5回提言内容の発表】2020年8月20日(木)



本事業では、リカレント教育の必要性や学び直しの機会を市民が年齢に関わらず得られやすくするために何が必要であるかを行政に提言しました。

そのためにも、参加者に学び直しを体験してもらい、そこにどのような課題があって、どのように解決すべきかを自ら検証し、抽出して、提言としてまとめました。

事業の参加者は、3月例会の参加者を中心に、9名を選考し、学び直しを体験しながら提言内容の議論を行いました。

まず4月に選考面談を実施してモニターとなる9名を選定し、5月にキャリアカウンセリングを実施して、学び直しの目的意識を明確にしました。その後、学び直しの体験として、社会起業大学の協力でカリキュラムやグループワークを行い、学び直しの成果測定をしました。学び直し体験の前後で、実際にどのように意識が変わったのか、再びキャリア形成の専門家と話し、発表を行いました。

それらの発表や課題点を検証した結果、学び直しのサポート窓口となる機関や制度の創設と、リカレント教育の認知啓蒙を市民に働きかけていくことを、名古屋市へ提言しました。

担当/リカレント教育推進委員会

## オリエンテーションガイダンスの実施

場所 第1回:JC会館、第2回:吹上ホール第3回:吹上ホール、第4回:吹上ホール



日程 第1回:5月13日(水)、第2回:6月20日(土)、第3回:9月10日(木)、第4回:11月2日(月)

本年度もオリエンテーションガイダンスを第1回～第4回まで実施しました。ただ例年と違い、新型コロナウイルス感染症状況下での厳しい開催となりました。特に第1回ガイダンスでは、まだ名古屋青年会議所自体がこの新型コロナウイルス感染症状況下でのようなスタンスで向き合うのか定まっていなかった状況での開催となりました。どうしたら新型コロナウイルス感染症にかからずガイダンスを実施できるかを徹底的に考えた結果、感染者・クラスターを出すことなく第1回ガイダンスから第4回ガイダンスまで問題なく実施することができました。また、第2回のイベントでは例年通り塾生の一喜一憂の盛り上がりを見ることができました。例年行われている塾事業に関しても新型コロナウイルス感染症状況下で行える最大限の事業を検証し実施しました。

そして、このオリエンテーションガイダンスは第1回より「誰1人取り残さないオリエンを目指して」というスローガンを掲げています。退会者0人を目指し、質にこだわった活動を行った結果、この新型コロナウイルス感染症状況下にも拘わらず退会者は10%にとどまり、各ガイダンスも平均81%と高い出席率を保つことができました。

担当/オリエンテーション特別委員会

## 第70年度副委員長セミナー

場所

松風園  
(愛知県蒲郡市三谷町鷹決14-4)

日程

2019年10月26日(土)13:00~18:30  
2019年10月27日(日)8:30~11:40



名古屋青年会議所運動の中核を担う副委員長予定者の皆様へ、これから自らが責任と役割を理解し、率先して行動できる人になっていただくため、副委員長セミナーを開催させていただきました。

ここでは、副委員長予定者の皆様第70年度名古屋青年会議所の運動の方向性と意義を学び、組織の大きな原動力となる機会を得ることを目的としております。

セミナー内容は委員会設営に必ず必要とされる「組織体系・募集・議案・会計・広報・事業構築・例会構築・委員会運営」について実際に委員会を運営されてきた専務理事・理事経験者の方々に講師をしていただきながら実践的な教育が行われました。

また、従来の副委員長に必要とされている委員会内での立場や役割の理解に加え、これから必要とされるSDGsについての知識をSDGsマスターの資格をもつ小池健太郎氏(一般社団法人 蒲郡青年会議所 所属)にお越しいただき、ディスカッションを交えた参加形式のセミナーを行っていただくことで、より深くSDGsへの取り組み方・発信の仕方について理解していただける様な工夫を行いました。このSDGsに対する教育の機会は今後もこの副委員長セミナーに必要と感じました。

担当/オリエンテーション特別委員会

## 交流人口拡大三種の神器を確立する事業

場所

熱田地区内  
YouTubeによる配信

日程

2020年2月~11月



本事業は、まちの受入体制の整備と名古屋の魅力の認識と発信により、グローバルシティを確立することを目的としました。

熱田地区をモデルとし、受入体制の整備については、Wi-Fiの導入による通信環境の改善、レンタルサイクル導入による移動手段の確保、様々な食文化への対応によるフードダイバーシティの取り組みの3つを掲げました。Wi-FiではWi-Fi付きの自動販売機を活用し、設置やランニング等の費用面での負担を軽減する提案を行いました。レンタルサイクルについては、まち巡りに際して利用していただき、有用性を検証しました。フードダイバーシティについては、動画配信によるセミナーを飲食業者に視聴していただき理解を深め、取り組みを可視化できるようにマークを学生と共に作成しました。

魅力の認識と発信については、まち巡りとInstagramの投稿を行いました。熱田地区の魅力を確認してもらい、#visitnagoyaを投稿することで発信を行うことができました。

グローバルシティの確立には様々な要素が必要ですが、本事業を通してその一歩を踏み出すきっかけになれたと自負しています。

担当/グローバルシティ確立委員会

## スポーツを通して国際交流を推進する事業

場所

コミュファ eSports Stadium  
NAGOYA

日程

2020年10月17日(土)、  
10月18日(日)



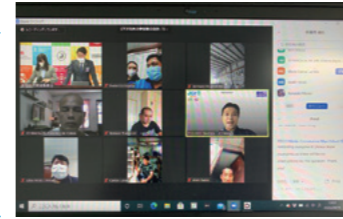
2020年10月17日(土)・18日(日)、2日間に渡り、eFootballオンライン世界大会を開催しました。本事業は、新型コロナウイルス感染拡大により、国を越えた人の移動や集まりが規制され、国際的な活動が中止に追い込まれている昨今の社会情勢においても、eSportsを通じて世界人々がつながる機会を発信・創出することを目的に開催しました。17日は、国内チームによる予選が行われ、翌日の国際交流試合への出場チームを決定しました。翌日18日には、日本・韓国・タイ・インドネシア・ウズベキスタンから1チームずつの計5チームによる対戦が繰り広げられ、インドネシアチームの優勝で幕を閉じました。試合の様子は、ライブ配信を行い、多くの方にご覧いただきました。17日には、名古屋グランパスエイト所属eスポーツアンバサダー兼バラeスポーツアシートのラハト選手と愛知eスポーツ連合の酒井聖太選手、18日にはラジオDJとしてご活躍 MEGURU氏、元サッカー日本代表の北澤豪氏、インスタグラビア女王でInstagramフォロワー97万人を誇る似鳥沙也加氏にお越しいただき、実況・解説にご参加いただきました。

担当/国際スポーツ交流推進委員会

## 民間外交を推進する事業

場所 名古屋青年会議所会館、Zoomアプリ

日程 <第1回>大槻恭久氏による国際ビジネス事業構築プレゼンテーション2020年9月1日(火)13:00~15:00<第2回>韓国KOTRA事業 2020年9月15日(火)~2020年9月30日(木)の期間の中で個別日時設定<第3回>パンデミックに関するビジネスマッチング事業 2020年9月29日(火)13:00~15:00



本事業は事業をきっかけに国際ビジネスへの視野を広げ、国際ビジネスを通し、民間同士でつながること、またJCIネットワークを利用し、国際ビジネスを通し、海外の人とつながることを目的として実施されました。

事業は3回に分けて行いました。第1回の大槻恭久氏による国際ビジネス事業構築プレゼンテーションでは、国際ビジネスの具体的な手法や商談方法について学ぶことができました。第2回の韓国KOTRA事業では、興味のある商材のアンケートを実施し、個別でWEB商談会を実施しました。第3回のパンデミックに関するビジネスマッチング事業では、JCIマニラ会員・行政関係者を含むマニラ市民へ感染症対策について講義を行いました。また、どのような商材が感染症を予防するのか学んでもらい、名古屋市企業とJCIマニラ会員・行政関係者を含むマニラ市民のパンデミックに関する商材のビジネスマッチングにつなげました。

JCIネットワークを利用して、国際ビジネスを通し民間同士でつながることができました。また渡航できない時期でもオンラインで海外とつながることができることにより、これからの国際事業の可能性を感じることができました。

担当/民間外交推進委員会

## グローバルな課題を解決する人財を育成する事業

場所

名古屋JC会館ほか

日程

STEP1 2020年7月25日(土)  
STEP2 2020年8月10日(月)  
STEP3 2020年8月29日(土)  
STEP4 2020年9月19日(土)  
STEP5 2020年10月24日(土)



名古屋青年会議所が2017年度(第67年度)から継続して実施している国際交流事業「3G-Project」。本年度も、名古屋市や近隣に在住する高校生と、姉妹JCがある国の学生を対象に実施しました。当初は参加者に一定の参加費用を負担していただき、海外渡航を含めた形での実施を計画していましたが、新型コロナウイルスの影響により、海外渡航ができなくなってしまったことから、WEBを活用した国際交流の形に切り替え、実施いたしました。

学生の皆様には、STEP1からSTEP5までのプログラムを通じて、交流を深めながら、Withコロナにおける社会のビジョンについて議論を交わしたり、リーダーシップのあり方を学んだりしていただきました。

本事業にご参加いただいた学生の方々には、11月フォーラムにて、事業での学びの成果を発表していただきました。学生からは、「自分とは違った意見や考え方もつなげることができた」など、ポジティブな意見が多く発表され、海外渡航が許されない環境下においても学生たちに貴重な経験をさせていただくことができました。

担当/グローバルな課題解決推進委員会

## 新型コロナウイルス感染症対策に関する支援事業

場所

一般社団法人名古屋市医師会館

日程

2020年6月24日(木)



新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療従事者へ感謝を伝え、医療崩壊を防ぐための支援をすると共に、その必要性を市民に周知することを目的として、本事業を実施しました。

一般社団法人名古屋市医師会へ防護服150着・マスク6,000枚を医療従事者への感謝を表したメッセージと共に寄贈しました。マスクの一部は5月11日に実施した「ウズベキスタン慈悲健康基金の送金」の礼品としていただいたものであり、医療用品が品薄な中、名古屋青年会議所のネットワークを駆使して用意することができました。

また、単に寄付するだけでなく、SNSによる発信や中日新聞・中部経済新聞の2社に記事として取り上げていただくことで、医療崩壊を防ぐための支援とその必要性を市民に広く周知しました。

本事業を通して、世界的に大流行している新型コロナウイルス感染症という喫緊の課題に対して、名古屋青年会議所の特性を活かした支援を実施することができました。

担当/グローバルシティ確立委員会

# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

会議体報告

## 持続可能な JC 探究会議

変化の激しい現代において、時代に合わせた持続可能な組織運営をしていくことが欠かせません。そこで、現在の組織の課題や今後組織として向かうべきビジョンや方向性を明確にし、次年度以降の名古屋青年会議所の活動に引き継いでいくため、鈴木議長の下、顧問・常任理事・理事が集まり、全8回の会議を重ねました。

会議では、5つの中心議題についての議論がなされました。最初の議題は、「理事候補者選出選挙」についてです。ブランディンググループが中心となり、誰もが挑戦できる理事候補者選出選挙とするためには、どのような課題があり、どう解決すべきなのかについて話し合われました。2つ目の議題は、「組織のあり方」についてです。経済グループが中心となり、公正に定まったルールの運用がなされ、時代に即した組織となり、効果的な運動を行うためにはどうすべきかが話し合われました。3つ目の議題は、「定款・諸規程(出席規程)」についてです。総務グループが中心となり、持続可能な組織として定款・諸規程が時代に沿った内容になっているか、また、どのような見直しが必要であれば、会員の参加意欲が向上するのかについて話し合われました。4つ目の議題は、「拡大と育成」についてです。人財グループが中心となり、「会員の質」に着目し、

多様な会員が成果を出し続けるためにはどうすべきかについて話し合われました。5つ目は、「国際会議並びに大会誘致」についてです。国際グループが中心となり、会員の国際と関わる意識と経験を向上させるためにはどうすべきかについて話し合われました。

最終的に、第11回理事会において、向こう3年間の運動指針である「サステイナブル Vision2023」についての審議がなされ、策定されました。

～サステイナブルVision2023～

- ・理事候補者選出選挙選挙について  
選挙への理解を深め、誰もが挑戦できる理事候補者選出選挙にする。
- ・組織のあり方について  
会員に対して運営のルールを周知徹底し、持続可能な体制を整える。
- ・拡大と育成について  
明確な「会員の質」の定義をもち、リーディングLOMとして相応しい会員拡大を推進する。
- ・国際会議並びに大会誘致について  
国際への風土を根づかせ、世界会議誘致に対する議論を3年間で決定する。
- ・定款・諸規程(出席規程について)  
定款・諸規程を時代に合わせ全面的にアップデートする。

担当／持続可能なJC探究会議

# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

委員会報告

## 渉外委員会

委員長  
竹腰 正見

我々渉外委員会は、名古屋青年会議所の顔であり、70年度一丁目一番地のリーディング委員会である。そういった気概を持ち年間活動を進めてきた。渉外委員会のメインの活動である光田佑司理事長をはじめとする正副団のアテンドでは、新型コロナウイルス感染症の影響によりWEB会議等に変更となり、出勤数は例年に比べ少なく、それでも正副団の皆様を光輝かせることを意識した。

予定者の頃を振り返ると次年度としての動きが困難な中でも副委員長が献身的にサポートをいただいたことで本年度がはじまることに何の不安もなくスタートが切れたからこそ、活動が思うようにできない本年度は悔やまれる1年となった。また、名古屋青年会議所より輩出された出向者の支援を担当しており、京都会議、名古屋会議、世界会議では正副団の皆様へ「できないことに挑戦する」というスローガンをもち活動した出向者への支援は本年度の情勢だからこそ、気持ちが入るものもあった。ナゴヤナイトの設営に関しては、京都会議のみ開催することができた。オープニングアクトでは獅子舞にて出向者を鼓舞することを表現し、想いを込めた支援ができた。ただ、サマーコンファレンスが中止となり、出向者の成果発表の場を名古屋青年会議所として盛大に支援することを考えていただけに悔やまれる思いはぬぐい切れないものとなった。

また、各地青年会議所との交流も少なく、愛知ブロックの会議においても理事長とオブザーブが1名といった人数制限がかかる事態となった。それでも豊



田青年会議所との豊名会では当委員会にて設営をし、格付けチェックの対決を行い、双方の正副団には利き酒、利きデザート、利き水といった様々な高級食材と一般食材との比較をし、高級食材を当てるゲームに参加していただいた。それにより豊田青年会議所と名古屋青年会議所の正副団同士の距離は深まったのではないかと考える。

委員会運営に関しては、渉外委員会として正副団アテンド、ナゴヤナイトの設営に積極的にメンバーが参加をしていただけたことで、スタッフとメンバーの距離も縮まり、顔を合わせて会議等が実施できなかった年ではあったが、開催をすると、本当に多くのメンバーにご参加いただいた。スタッフとメンバーの一体感が生まれた出来事としては、理事候補者選出選挙である。スタッフはもとより、メンバーにもZoomミーティングという形でご参加いただき、短い時間の中で候補者の応援をすることができた。候補者においては、見事当選を勝ち取り、次年度の渉外委員長を拝命することとなったことで、本年度の経験が活きることを願うばかりである。

結びに、厳しくも多くの学びと気づきと出会いのある1年をいただいた名古屋青年会議所の皆様に感謝を申し上げるとともに、ここまでささえてくれた6人の副委員長とお導きいただいた深澤アドバイザー、そして70年度渉外委員会を創り上げてくれた委員会メンバーの皆様へ心からの感謝を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。

## 広報・ブランディング委員会

委員長  
吉川 健

名古屋青年会議所の認知度向上。この永遠の課題とも言えるミッションに対し、1年間、取り組んできた。事業・例会等の広報活動においては、WEB広告（ディスプレイネットワーク広告）という新たな手法を導入し、潜在的関心層へのアプローチを試みた。SNSでは、投稿文を可能な限り簡潔なものとし、読み手視点に配慮した投稿を数多く行うことを心がけた。プレスリリースについても、統一フォーマットを作成し、記者クラブへのリリースのみならず、個々の記者への直接のアプローチも織り交ぜることで、テレビや新聞等のメディア媒体に多く取り上げていただくことができた。

新型コロナウイルス感染症の影響で人を集める形での事業・例会の多くが開催方法の変更を余儀なくされる中、広報の役割も大きく変わる事となった。当委員会としては、従前実施してきた広報活動の枠組みに捉われないこと、社会にとって有益と思われる情報を独自に発信したり、別の事業や例会とを横断的に関連させた投稿を行ったりして、名古屋青年会議所がまちのために活動している団体であるということが少しでも市民に伝わるように工夫した。

ブランディング事業においても、新しい試みを行った。NewsPicksという近年急速にシェアを伸ばしている経済情報アプリを用いて、理事長のインタビュー記事を掲載すると共に、The UPDATEというNewsPicksがもつ番組とコラボレートして名古屋のまちの未来像に関する討論番組を制作・



放映した。記事・番組は、非常に多くの方にご視聴いただき、各方面からも大きな反響があった。NewsPicksは様々な社会課題に焦点を当て、最先端の議論を展開しているメディアであり、そのNewsPicksとコラボレートすることができたのは、とても大きな成果であったと考える。新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下においては、@NAGOYA モニュメントへのプロジェクションマッピングによって、医療従事者への感謝のメッセージ等を表現した。第68年度に1基目、第69年度に2基目・3基目を制作・設置し、名古屋青年会議所のブランディングに大きく貢献した@NAGOYA モニュメントの新たな活用方法を見出し、社会の状況に合わせたタイムリーな発信を行うことができた。

70周年記念誌の作成に当たっては、スタッフと共に、歴代理事長と光田理事長との対談に同行させていただいた。各歴代理事長の想い溢れるお話の数々を側で聞くことができたのは得難い経験であった。

委員会運営においては、新型コロナウイルス感染症の影響で通常通りの委員会運営がままならない中、近藤筆頭副委員長を中心に、スタッフがつかりと委員会をまとめあげてくれた。適材適所、スタッフ各人がそれぞれの個性を活かし、毎度楽しく学びのある設営をしてくれた。11月には、自動配属メンバーが素晴らしい委員会を設営してくれた。

1年間、関わっていただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

## 70周年特別委員会

特別委員長  
木下 智靖

当特別委員会は、名古屋青年会議所の7月例会70周年記念式典の開催と70周年記念例会である10月例会JCフェスティバル例会の主管を担当させていただいた。

まず、70周年記念式典については、設立70周年の節目に名古屋青年会議所会員がこれまでの歴史を振り返り、運動の内容と先達の信念を再認識してその想いを次代へ継承することを目的として、設立50周年の際に設立された少年少女合唱団地球組による合唱・2010年以降10年間を中心とした振り返り映像の作成等の準備を進めてきた。ところが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、来場とインターネットを併用したハイブリット開催の例会として再構築することとなった。来賓挨拶一つ取っても名古屋市長河村たかし氏・日本青年会議所会長石田全史君に來場、愛知県知事大村秀章氏・中部経済産業局長高橋淳氏はWEB配信と社会情勢を受けたある意味では特色あるものとなった。また、少年少女合唱団地球組の合唱も事前に100名を超えるメンバーが個々に撮影した合唱動画を一つにまとめて上映するという手法によって、社会情勢が悪く中でも青年会議所として活動ができるということ全国の青年会議所をはじめとする諸団体に示すことができた。

次にJCフェスティバル例会では、70周年記念例会にふさわしい親世清和氏・野村萬斎氏・久田勘嶋氏という当代きっての演手に新能を披露い



ただき、新型コロナウイルス感染拡大が継続する中で実に1300名を超える市民に参加をいただいた。JCフェスティバル例会の開催に際しては、名古屋青年会議所特別会員を中心として多数の企業・団体に協賛をいただいたほか、一部の企業・団体には薪能前の時間を利用してブースを設置いただき、自社の活動や製品のPRをいただいたほか、様々な体験ブースも設置された。このブースの中には、副主管である雇用格差解消実現委員会が設置した障がい者が制作したクッキーを配布するブースもあり、長蛇の列ができる等、メインフォーラム以外も大変盛況であった。

最後に、当特別委員会は新型コロナウイルス感染拡大のため多くの運動が大幅な変更・中止を余儀なくされる中、来場者を迎えて2つの例会を開催することができた。万全な感染防止対策を講じた結果、感染者を出すことなく無事に終えることができたのは幸いであったのだが、悲観することなく、創意工夫して果敢に挑戦することで困難にも打ち勝つことができる、そのような経験を多くの会員が体感できた。この経験が2021年以降の名古屋青年会議所の運動を支えるかけがえのない財産となったと確信し、特別委員長としての所見をさせていただきます。

## 経世済民確立特別委員会

特別委員長  
高田 智仁

世を經民を救うという意味の中国の古典に登場する「経世済民」をテーマに、経済のあり方を議論し「良い会社」を増やすために1年間の活動を行った。2月に開催した例会は、第70年度の名古屋青年会議所最初の対外例会であり、「持続可能な名古屋をつくる」という第70年度の運動方針を発信・周知させることを目的として、ウイックあいちにてJCカンファレンス例会を開催した。経世済民確立特別委員会がメインフォーラムを開催し、人財プラットフォーム探求構築委員会と国際スポーツ交流推進委員会がサブフォーラムを開催した。まちを構成するすべての要素である経済・人財・国際の観点で、スポーツを通しての国際交流と人財の多様性を尊重することの重要性を認識し、健全な成長を継続する地域経済を構築することの大切さを知ることで、誰もが社会で活躍できるまちの実現に向けた意識変革の契機とすることができた。また、2月にカンファレンスという形で例会を開催することは、初めての対外例会を盛大に行い、本年度の名古屋青年会議所の目指す目標・姿を明確に示すという意味で非常に有用で意義のあるものと感じている。11月に実施した事業では、名古屋に「良い会社」を増やし、名古屋の地域経済が健全な成長を継続することを目的として、なごのキャンパスにて「良い会社」を創造する事業を実施した。この事業は、カードゲームを用いて経済のあり方と「良い会社」について疑似的に体験学習をさせるもので、名古屋の小学校5・6年生を対象にして実施した。



参加した子供たちと保護者から、「お金の仕組みが分かって楽しかった」「良い会社が増えるとみんなの暮らしが豊かになることが分かった」という意見をいただくことができた。また、子供たちへの経済教育を推進するために、この事業の内容や、子供たちの学習成果・保護者からの意見を名古屋市教育委員会へ報告し、この事業で使用した経済カードゲームを寄贈した。また、2021年度以降、名古屋市内の小中学校の授業時間に経済カードゲームを活用していただくことができるよう、名古屋市教育委員会と協議を進めている。今後も、名古屋青年会議所が社会から必要とされ、諸団体との協同を通じてさらに市民の意識を変革する団体であり続けること、名古屋の経済発展を心から祈念申し上げます。

## 人財プラットフォーム探求構築委員会

委員長  
岩下 大高

当委員会の主な担いは、現状、多くの日本の企業で、単純な労働者として外国人を雇用している企業が増加しているなか、少子高齢化という、今後、社会が必ず向き合わなければならない問題でもあり、そうした問題の解決の糸口として、企業経営者に対し、優秀な外国人人財を雇用することの重要性を認識してもらうことであった。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例会の動員や事業の構築に本当に苦戦したが、まずは関係者の皆様のご協力により開催できたことに感謝したい。

担当の2月例会においては、優秀な外国人人財の必要性という理事長所信にしたためられている内容で、期待も高く抱かれていたこともあり時期的にも予定段階から多忙を極めた。しかし、講師の皆様をはじめ多くの関係者のご協力をいただき、2月例会サブフォーラム「外国人雇用で企業にもたらす多様性」というテーマで、現在の日本社会における少子高齢化による、企業の人財不足が懸念される中、企業として外国人人財の必要性を認識し、外国人人財によって人財不足を解消していくため必要なことを訴えることができた。

事業においては、数回に分けて行う専門家によるセミナーや、企業と外国人留学生との交流会、インターンシップなど、計画をしていたことが、ことごとく内容の変更や中止とせざるを得ない状況になってしまったが、株式



社アドプランナー様のご協力でWEBセミナーの配信、会員の会社の協力で外国人学生の企業体験ができた。そして、企業と外国人人財を結ぶポータルサイトを構築し、株式会社アドプランナー様に引き継ぐことができた。当初審議可決いただいた事業内容が多くの成果と学びとなるものであることが期待できたため残念な気持ちもあるが、事業を通じ優秀な外国人人財の雇用の必要性や有用性を訴えられたと考える。

委員会運営では、京都会議の出席率トップを皮切りに、最終総合出席率もトップを維持し、新入会員募集活動においても、質を重視する本年度ではあったが、人数では同率トップという成果も出せた。理事候補者選出選挙では、初のWEB開催など難しい場面も幾度となくあったが、委員会一丸となり取り組み、候補者だけでなく、メンバーの皆様にも名古屋青年会議所ならではの機会を提供ができたと考える。このような委員会の取り組みが評価され、理事長特別賞を受賞できたと理解している。

この一年、活動自粛によって何度も涙を呑むこともあったが、予定段階から本当に多くの時間を共に過ごしてくれたスタッフ。積極的かつ前向きに参加いただいた多くのメンバーの皆様を支えられた。最高の副委員長と最高のメンバーの皆様にも恵まれたこと、かけがえのない経験ができたことを委員長として、心から感謝御礼申し上げる。70年度この委員会での出会いと出来事が、皆様の今後の人生を支える貴重な経験になったと信じている。

## 雇用格差解消実現委員会

委員長  
安田 将之

当委員会は、障がい者と健常者の収入格差是正を目的とし、その先には障がい者が保護者に頼ることなく自立し、自身の力で社会に身を置き、歩んでもらうことであった。福祉施設の利用者（障がい者）という立場を越えて、労働者の一員となるためには、施設で行う活動を「作業」ではなく「仕事」に昇華する必要があった。

まずは障がい者福祉業界の現状を知るために、多くの福祉施設を訪問したり、セミナーに参加し、福祉施設が抱える課題を収集した。そこで、事業では福祉施設と一般企業のマッチングを行い、「サクッキー」の開発をすることから始まった。丹羽萌子氏監修の元、椋山学園大学の学生にも協力をおおぎ、商品の開発を進めていった。良い商品ができたからといって、すぐに結果がでるわけではないが、自信をもって売ることのできる商品ができたことは間違いない。福祉施設と一般企業が手を取り合うことで生まれるシナジーを示すことができたことは、福祉業界の未来への貴重な一歩となったと確信している。例会では、JC フェスティバル例会やロゲイング会場でブースを設け、SNSの発信やアンケートを条件にサクッキーの無料配布を行った。当日は多くの市民の手に渡り、障がい者製造商品の質の高さを知ってもらうことができた。例会を機に、近隣の方が福祉施設に直接買いに来てくれるようになった市民もいたことは、大変嬉しい出来事だった。例会会場で配布を一緒に行った製造者である障がい者の方々のすべ



てを配り終えた時の、達成感で自然と生まれたあの笑顔は忘れられない。我々が担当した事業や例会が、障がい者一人の人財として活躍できるノーマライゼーション社会創出の一助となることを願っている。そして、事業例会に関わっていただいたすべての皆様、特にサクッキー開発において、大変ご尽力いただいた丹羽萌子氏には心より感謝申し上げます。

また、光田理事長をはじめとする第70年度正副団、常任理事の皆様、同期理事として、切磋琢磨し笑いつけた委員長の皆様、本当に感謝申し上げます。

コロナ禍という未曾有の渦中にもかかわらず、いつも多くの委員会メンバーと過ごした1年2か月。8人の自動配属が一人も欠けることなく経営してくれた家族会で見えた花火や、県外委員会で颯爽と登場し消えていったゲレンデの音速貴公はすべての人の心に強く残ったと思う。親愛なる委員会すべての皆様へ感謝申し上げますと共に、今後も未永いお付き合いをお願いしたい。そして、林アドバイザーにはいつも優しく陰ながら支えていただいていたことに感謝を伝えたい。

結びに、最後まで私に付き合い一緒に走り抜けてくれた6名のスタッフと、いつも楽しく一緒に過ごしてくれたすべての委員会メンバーの力をもって、笑顔溢れる委員会となったことに感謝申し上げます、委員会報告とさせていただきます。

## ジェンダー平等社会構築委員会

委員長  
岩崎 英一郎

本委員会では、ジェンダー平等の推進と共に、日本のジェンダーギャップが大きい理由の根底に存在する、すべての「決めつけ」や「バイアス」を取り除くことを目標として活動した。

事業では、女性活躍の推進を目指し、家事・育児の男女間格差を解消するために活動した。調査の結果、パートナー間での家事・育児分担に関する話し合いが十分になされておらず、お互いの家事・育児の認識に差異があることが確認された。そのため、家事・育児分担についての家庭内での話し合いを促進させるために、「最強チーム家族～家族を最強チームにするミーティングシート～」を7,530名（3,765世帯）への実践していただいた。広く実践してもらうために、シートをデジタル化し、コロナ禍においても参加しやすいように、リモートセミナーを開催した。セミナーでは、子育て世代のフォロワーを多くつ講師陣を選定し、効率良くシートの実践をしていただくことができた。事業の締めくくりとして実施した行政への報告会では、名古屋JCの取り組み結果を周知し、行政の関係部署から高く評価された。委員会メンバー一丸となり取り組んだ結果であったことを誇りに思う。

また、完全対内例会として実施した5月例会では、会員がもつ会社の悩みを解決するサービスを提供する企業にご参加いただき、プレゼンテーション大会を実施した。会員・参画企業・講師との議論を通じて、会員の男女共に働きやすい職場整備への興味を高めた。そして、ミーティングシート作成者

## 社会課題解決人財育成委員会

委員長  
安井 琢磨

当委員会では社会課題解決を志す学生の事業を支援し、名古屋の若者が社会課題解決に取り組む土壌を創出すると共に、名古屋青年会議所と高等教育機関との連携を構築するという担いをいただきました。

事業においては、我々が決めた手法を押し付けるのではなく、学生が考える社会課題解決を実現する機会を提供するため、学生に自ら事業構築・議案作成をし、理事会で上程していただきました。本事業は2019年度に日本青年会議所が実施したチャレンジユニバーシティ事業と類似していることから、ご担当されていた委員長を訪問しアドバイスをいただく中で、各地の青年会議所で同様の事業を行っている方々とのつながりができ、情報交換や協力をしながら進めることができました。

一般社団法人 Nancy 代表理事の住田氏と共に実施したハローインタレスト事業では過労死やブラック企業問題等、働くことにネガティブなイメージが蔓延する日本において、仕事に対して夢やワクワク感をもって前向きに働いている魅力的な社会人の話を聞ける機会を子供たちに提供する職業体験を行いました。現役会員やOBの皆様にも受け入れ企業としてご協力をいただき事業を実施することができました。残念ながら一般社団法人 Nancy においてハローインタレスト事業の継続は予定されていませんが、本事業の経験を活かしてまた新たな事業を始められた住田氏の今後のご活躍を心より祈念しております。



や実践企業の代表者との対談を通じて、家庭内での家事・育児分業の重要性への会員の理解を深めた。

委員会としては、新型コロナウイルス感染症の影響下で会員同士でのコミュニケーションが図りづらい状況ではあったが、会員との懇親を深める時間を大切に、リモート開催も含めて一期一会の気持ちで、すべての委員会を開催させていただいた。そして、理事候補者選出選挙への輩出をさせていただいた。日頃参加が難しい会員であっても、リモートという今年度の特徴を上手く活用して、候補者のために時間を使っていた。この選挙を通じて、様々なハードルを乗り越えたことによって、会員の気持ちが一体となることができた。勇気をもって一歩踏み出してくれた筆頭副委員長に深く感謝している。

そして、すべてのスタッフ・委員会メンバーの皆様には、いくら感謝しても足りない。特に6人の副委員長の個々の特徴を最大限に生かした献身的な活躍があったこそ、最高の委員会となり、全会員が友情を育むことができた。さらに、野田アドバイザー、卒業予定者からは、いつも暖かいご指導を賜り、グランドスラムの達成や事業の成功に向けてすべての委員会・例会・事業に積極的に参画していただいた。

結びに、委員長として過ごさせていただいたこの1年と2か月間を、委員会に関わってくれた全てのメンバーに深く感謝申し上げます、委員会報告とさせていただきます。



また、名古屋国際高校 Sus-Teen! と実施したサステナショップ ～ええがやナゴヤ!～事業では、東京に名古屋のアンテナショップがないことに着目し、SDGs 未来都市である名古屋の魅力を発信するため、サステナブルとアンテナショップをかけたサステナショップの試験出店をしました。Sus-Teen! のメンバーは高校生とは思えないほどの度胸があり、コロナ禍の中でもZoomなどのツールを活用して協力企業とやりとりしていました。高校生のアイデアで企画した、枇杷の葉とおからを使ったパウンドケーキが人気商品となり、高校生のアイデアを形にすることができました。また、事業の締めくくりには高校生自ら河村市長にサステナショップの出店を提言することができました。

9月例会においては、今最も注目されている学生起業家、株式会社タイミーの小川嶺氏に事業立ち上げに対する想いや原体験を語っていただきました。またパネルディスカッションでは当委員会と共同で事業を行った二組の学生と佐々木紀彦氏、小川嶺氏で社会課題解決とビジネスの接点を探り、若者が社会課題解決に取り組むことの重要性を発信しました。

最後にこのような素晴らしい経験の機会を与えていただいた光田理事長を初めとする正副団の皆様、また私を支えていただいたスタッフ、委員会メンバーの皆様、関わっていただいたすべての皆様へ心より感謝を申し上げます、委員会報告とさせていただきます。

## リカレント教育推進委員会



委員長  
太田 佳典



第70年度のスローガン「持続可能な名古屋をつくろう」の実現を目指し、当委員会では、来る人生100年時代、市民が生涯を通じて活躍するために、ロールモデルとなる若者を顕彰する名古屋人間力大賞を例会として開催し、市民が学び直しに接する機会を増やして、生涯を通じて活躍する土壌をつくるべく、リカレント教育を推進するプロジェクトを事業として実施した。

3月例会として開催した名古屋人間力大賞は、2017年、2019年に実施された継続事業であり、今年もさらなる発展を目指して準備を行った。人生100年時代のロールモデルとなる人財を発掘して広く活動を発信し、持続可能な社会を創出する重要性を伝えようという想いのもと、情熱溢れる若いエンタープライゼー、審査員と共に、委員会メンバーも多くの学びや刺激を受けながら準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、初めて無観客のWEB配信による例会開催となった。それでも委員会メンバーの意気込みが下がることがなく、素晴らしい設営で終えることができ、その後もWEB配信で多くの市民に例会を視聴してもらうことができた。

例会後は、さらに新型コロナウイルス感染拡大が深刻となり、活動が制限されたため、「今できること」をテーマに「ナイチンゲールプロジェクト」という献血の啓発活動を担当した。外出の自粛要請が発出され、市民に閉塞感が広がる社会情勢の中、青年経済人が献血活動をする姿は、多くの人に希望を与え、メディアでも取り上げられ、他LOMでも献血活動を行うきつ



かけになり、コロナ禍でも発信できる運動があることを証明した。

そして8月、委員会として最大の修練となった理事候補者選出選挙。立候補した伊藤友一委員の勇気ある行動に心から敬意を表し、それに誠実に向き合ってくれた委員会メンバーに深く御礼申し上げたい。

また、委員会の本丸事業であるリカレント教育を推進するプロジェクトに触れないわけにはいかない。この事業では、名古屋人間力大賞のファイナリストたちの協力に支えられた。学び直しを体験したうえで、行政への政策提言をする事業であったが、我が国のリカレント教育の拡充は諸外国に比べても道半ばであり、重要性を認識している一部の行政関係者や研究者、そして事業参加者と共に、少しずつ重要性を訴えていくことで、取り組みが行われるきっかけになればという想いで事業を進めた。4月から開始した事業は、年の瀬の12月25日に河村市長への提言書提出へこぎつけ、この地域のリカレント教育拡充の端緒となることができた。

最後に、親身に協力してくれた保浦功太郎筆頭をはじめとする奥田圭祐、久喜政美、小牧直史、東谷篤憲、吉水峰志の各副委員長、そして個性溢れる委員会メンバーに心から謝意を表したい。どうなることかと思われた委員会、スパークしない委員長を支えて、しり上がりに委員会をスパークさせて盛り上げてくれたのは、スタッフと委員会メンバーであったことを特に記して、委員会報告とさせていただきます。

## オリエンテーション特別委員会



特別委員長  
山内 昭吾



第70年度オリエンテーション特別委員会は、6名の塾長を中心とし、質にこだわった新入会員募集活動を行い、誰一人取り残さないオリエンテーションを実施することで、期中退会者を0とし、持続可能な名古屋の未来のための第一歩となる、名古屋青年会議所の理念や運動の意義を浸透させるためのガイダンスに取り組んだ。

新入会員募集においては、青年会議所活動にかけられる時間と、取り組み姿勢を感じることで、質の高い110名を募集するという目標を掲げ、募集連絡会議の場や、募集担当副委員長への日々のフォローの中で徹底的に周知させた。そうすることで、単に数を集めるのではなく、普段からアンテナを張り、質を意識した募集活動に励む会員が多くなった。その結果、入会面接の時点で、青年会議所活動への期待や、情熱を感じることで入会希望者が多く見受けられ、最終的には122名という目標を上回る、質の高い新入会員を入会に導くことができた。また、この募集活動を通じて、委員会の絆がさらに深まったとの報告も受け、各委員会が真剣にこの募集活動に向き合ってくれたことを強く感じる事ができた。

新入会員へのガイダンスにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初予定していたものから大幅に変更せざるを得なくなった。WEBでの開催、広いホールで十分なソーシャルディスタンスを保ち開催、そして恒例行事である宿泊での開催が中止と、例年に比べると人とのつな



がりがつくり辛いガイダンスとなった。講義では、青年会議所活動を通じて様々な経験をし、それを現在の社業や活動に活かしている現役会員や先輩にお越しいただき、できるだけ新入会員にも分かりやすい内容の講義を行った。広いホールの中でも、質疑する塾生が多く、真剣にガイダンスに取り組む姿を感じ取られた。全塾が実施した塾事業では、「コロナ禍の中で私たちが今できること」というテーマの中、2塾合同で3事業開催された。顔を合わせた会議を行うことが難しい状況の中、どのようにチームや他塾の塾生とコミュニケーションを取り、事業を構築していけばいいのか。ここで初めて塾活動の中で壁にぶつかったという塾生も多く、それぞれを乗り越え、事業が終わった後は、新しい絆も生まれ、青年会議所活動の一端を肌で感じた良い経験となった。

その結果、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、ガイダンスの出席率は例年よりも高く、モチベーションの高い新入会員が多かったように見受けられた。第3回、第4回ガイダンスと、各塾数名の塾生に、前振り無しで「1分間スピーチ」を行うために登壇させたが、皆見事なスピーチであった。これはきちんと目的をもち、青年会議所活動に参加しているからこそできたことではないであろうか。持続可能な名古屋の未来のための第一歩となる、名古屋青年会議所の理念や運動の意義を浸透させるためのガイダンスに成功したと胸を張って言える結果となった。

## グローバルシティ確立委員会



委員長  
松岡 秀佳



当委員会は、名古屋のまちの受入体制の整備と魅力の認識・発信を行い、グローバルシティを確立することを目的として一年間活動を行った。

委員会の最初の担いは、初めての試みとなる卒業予定者セミナーを開催だった。年度のはじめに卒業予定者としての役割と自覚を学んでいただくセミナーで、前例がなく手探りだったが、先輩方を講師にお呼びし、結果的にトラブルもなく楽しいセミナーを開催することができた。そしてスタッフ一丸となり、まずは良いスタートを切る事ができた。

事業では熱田地区をモデルとし、受入体制の整備として「通信環境」「食の対応」「移動手段」の充実と、まちの魅力の認識と発信としてInstagramを活用し、「#visitnagoya」の投稿に取り組んだ。非常に多岐に渡る内容であったが、あつた宮宿会をはじめ、多くの団体や企業の協力をいただくことで実施することができた。印象的だったのは、どの協力先の方も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている中でも、インバウンドへの対応に非常に前向きであったことである。現在は外国人の来日がストップしていても、再び多くの外国人が訪れる日は必ず訪れる。その日に備えて今のうちから準備を進めることが重要であり、今回の我々の事業はその一つのきっかけを提供できたと考えている。

10月のJCフェスティバル例会では、副主管としてサブイベントのフォトゲイニングを実施した。高齢の方や車いす、ベビーカーを利用している方等、

## 国際スポーツ交流推進委員会



委員長  
三宅 功一



当委員会は、2026年開催のアジア競技大会の開催を契機に国際交流と多様性を受容し、持続可能な都市へと発展させていくことを提唱する2月例会と、新型コロナウイルス感染症拡大の中、影響の受けにくいインターネット上で、スポーツを切り口に世界の人々をつなげる機会の創出をするべく事業を実施した。

2月サブフォーラム「アジア競技大会を契機としたNAGOYAビジョン」では、アジア競技大会NAGOYAビジョン策定に関わられた早稲田大学スポーツ科学学術院教授の原田宗彦氏より、アジア競技大会の開催効果について基調講演、原田氏、元サッカー日本代表の山口素弘氏、アジア競技大会の競技経験者である中尾美樹氏によるパネルディスカッションを行い、アジア競技大会の開催効果について議論をより深めた。アジア競技大会を一過性のスポーツイベントで終わらせるのではなく、大会を契機に国際交流と多様性を受容し、持続可能な都市へと発展させていくことを提唱するフォーラムとなった。2月例会は、準備段階で時間の余裕がなく多忙を極めることが多いが、例会の構築を行政と連携し、講師選定、内容や動員において協力を得ることができ、より広くアジア競技大会の情報発信につながった。事業準備段階から副委員長をはじめとする多くの委員会メンバーに協力いただき、委員会全体で作りを上げることができた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止により世界各地で国を越えた人



長距離移動に自信のない方でも観光を楽しめるよう近場コースを設けた。参加者にはInstagramでの投稿を依頼し、名古屋の魅力の認識と発信を行った。また、多くの方が参加するイベントであるため、新型コロナウイルス感染症対策について、共催の公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー、運営協力の株式会社流行発信と何度も協議を重ね実施した。ロゲイニングは野外で行う競技であるため、比較的感染対策しやすく、外出自粛の中、参加者にはご家族や友人と気軽に楽しんでいただくことができた。

また新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療崩壊を防ぐための支援事業として一般社団法人名古屋市医師会へ防護服とマスクを寄贈した。マスクの一部は「ウズベキスタン慈悲健康基金の送金」の礼品としていただいたものであり、名古屋青年会議所のネットワークを駆使して喫緊の課題に対応することができた。

そして委員会運営でも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。県外委員会や懇親会など、計画通りにできなかったことはたくさんある。しかし、第70年度グローバルシティ確立委員会で出合い、一年間活動を共にした絆は変わるものではないし、これからいくらでも取り戻せると思っている。最後に委員会という貴重な機会をいただいた名古屋青年会議所と、最後まで支えてくれた6人の副委員長、委員会メンバー、そして関わったすべての皆様に感謝申し上げます委員会報告とさせていただきます。



の移動や集まりが規制され、国際的な活動が中止に追い込まれ、名古屋青年会議所も国際での活動が制限された状況下で、新型コロナウイルス感染症の影響のないインターネット上で、スポーツを切り口に世界の人々をつなげる機会の創出をするべく事業を実施した。日本・韓国・タイ・インドネシア・ウズベキスタンの代表チームが参加し、インターネット上で世界各国の参加者・視聴者につながり、各国の青年会議所の活動を動画で配信し、プランディングにつなげた。多くの事業関係者を巻き込み、成功裏に終ることができた。

新型コロナウイルス感染症拡大による前例の無い状況の中、できることを一緒に考え、信じて共に走り切ってくれたすべての委員会メンバーに感謝の意を申し上げて結びとさせていただきます。

## グローバルな課題解決推進委員会

委員長  
寺嶋 聡

当委員会は、グローバル化の進行する世界の中で、学生を対象とした国際的な課題を解決する人財の育成を育成する事業（3G-Project）と共に、姉妹 JC との交流を軸とした国際的な関係構築を主たる担いとしていただきました。

3G-Project 事業は、今年度で 4 回目を迎える名古屋青年会議所の継続事業ということもあり、年度当初は過去の例を参考に構築を進めていきました。日本の学生が海外（フィリピン）へ渡航としての学習及び交流と、姉妹 JC 各国の学生を名古屋に招いての合宿を予定し、参加学生の募集を行いました。ところが、参加者の確定を行った直後に、新型コロナウイルス感染症の被害が拡大し始め、海外への渡航も、海外からの訪問も出来ない状況となってしまったため、当初の事業内容を中止せざるを得なくなりました。その後、コロナ禍において実施できる事業の内容を再構築し、オンラインを中心とした複数の STEP による国際交流事業へと、内容を変更して再始動しました。

STEP1～4では、特定非営利活動法人 NIED の皆様のお力を借り、海外の学生も参加してコロナ禍における国際課題をどのように解決していくかを考えていきました。最初は、英語でのコミュニケーションに苦戦していた参加者も、回を重ねるにつけて成長していく姿が印象的でした。また、STEP5では、日本の学生たちによる活動報告を行い、各自が本事業で学



んだ内容をしっかりと発信することができました。この学生たちの報告内容を基に、名古屋市教育委員会に対する提言書も作成いたしました。さらに、本事業で学んだ内容は、後述の 11 月例会においても、発表する機会を設定いたしました。

姉妹 JC との交流については、上述のとおりコロナ禍の影響で現実交流する機会ほとんど持てませんでしたが、各国の危機に対応して JCI シドニーへの義援金送金や JCI マニラへのマスク等送付といった事業を行いました。

11 月例会は、当初は姉妹 JC との交流を主とする予定でしたが、コロナ禍を受けて「共生」をテーマとする、名古屋市、名古屋市障害者スポーツセンターとの共催フォーラムとして実施いたしました。例会部分においては、パラ陸上選手の井谷俊介氏、名古屋おもてなし武将隊の織田信長氏による障がい者との共生についての対談、このお二人に 3G-Project 参加学生を加えての発表、さらには、リモートによる「上を向いて歩こう」の合唱動画上映を行い、共生社会の重要性を発信することができました。

結びとして、私自身立ち上げから関わった 3G-Project に携わる機会を与えていただいた光田理事長を初めてとする正副団の皆様、また私を支えてくれたスタッフ、委員会メンバーの皆様、事業例会に関わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げ委員会報告とさせていただきます。

## 民間外交推進委員会

委員長  
杉原 雅也

当委員会では、「民間外交を推進する」をテーマに活動した。名古屋青年会議所の会員が国際ビジネスを入り口として、民間外交の必要性を感じる契機となるよう 6 月例会を実施した。そして事業をきっかけに国際ビジネスへの視野を広げ、国際ビジネスを通し、民間同士でつながることを目的とし 3 つの事業を行った。また JCI ネットワークを利用し、国際ビジネスを通し、海外の人とつながる事業を行った。

本来であれば、3 月の時点でクラブでの対内例会を実施予定していた。最高に盛り上がる対内例会を考えていたが、残念ながら密になってしまうためクラブでの開催を断念した。スタッフと会議を重ねるようになり例会を開催しなければならぬという思いで団結し、開催 2 か月前だったが再度議案を練り直した。そして 6 月例会では、Zoom ウェビナーを使用しオンラインで例会を行った。オンライン開催という状況を活かし、講演内容はもちろんのこと、スタッフによるラップバトルは映像撮影し視聴者が共感できる内容になった。また Zoom アプリの特徴を活かしリアルタイムで海外のマニラやカンボジアと中継をつなぐなど、Zoom アプリでしかできなかった趣向を凝らした内容に仕上げる事ができた。学びとエンターテインメント性に溢れたとても良い例会になった。これも個性あふれるスタッフと委員会メンバーの協力により開催することができた。

事業も本来であれば、韓国での KOTRA 事業、ASPAC 商談会・ビ



ジネスマッチング事業、マニラ防災対策レクチャー・ビジネスマッチング事業の実施を予定していた。韓国・カンボジアへ渡航ができなくなり、事業を再構築することになった。スタッフと会議を重ね再度議案を練り直し作成した。そして事業でも Zoom アプリを使用し、Zoom アプリの特徴を活かしリアルタイムで国際ビジネスを成功されている会社代表者や JCI マニラと中継をつなぐなど、Zoom アプリでしかできなかった内容に仕上げる事ができた。3 つの事業もスタッフと委員会メンバーに支えられ、実際に会うことができない状況でも、うまく WEB を使うことで民間外交を推進する事業を実施することができた。

8 月には横山委員が理事候補者選出選挙に挑戦した。候補者・選対長をはじめ、共に戦った委員会メンバーには心から敬意を表したい。最後まで全力で向き合い、共に成長できた 1 か月となった。

最後に委員会運営に共に汗を流したスタッフ、委員会活動に温かい気持ちで関わってくれたメンバー、そして当委員会に関わっていただいたすべての方の支えがあり、素晴らしい経験を成長することができた。関わったすべての皆様に感謝御礼を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。

## 総務委員会

委員長代理  
三木 真志

第 70 年度の総務委員会の「今年の漢字」を選ぶとすれば、それは「災」になるのではないかとはいくらくらい、当委員会は様々なトラブルに見舞われた。まずは、どの委員会も対応に苦慮した新型コロナウイルスへの対応である。当委員会の主な担いは諸会議の設営、議案のチェックなどであるが、対面での集まりが制限を受けたことで、我々も不慣れなオンライン対応を迫られることとなった。

1 月例会「新年賀詞交歓会」では、予定者段階からスタッフ並びに委員会メンバーの力を借りて準備を進めていたが、当時の委員長が直前にインフルエンザに罹患し、委員長不在での開催も覚悟せざるを得なくなった。年度の途中では、諸事情により委員長・アドバイザーが退会する事態となり、私の肩書も変わることとなった。総務委員会の最後の担いとなった 12 月役員選出総会では、前日に会場で起きた事故により、一時は開催が危ぶまれることとなった。本当に波乱万丈の 1 年であった。

このような中でも、名古屋青年会議所を下支えするという地道ながら重要な我々の責務を大きな問題もなく果たし、さらに次年度に向けて 12 名の副委員長予定者と 2 名の理事予定者を輩出できたのは、ひとえに能力の高いスタッフ並びに委員会メンバー一同のおかげである。特に、舵取り役が年度中に 2 度も変わるというのは前代未聞であり、スタッフにもそれだけ負担を強いることとなったが、見事に最後までやり遂げることができた。心から

## 財務委員会

委員長  
秋元 隆弘

財務委員会は、組織運営において無くてはならない下支えの委員会と言われている。事業・例会の予算書作成指導と諸会議の運営を通じて、すべての運動に携わることができる大変やりがいのある委員会でもある。そこで、財務委員会こそが、名古屋青年会議所のリーディング委員会であるとの熱い想いとプライドをもって、すべての運動をサポートしてきた。

また、組織の下支えだけでなく、1 年の最初と最後の例会の設営を担当させていただいた。組織の運営を担当する財務委員会の設営であるというプライドをもって臨み、いずれも盛会で締めくることができた。新年賀詞交歓会懇親会では、副委員長・委員会メンバーと共にアトラクション「殺陣演舞」で開幕を飾ると共にスムーズな運営が進めることができた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響下において、12 月例会は例年とは異なる設えとなっただけでなく、変更し更に変更でもあった。そうはいっても、12 月例会における重要な要素は、①本年度の軌跡並びに総括と次年度への継承、②褒賞による各特別委員会・委員会の 1 年の運動の成果の締めくくり、③卒業生に気持ち良く卒業していただくということの 3 点に尽きると考え、①は厳かに、②はかつこく、③は華々しくとのコンセプトを基に全体を構成した。参加した会員に良かったと言ってくれたことができ、新たなスタンダードを示すことができたと思う。すべて、素晴らしい副委員長たち、委員会メンバーたちに恵まれ、みんなが心を 1 つにして、力を発揮してくれたおかげ



感謝を申し上げます。褒賞申請も当委員会の重要な担いであった。ASPAC では、名古屋青年会議所が最優秀委員会会議所を受賞し、日々の活動の成果を世界に向けて発信することができた。

また、当委員会は自動配属が非常にアクティブであった。5 月に予定していた自動配属設営の家族会は新型コロナウイルスの影響で開催が叶わなかったが、その代わりに開催した 10 月の自動配属設営の委員会では出席率 100% を達成した。自動配属の頑張りによりメンバーが一人となり、結果であると思う。自動配属 8 人中 6 人が来年度は副委員長という責務を担う。優秀な人財を当委員会から輩出できたことを誇りに思う。

大変な 1 年ではあったが、「雨降って地固まる」といふべきか、かえって結束力の強い委員会になったと思う。委員会への出席率の高さや、次年度に副委員長・理事委員長の役職を担うという一歩を踏み出したメンバーが多いことがそれを物語っているのではないかと。地味と言われる二文字委員会でありながら、アットホームな運営ができたことと自負している。

私も期せずして大変貴重な経験をさせていただくこととなった。激動の 70 年度総務委員会を支えてくれたスタッフ並びにメンバー一同に対して改めて感謝を申し上げ、委員会報告の結びとさせていただきます。



であり、感謝しかない。さらに、第 69 年度に引き続き、賛助を募るべく賛助プランを構築し、企業へアプローチをした。残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の状況で賛助企業の獲得も中断してしまいましたが、賛助企業規程の整備の提言も含め、次年度以降の礎をつくることができたと感じている。

1 年間の委員会活動は、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の状況の中で、家族会や県外委員会の実施も含めた例年のような委員会サイクルを行うことは難しかったが、その中でも、委員会メンバーに学びをもち帰ってもらえるよう設えてきた。そして、8 月には、酒井副委員長が理事候補者選出選挙に挑戦した。酒井候補者、熊倉選対長をはじめ 1 か月を共に戦った委員会メンバーには心から敬意を表したい。選挙を通じて青年会議所活動と向き合った結果として第 71 年度の副委員長に一歩踏み出した委員会メンバーたちは、次年度、間違いなく第一線で活躍してくれるはずである。

時には苦しいこともあったが、委員会一丸となってプライドをもって、できっこないことに挑戦し、高い壁を乗り越えたその先にこそ、心身を捧げる価値があると強く感じた 1 年であった。改めてすべての副委員長、委員会メンバーへの感謝を申し上げ委員会報告とさせていただきます。



# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

各種大会レポート

## JCI 各種大会

## 2020年度 JCI 世界会議横浜大会

開催日：2020年10月24日（土）～11月7日（土）  
開催地：パシフィコ横浜

JCIの1年間の活動を総括するJCI世界会議。本年度は、5年ぶりの日本開催として、横浜の地にて開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、WEB配信を併用したハイブリッド形式にて、各ファンクションが実施されました。

JAPAN FORUMでは、「SDGs NEXT ACTION」において、環境大臣の小泉進次郎氏が登壇し、公益社団法人日本青年会議所と環境省とのSDGs推進に向けたパートナー宣言が世界へ向けて発信されました。また、クロージングでは、菅義偉内閣総理大臣が登壇。「ミライ国家のカタチ」と題して、公益社団法人日本青年会議所2020年度会頭石田全史君並びに2021年度会頭野波晃君と、これからの国家のあり方について議論が交わされました。

## 日本 JC 各種大会

## 2020年度 京都会議

開催日：2020年1月16日（木）～1月19日（日）  
開催場所：国立京都国際会館

本年度も京都の地にて公益社団法人日本青年会議所のスタートを切る京都会議が開催されました。

本年度のテーマは「アップデート」。西村内閣府特命担当大臣が登壇されたフォーラム「非常事態宣言」や本気で社会を変えてきた講師陣によるフォーラム「SDGs3.0～人と企業が生み出す好循環～」、ピョートル・フェリクス・グジバチ氏を講師に迎えたフォーラム「組織改革4.0」、そしてメインフォーラム「国際進出!\$777\$」が開催されました。

また、第68回全国大会富山大会にて開催される予定が台風の影響で延期された AWARDS JAPAN2019も開催され、名古屋青年会議所が最優秀委員会賞を受賞しました。

最終日には、公益社団法人日本青年会議所2021年度会頭石田全史君より2020年度の運動指針が発表されました。

## JCI金沢会議

開催日：2020年2月21日（金）～2月23日（日）  
開催場所：北國新聞赤羽ホール・金沢市文化ホール

2015年に開催されたJCI世界大会金沢大会の総会においてJCIが「UN SDGs」の達成に向けて積極的に取り組むことを採択したことから、2016年から5年連続で「UN SDGs」の達成に向けた活動の推進を目的として開催された金沢会議。最終年度となる本年度も、金沢の地で開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部中止となったプログラムもありましたが、「SDGsピッチコンテスト」「SDGs金沢企業パーク」「明日から実践できるSDGs分科会～知りたいがここに・・・～」「SDGs×OVER SEA's」「中田宏が現代SDGs経営を斬る!～少年少女国連大使の企業潜入マル秘レポート!～」「SDGs3.0～NO EARTH NO LIFE」等、様々なファンクションが開催されました。

## 第69回全国大会 北海道札幌大会

開催日：2020年9月26日（土）  
開催場所：WEB開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、初の全面WEB開催となった第69回全国大会北海道札幌大会。メインフォーラムや大会式典もすべてWEBでの配信となりました。

メインフォーラムでは、アイリスオーヤマ株式会社代表取締役会長の大山健太郎氏が、Withコロナ・Afterコロナ時代に打ち勝つチーム（組織）のあり方についてご講演されました。また、メインフォーラム第二部では、公益社団法人日本青年会議所2020年度が1年間取り組んできた組織改革の活動報告と総括、そして、2020年度の組織のあり方についての提言が発表されました。

## 愛知ブロック各種大会

## 名古屋会議

開催日：2020年2月11日（火）  
開催場所：愛知学院大学 日進キャンパス

公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会 2020年度の運動方針を発表するため、名古屋会議が愛知学院大学日進キャンパスにて開催されました。

各委員会の公開委員会が開催されたほか、メインフォーラムでは、エコノミストの門倉貴史氏が講師として登壇され、多様化する社会の原状と組織改革の必要性についてご講演されました。メインフォーラムパネルディスカッションでは、門倉氏のほか、公益社団法人東京青年会議所 第68代理事長 波多野麻美氏、一般社団法人中部SDGs推進センター 代表理事 戸成司朗氏が登壇。多様性を活用する必要性と、多様性を受容することで得られる組織の「人財獲得における優位」「競合性・創造性の優位」について議論が交わされました。

式典では、公益社団法人日本青年会議所 東海地区 愛知ブロック協議会 2020年度会長 曾根香奈子君より、1年間の運動指針が発表されました。

## 第53回愛知ブロック大会 尾張旭大会

開催日：2020年9月5日（土）  
開催場所：WEB開催

『みんなでい（い）“紅茶（こーちゃ）”!!～緑と太陽のまち尾張旭から愛知へ広がる華となれ～』とのスローガンの下、第53回愛知ブロック大会尾張旭大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、式典やフォーラムはWEB配信という形での開催となりました。メインフォーラムでは、「ここがへんだよ青年会議所！オレ流組織改革でPOSITIVE CHANGE」と題し、公益社団法人日本青年会議所 2020年度副会頭中島土君をはじめとするメンバーが、今後の青年会議所のあるべき姿について寸劇を交え分かりやすく伝えました。また、愛知ブロック協議会 2021年度曾根香奈子会長や各委員会から1年間の活動報告がなされたほか、2021年度への引継ぎがなされました。

## ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

総会報告・理事会レポート

## 総会報告

2020年度（第70年度）は、2月定時総会並びに12月役員選出総会が行われた。

2月定時総会では、5件の議案が審議された。2019年度（第69年度）の収支予算補正、公益目的事業配賦割合変更、事業報告、収支決算報告及び2020年度（第70年度）収支予算補正の議案、すべてが可決された。

12月役員選出総会では、50件の議案が審議された。42件の除名議案、2021年度（第71年度）の理事・監事、事業計画、収支予算、特別顧問推薦及び公益目的事業配賦割合の議案に加え、定款、役員選出規程及び会費規程の一部改正の議案、すべてが可決された。

### 2月定時総会

日時：2020年2月26日（水）  
場所：名古屋JC会館



#### 議事案

- 第1号議案 2019年度（第69年度）収支予算補正（案）承認の件
- 第2号議案 2019年度（第69年度）公益目的事業配賦割合変更（案）承認の件
- 第3号議案 2019年度（第69年度）事業報告承認の件
- 第4号議案 2019年度（第69年度）収支決算報告承認の件
- 第5号議案 2020年度（第70年度）収支予算補正（案）承認の件

### 12月役員選出総会

日時：2020年12月23日（水）  
場所：ホテル名古屋ガーデンパレス



#### 議事案

- 第1号議案～第42号議案 除名承認の件
- 第43号議案 2021年度（第71年度）理事・監事承認の件
- 第44号議案 2021年度（第71年度）事業計画（案）承認の件
- 第45号議案 2021年度（第71年度）収支予算（案）承認の件
- 第46号議案 2021年度（第71年度）特別顧問推薦承認の件
- 第47号議案 2021年度（第71年度）公益目的事業配賦割合（案）承認の件
- 第48号議案 定款の一部改正（案）承認の件
- 第49号議案 役員選出規程の一部改正（案）承認の件
- 第50号議案 会費規程の一部改正（案）承認の件

## 理事会レポート

### 第1回 理事会レポート

開催日時：2020年1月31日（金）19時00分～22時31分  
開催場所：名古屋JC会館

#### 審議事項

- (1) 2019年度（第69年度）収支予算補正（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (2) 2019年度（第69年度）公益目的事業配賦割合変更（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (3) 2019年度（第69年度）事業報告承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (4) 2019年度（第69年度）収支決算報告承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (5) 2020年度（第70年度）収支予算補正（案）承認の件 < 秋元財務委員長 >
- (6) 2020年度（第70年度）2月定時総会の開催日時、開催場所及び付議事項（案）承認の件 < 加藤総務委員長 >
- (7) 7月例会70周年記念式典の開催計画並びに予算（案）承認の件 < 木下70周年特別委員長 >
- (8) 雇用格差解消を実現する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 安田雇用格差解消実現委員長 >
- (9) グローバルシティを確立する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 松岡グローバルシティ確立委員長 >
- (10) グローバルな課題を解決する人財を育成する事業（マニラ）の開催計画並びに予算（案）承認の件 < 寺嶋グローバルな課題解決推進委員長 >
- (11) 会計にかかる監査の公認会計士又は監査法人への委嘱承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (12) オリエンテーション特別委員会に付託する事項（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (13) 役員選出規程第34条第1項第2号の資格要件確認（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (14) ～(15) 休会承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (16) 後援名義「名古屋城新能」使用（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (17) 移籍入会承認の件 < 齋藤専務理事 >

#### 協議事項

- (1) 家庭内における家事・育児分業を考える例会の開催計画並びに予算（案）の件 < 岩崎ジェンダー平等社会構築委員長 >
- (2) 新入会員に対するオリエンテーションの実施計画並びに予算（案）の件 < 山内オリエンテーション特別委員長 >

#### 報告事項

- (1) JCI シドニーへの災害義援金・支援金の送金について < 寺嶋グローバルな課題解決推進委員長 >
- (2) 持続可能なJC探究会議の日程変更について < 鈴木持続可能なJC探究会議議長 >
- (3) 退会届について < 齋藤専務理事 >
- (4) 服装について < 齋藤専務理事 >

#### 確認・要望・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会2020年度名古屋会議開催について < 竹腰渉外委員長 >
- (2) 関係人口拡大推進室公開合同委員会の開催について < 杉原民間外交推進委員長 >
- (3) 褒賞セミナーの実施について < 加藤総務委員長 >
- (4) マイナンバーの取り扱いについて < 秋元財務委員長 >
- (5) 中小企業庁ITツールの普及と活用のためのセミナーの実施について < 秋元財務委員長 >
- (6) 海外渡航に関してのお願いについて < 齋藤専務理事 >

### 第2回 理事会レポート

開催日時：2020年2月26日（水）19時00分～22時01分  
開催場所：名古屋JC会館

#### 審議事項

- (1) 選挙管理委員会委員指名承認の件 < 光田理事長 >
- (2) 選挙管理委員会委員の任期延長承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (3) 名古屋青年会議所のブランドを高める例会の開催計画並びに予算（案）承認の件 < 竹腰渉外委員長 >
- (4) 10月例会JCフェスティバル例会の開催日並びに開催場所（案）承認の件 < 木下70周年特別委員長 >
- (5) 「良い会社」を創造する事業（SDGs 金融）の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 高田経世済民確立特別委員長 >
- (6) 人財プラットフォームを構築する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 岩下人財プラットフォーム探求構築委員長 >
- (7) ジェンダー平等社会を実現する事業の修正計画並びに修正予算（案）承認の件 < 岩崎ジェンダー平等社会構築委員長 >
- (8) 人間力大賞を表彰する例会の修正計画並びに修正予算（案）承認の件 < 太田リカレント教育推進委員長 >
- (9) 第70年度副委員長セミナー修正計画並びに修正予算（案）承認の件 < 山内オリエンテーション特別委員長 >
- (10) 第70年度副委員長セミナー実施報告並びに決算（案）承認の件 < 山内オリエンテーション特別委員長 >
- (11) スポーツを通して国際交流を推進する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 三宅国際スポーツ交流推進委員長 >
- (12) 民間外交を推進する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 < 杉原民間外交推進委員長 >
- (13) 12月例会の開催日並びに開催場所（案）承認の件 < 秋元財務委員長 >
- (14) 第69年度事業報告等に係る提出書類承認の件 < 秋元財務委員長 >
- (15) 事務局員の退職について < 齋藤専務理事 >
- (16) 事務局員の採用について < 齋藤専務理事 >
- (17) 後援名義「将棋日本シリーズ JT プロ公式戦 / テーブルマークこども大会 東海大会」使用（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >
- (18) 後援名義「TEENS ROCK IN AICHI 2020」使用（案）承認の件 < 齋藤専務理事 >

#### 協議事項

- (1) グローバルな課題を解決する人財を育成する事業（名古屋）の実施計画並びに予算（案）の件 < 寺嶋グローバルな課題解決推進委員長 >

#### 報告事項

- (1) 事務局運営について < 加藤総務委員長 >
- (2) 年会費納入者について < 秋元財務委員長 >
- (3) 2020年度（第70年度）公式スケジュール変更について < 齋藤専務理事 >
- (4) アジェンダシステムの変更について < 齋藤専務理事 >
- (5) 対内外資料・映像制作について < 齋藤専務理事 >

#### 確認・要望・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所メンバー専用アプリのダウンロードについて < 吉川広報・ブランディング委員長 >
- (2) JCプログラムの実施について < 山内オリエンテーション特別委員長 >
- (3) 例会報告書の作成について < 秋元財務委員長 >

第3回 理事会レポート

開催日時：2020年3月24日(火) 19時00分～21時15分  
開催場所：名古屋 JC 会館

審議事項

- (1) 家庭内における家事・育児分業を考える例会の開催計画並びに予算(案)承認の件 < 経済 G>
- (2) リカレント教育を推進する事業の実施計画並びに予算(案)承認の件 < 人財 G>
- (3) 新入会員に対するオリエンテーションの実施計画並びに予算(案)承認の件 < 人財 G>
- (4) 民間外交を推進する例会の開催計画並びに予算(案)承認の件 < 国際 G>
- (5) 1月例会新年賀詞交歓会の開催報告並びに決算(案)承認の件 < 総務 G>

協議事項

- (1) 良い会社を創造する事業(経世済民プログラム)の実実施計画並びに予算(案)の件 < 経済 G>
- (2) 学生による社会課題解決を発信する例会の開催計画並びに予算(案)の件 < 人財 G>
- (3) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業)の実実施計画並びに予算(案)の件 < 人財 G>

報告事項

- (1) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信に関する進捗について < ブランディング G>
- (2) 事務局員給与決定について < 総務 G>
- (3) 名古屋 JC 会館床改装工事中の利用について < 総務 G>
- (4) 年会費未納者について < 総務 G>
- (5) エプソン販売株式会社(賛助予定企業)提供複合機使用について < 総務 G>
- (6) 名古屋青年会議所のブランドを高める例会の開催中止について < 総務 G>
- (7) 2020年度(第70年度)公式スケジュール変更について < 総務 G>

確認・要望・依頼事項

- (1) 公式対内LINEを活用した会員の社業紹介について < ブランディング G>
- (2) 講師等依頼承諾書について < 総務 G>

第4回 理事会レポート

開催日時：2020年4月28日(火) 19時00分～23時00分  
開催場所：WEB上

審議事項

- (1) 名古屋青年会議所のブランドを確立する事業(@NAGOYA プロジェクションマッピング)の実実施計画並びに予算(案)承認の件 < 経済 G>
- (2) JCカンファレンス例会の開催報告並びに決算(案)承認の件 < 経済 G>
- (3) JCカンファレンス例会メインフォーラムの開催報告並びに決算(案)承認の件 < 経済 G>
- (4) JCカンファレンス例会サブフォーラム(人財プラットフォーム探求構築委員会)の開催報告並びに決算(案)承認の件 < 経済 G>
- (5) JCカンファレンス例会サブフォーラム(国際スポーツ交流推進委員会)の開催報告並びに決算(案)承認の件 < 国際 G>
- (6) 人財プラットフォームを構築する事業の修正計画並びに修正予算(案)承認の件 < 経済 G>
- (7) 家庭内における家事・育児分業を考える例会の修正計画並びに修正予算(案)承認の件 < 経済 G>
- (8) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業)の実実施計画並びに予算(案)承認の件 < 人財 G>
- (9) 2020年度(第70年度)新入会員入会(案)承認の件 < 人財 G>
- (10) スポーツを通して国際交流を推進する事業の実実施計画並びに予算取り下げ(案)承認の件 < 国際 G>
- (11) グローバルな課題を解決する人財を育成する事業(マニラ)の開催計画並びに予算取り下げ(案)承認の件 < 国際 G>
- (12) 民間外交を推進する事業の開催計画並びに予算取り下げ(案)承認の件 < 国際 G>
- (13) エプソン販売株式会社新規賛助契約承認の件 < 総務 G>

協議事項

- (1) JCフェスティバル例会の開催計画並びに予算(案)の件 < ブランディング G>
- (2) JCフェスティバル例会メインフォーラムの開催計画並びに予算(案)の件 < ブランディング G>
- (3) JCフェスティバル例会サブイベント(雇用格差解消実現委員会)の開催計画並びに予算(案)の件 < 経済 G>
- (4) JCフェスティバル例会サブイベント(グローバルシティ確立委員会)の開催計画並びに予算(案)の件 < 国際 G>
- (5) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業2)の実実施計画並びに予算(案)の件 < 人財 G>

報告事項

- (1) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信に関する進捗について < ブランディング G>
- (2) 70周年記念書籍の作成について < ブランディング G>
- (3) 雇用格差解消を実現する事業の一部中止について < 経済 G>
- (4) ジェンダー平等社会を実現する事業の進捗について < 経済 G>
- (5) グローバルシティを確立する事業の一部実施延期について < 国際 G>
- (6) 出席規程の一部運用取り止めについて < 総務 G>
- (7) 事務局員の交代制勤務について < 総務 G>
- (8) 年会費未納者について < 総務 G>
- (9) 新型コロナウイルス感染症対策セミナーについて < 国際 G>
- (10) ドレスコードの追加変更について < 総務 G>
- (11) 2020年度(第70年度)クールビズの推進について < 総務 G>

確認・要望・依頼事項

- (1) 「JCI NAGOYA GLOBAL IMPACT HAND WASHING CAMPAIGN!!」について < 総務 G>

第5回 理事会レポート

開催日時：2020年5月25日(月) 19時00分～20時45分  
開催場所：WEB上

審議事項

- (1) 70周年記念式典の修正計画並びに修正予算(案)承認の件 < ブランディング G>
- (2) 良い会社を創造する事業(SDGs金融)の実実施計画並びに予算取り下げ(案)承認の件 < 経済 G>
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策に関する支援事業の実実施計画並びに予算(案)承認の件 < 国際 G>
- (4) 民間外交を推進する例会の修正計画並びに修正予算(案)承認の件 < 国際 G>
- (5) 東海東京証券株式会社賛助契約承認の件 < 総務 G>

報告事項

- (1) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信に関する進捗について < ブランディング G>
- (2) ジェンダー平等社会を実現する事業の進捗について < 経済 G>
- (3) ウズベキスタン慈悲健康基金の送金について < 国際 G>
- (4) 年会費未納者について < 総務 G>
- (5) 2020年度(第70年度)公式スケジュール変更について < 総務 G>
- (6) 辞任並びに退会届について < 総務 G>
- (7) 退会届について < 総務 G>
- (8) 委員長代行委嘱について < 総務 G>
- (9) 組織図変更について < 総務 G>

確認・要望・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所メンバー専用アプリのダウンロードについて < ブランディング G>

第6回 理事会レポート

開催日時：2020年6月23日(火) 19時00分～21時00分  
開催場所：名古屋 JC 会館

審議事項

- (1) 名古屋青年会議所のブランドを高める例会の中止報告並びに決算(案)承認の件 < ブランディング G>
- (2) 雇用格差解消を実現する事業の修正計画並びに修正予算(案)承認の件 < 経済 G>
- (3) 学生による社会課題解決を発信する例会の開催計画並びに予算(案)承認の件 < 人財 G>
- (4) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業2)の実実施計画並びに予算(案)承認の件 < 人財 G>
- (5) 8月例会(選挙例会)の開催計画並びに予算(案)承認の件 < 総務 G>
- (6) 後援名義「東山こどもガイド2020」使用(案)承認の件 < 総務 G>

報告事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所2020年度サマーカンファレンス中止について < ブランディング G>
- (2) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信に関する進捗について < ブランディング G>
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策セミナー(続編)について < ブランディング G>
- (4) ジェンダー平等社会を実現する事業の進捗について < 経済 G>
- (5) JCIマニラへの支援金の送金について < 国際 G>
- (6) 2020年度JCIアジア・太平洋エリア会議(通称ASPAC)中止について < 国際 G>
- (7) 事務局員賞与決定について < 総務 G>
- (8) 名古屋 JC 会館トイレ改装工事中の利用について < 総務 G>
- (9) 2020年度(第70年度)公式スケジュール変更について < 総務 G>

確認・要望・依頼事項

- (1) 厚生労働省労働契約等解説セミナー2020の実施について < 総務 G>

## 第7回 理事会レポート

開催日時：2020年7月21日（火）19時00分～21時30分  
開催場所：名古屋 JC 会館

## 審議事項

- (1) 名古屋青年会議所のブランドを確立する事業（@NAGOYA プロジェクションマッピング）の実施報告並びに決算（案）承認の件 <ブランディング G>  
 (2) 家庭内における家事・育児分業を考える例会の修正計画並びに補正予算（案）承認の件 <経済 G>  
 (3) 家庭内における家事・育児分業を考える例会の開催報告並びに決算（案）承認の件 <経済 G>  
 (4) グローバルな課題を解決する人財を育成する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 <国際 G>  
 (5) 民間外交を推進する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 <国際 G>

## 協議事項

- (1) スポーツを通じて国際交流を推進する事業の実施計画並びに予算（案）の件 <国際 G>  
 (2) 12月例会の開催計画並びに予算（案）の件 <総務 G>

## 報告事項

- (1) メディア等を用いた対外への JC 運動の発信に関する進捗について <ブランディング G>  
 (2) ジェンダー平等社会を実現する事業の進捗について <経済 G>  
 (3) JCI 名古屋ナイチンゲール PROJECT の実施報告について <人財 G>  
 (4) 「レジリエンス（回復力）」セミナーの実施報告について <人財 G>  
 (5) 委員会出席率経過報告（1月から6月）について <総務 G>  
 (6) 東海東京証券株式会社賛助契約成立について <総務 G>  
 (7) 2021年度（第71年度）理事長候補者並びに監事候補者決定について <総務 G>

## 確認・要望・依頼事項

- (1) プレスリリースについて <ブランディング G>  
 (2) 2020年度（第70年度）卒業予定者連絡会議開催について <国際 G>  
 (3) 2021年度（第71年度）副委員長推薦について <総務 G>

## 第8回 理事会レポート

開催日時：2020年8月25日（火）19時00分～21時15分  
開催場所：WEB上

## 審議事項

- (1) JC フェスティバル例会の開催計画並びに予算（案）承認の件 <ブランディング G>  
 (2) JC フェスティバル例会メインフォーラムの開催計画並びに予算（案）承認の件 <ブランディング G>  
 (3) JC フェスティバル例会サブイベント（雇用格差解消実現委員会）の開催計画並びに予算（案）承認の件 <経済 G>  
 (4) JC フェスティバル例会サブイベント（グローバルシティ確立委員会）の開催計画並びに予算（案）承認の件 <国際 G>  
 (5) 良い会社を創造する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 <経済 G>  
 (6) ジェンダー平等社会を実現する事業の修正計画並びに修正予算（案）承認の件 <経済 G>  
 (7) 新型コロナウイルス感染症対策に関する支援事業の実施報告並びに決算（案）承認の件 <国際 G>  
 (8) スポーツを通して国際交流を推進する事業の実施計画並びに予算（案）承認の件 <国際 G>  
 (9) 後援名義「人と企業の活性化フォーラム」使用（案）承認の件 <総務 G>

## 協議事項

- (1) 姉妹 JC との交流を深める例会の開催計画並びに予算（案）の件 <国際 G>

## 報告事項

- (1) メディア等を用いた対外への JC 運動の発信に関する進捗について <ブランディング G>  
 (2) ジェンダー平等社会を実現する事業の進捗について <経済 G>  
 (3) LOM 内褒賞の実施変更について <総務 G>  
 (4) わんぱく相撲事業の中止について <わんぱく相撲運営会議>  
 (5) 2020年度（第70年度）公式スケジュール変更について <総務 G>

## 確認・要望・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会 2020年度ブロック大会開催について <ブランディング G>  
 (2) 公益社団法人日本青年会議所 2020年度第69回全国大会北海道札幌大会 卒業予定者の事業活動写真収集依頼について <ブランディング G>

## 第9回 理事会レポート

開催日時：2020年9月23日（水）19時00分～20時30分  
開催場所：名古屋 JC 会館

## 審議事項

- (1) 誰もが共生できる社会を実現する例会の開催計画並びに予算（案）承認の件 <国際 G>  
 (2) 民間外交を推進する例会の開催報告並びに決算（案）承認の件 <国際 G>  
 (3) 民間外交を推進する事業の修正計画並びに修正予算（案）承認の件 <国際 G>  
 (4) 12月例会の開催計画並びに予算（案）承認の件 <総務 G>  
 (5) 株式会社ネクステージ賛助契約承認の件 <総務 G>

## 報告事項

- (1) メディア等を用いた対外への JC 運動の発信に関する進捗について <ブランディング G>  
 (2) 年会費未納者について <総務 G>

## 確認・要望・依頼事項

- (1) 公益社団法人日本青年会議所 2020年度第69回全国大会北海道札幌大会開催について <ブランディング G>  
 (2) 出向者セミナーの開催について <ブランディング G>  
 (3) 一般社団法人ものがたりラボ協賛協力依頼について <経済 G>  
 (4) 2020年度 JCI 世界会議参加依頼について <国際 G>

## 第10回 理事会レポート

開催日時：2020年10月27日（火）19時00分～23時00分  
開催場所：名古屋 JC 会館

## 審議事項

- (1) 7月例会 70周年記念式典の修正計画並びに補正予算（案）承認の件 <ブランディング G>  
 (2) 7月例会 70周年記念式典の開催報告並びに決算（案）承認の件 <ブランディング G>  
 (3) 人間力大賞を表彰する例会の修正計画並びに補正予算（案）承認の件 <人財 G>  
 (4) 人間力大賞を表彰する例会の開催報告並びに決算（案）承認の件 <人財 G>  
 (5) 8月例会（選挙例会）の開催報告並びに決算（案）承認の件 <総務 G>  
 (6) 後援名義「スポ NAGO フェス 2020」使用（案）承認の件 <総務 G>  
 (7) ～ (8) 休会復帰承認の件 <総務 G>  
 (9) ～ (11) 休会期間変更届承認の件 <総務 G>

## 協議事項

- (1) 定款の一部改正（案）の件 <総務 G>  
 (2) 役員選出規程の一部改正（案）の件 <総務 G>  
 (3) 出席規程の一部改正（案）の件 <総務 G>  
 (4) 賛助企業に関する規程制定（案）の件 <総務 G>  
 (5) 入会・休会及び退会に関する規程の一部改正（案）の件 <総務 G>  
 (6) サステイナブル Vision2023 策定（案）の件 <持続可能な JC 探究会議>  
 (7) ～ (57) 除名の件 <総務 G>

## 報告事項

- (1) メディア等を用いた対外への JC 運動の発信に関する進捗について <ブランディング G>  
 (2) 委員会出席率経過報告（1月から9月）について <総務 G>

第11回 理事会レポート

開催日時：2020年11月25日(水) 19時00分～22時45分  
開催場所：名古屋JC会館

審議事項

- (1) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (2) メディア等を用いた対外へのJC運動の発信の実施報告並びに決算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (3) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業2)の実施報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (4) 学生による社会課題解決を発信する例会の開催報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (5) 民間外交を推進する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (6) 役員選出規程の一部改正(案)承認の件 <総務 G>
- (7) 出席規程の一部改正(案)承認の件 <総務 G>
- (8) 会費規程の一部改正(案)承認の件 <総務 G>
- (9) 定款の一部改正(案)承認の件 <総務 G>
- (10) 賛助企業に関する規程制定(案)承認の件 <総務 G>
- (11) サステイナブル Vision2023 策定(案)承認の件 <持続可能なJC探究会議>
- (12) 2021年度(第71年度)理事・監事承認の件 <役員>
- (13) 2021年度(第71年度)事業計画(案)承認の件 <役員>
- (14) 2021年度(第71年度)収支予算(案)承認の件 <役員>
- (15) 2021年度(第71年度)特別顧問推薦承認の件 <役員>
- (16) 2021年度(第71年度)公益目的事業配賦割合(案)承認の件 <総務 G>
- (17) ～(58)除名承認の件 <総務 G>
- (59) 2020年度(第70年度)12月役員選出総会の開催日時・開催場所及び付議事項(案)承認の件 <総務 G>
- (60) ～(61)休会期間変更届承認の件 <総務 G>
- (62) ～(63)休会承認の件 <総務 G>
- (64) 休会復帰承認の件 <総務 G>

報告事項

- (1) 喪中一覧について <総務 G>
- (2) 公益社団法人名古屋青年会議所支援団体承認について <総務 G>
- (3) 2020年度(第70年度)公式スケジュール変更について <総務 G>
- (4) 退会届について <総務 G>

確認・要望・依頼事項

- (1) 2020年度(第70年度)委員会事業報告提出について <総務 G>

第12回 理事会レポート

開催日時：2020年12月23日(水) 18時30分～21時30分  
開催場所：ホテル名古屋ガーデンパレス

審議事項

- (1) 名古屋青年会議所のブランドを確立する事業(経済情報アプリを用いた討論番組の制作)の実施報告並びに決算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (2) JCフェスティバル例会の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (3) JCフェスティバル例会サブイベント(グローバルシティ確立委員会)の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <国際 G>
- (4) JCフェスティバル例会の開催報告並びに決算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (5) JCフェスティバル例会メインフォーラムの開催報告並びに決算(案)承認の件 <ブランディング G>
- (6) JCフェスティバル例会サブイベント(雇用格差解消実現委員会)の開催報告並びに決算(案)承認の件 <経済 G>
- (7) JCフェスティバル例会サブイベント(グローバルシティ確立委員会)の開催報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (8) 「良い会社」を創造する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <経済 G>
- (9) 人財プラットフォームを構築する事業の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <経済 G>
- (10) 人財プラットフォームを構築する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <経済 G>
- (11) 雇用格差解消を実現する事業の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <経済 G>
- (12) 雇用格差解消を実現する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <経済 G>
- (13) ジェンダー平等社会を実現する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <経済 G>
- (14) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業(学生事業)の実施報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (15) SDGsを軸にした社会課題を解決する人財を育成する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (16) リカレント教育を推進する事業の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <人財 G>
- (17) リカレント教育を推進する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (18) 新入会員に対するオリエンテーションの修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <人財 G>
- (19) 新入会員に対するオリエンテーションの実施報告並びに決算(案)承認の件 <人財 G>
- (20) グローバルシティを確立する事業の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <国際 G>
- (21) グローバルシティを確立する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (22) スポーツを通して国際交流を推進する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (23) 誰もが共生できる社会を実現する例会の開催報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (24) グローバルな課題を解決する人財を育成する事業の実施報告並びに決算(案)承認の件 <国際 G>
- (25) 12月例会の修正計画並びに補正予算(案)承認の件 <総務 G>
- (26) 12月例会の開催報告並びに決算(案)承認の件 <総務 G>
- (27) ～(28)休会承認の件 <総務 G>

報告事項

- (1) 事務局員賞与決定について <総務 G>
- (2) JC宣言文改訂について <総務 G>
- (3) 退会届について <総務 G>

# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

青年会議所運動





### The Creed of junior chamber International

We Believe;  
 That faith in God gives meaning  
 and purpose to human life;  
 That the brotherhood of man transcends  
 the sovereignty of nations;  
 That economic justice can best be won by  
 free men through free enterprise;  
 That government should be of laws rather than of men;  
 That earth's great treasure lies in human personality; and  
 That service to humanity is the best work of life.

### The JCI Mission

To provide development opportunities that empower  
 young people to create positive change.

### The JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

## 青年会議所(JC)とは…

青年会議所(JC)は、“明るい豊かな社会”の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった20才から40才(名古屋JCは21才から40才)までの指導者たらんとする青年の団体です。

青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

60年余りの歴史をもつ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりますが、現在691の都市に26,942人余の会員を擁し、各地域の運動に対する総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。全世界に及ぶこの青年運動の中核は国際青年会議所ですが、105NOM(国家青年会議所)があり約149,638人が国際的な連携をもって活動をしています。

日本青年会議所の事業目標は、“社会と人間の開発”です。  
 その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し(自由)を基盤として民主的集団指導能力の開発を推し進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創り出すため、市民運動の先頭にとって進む団体、それが青年会議所です。

### JC三信条

TRAINING(修練)  
 地上最大の宝は個々の人格にあり  
 SERVICE(奉仕)  
 社会への奉仕は人生最大の仕事である  
 FRIENDSHIP(友情)  
 友情は国家主権に優先する

### JC宣言文

日本の青年会議所は  
 希望をもたらす変革の起点として  
 輝く個性が調和する未来を描き  
 社会の課題を解決することで  
 持続可能な地域を創ることを誓う

※2020年11月5日に開催された公益社団法人日本青年会議所第165回総会決議により改訂されました。

### 綱領

われわれJayceeは  
 社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
 志を同じうする者相集い力を合わせ  
 青年としての英知と勇気と情熱をもって  
 明るい豊かな社会を築き上げよう

### 公益社団法人名古屋青年会議所2000年宣言

自律した活力ある青年として  
 未来に輝く子どもたちを育む  
 運動の原動力となり  
 「愛夢あふれるひとのまち名古屋」  
 を創り上げる





## 公益社団法人日本青年会議所の歴史及び活動

### 日本青年会議所の生立ち

第二次世界大戦直後、日本の社会は精神的にも物質的にも極度に荒廃した状態でした。現状を一日も早く收拾し、新しい秩序を打ち立てなければならないという声次第に高まってきました。この時、経済界で活躍している青年たちの間に一つのグループを作ろうという機運が生じました。そのグループの目的は、青年がお互いに切磋琢磨し、今後の日本の各界における指導者としての基礎を確立し、青年らしい情熱を燃やして「より良い社会」を着々と実現してゆこうというものでした。

このような主旨のもとに集まった青年の手によって東京青年商工会議所(その後商工会議所の制定により、青年会議所と改称)が1949年9月3日に設立されました。これが日本における青年会議所運動の先駆けです。このような理想主義的な運動は、日本各地の指導的青年層に深い共感を与え、大阪、名古屋、前橋、広島、岡山等に続々と

青年会議所が誕生しました。これらJC相互の連絡のため「全国青年会議所懇談会」が1950年に開催され、次いで翌年の1951年2月9日に7都市のJCを会員とした全国的な総合体として社団法人日本青年会議所が設立され、通産大臣より認可されました。さらに、1951年カナダのモントリオールで開催された国際青年会議所第6回世界会議で、日本JCのJCI加盟が承認されました。

また、1970年度はJCIに日本JC初の会頭前田博君が選ばれ、活躍されました。

日本JC設立以来、現在まで50年、その間日本JCは急速な拡大をみました。現在では、691のローカル青年会議所(Local Organization Member:略してLOM)が設立されており、その個人会員数は26,942人余(2021年4月現在)に達しています。

### 日本JCの組織及び機能

日本青年会議所の機能は、各ローカルJC(LOM)の活動を円滑活発に行いやすくするために、LOMへの連絡調整の機能を務めるとともに、対外的にはJCIの構成メンバーすなわち国家JC(National Organization Member:略してLOM)としての機能を果たしています。

日本JCの組織は1967年9月の組織改正によって大幅に変更されました。

国内組織において、名古屋JCは東海地区担当常任理事の統括下にありますが、直接的には愛知ブロック協議会長(地区選出理事)につながっており、LOMとして日本JCの構成員となっています。日本JCには最高の意志決定機関として総会(日本JC定款24~36条)がありますが、その下に評議員会、理事会があって、日本JCの執行機関の機能を果たしています。

### 総会

日本JCの構成メンバーである会員会議所をもって構成する日本JCの最高の意志決定機関であり、日本JCの基

本的重要事項は総会の議決を必要とします。(日本JC定款24~36条)

### 理事会

構成員は理事である会頭、副会頭4名、専務理事、地区担当常任理事10名、並びに会務担当常任理事5名の計21名です。理事会は直前会頭、顧問、監事、議長、特別委員長、委員長で構成されます。

理事会は、総会から委任された事項とその他日本JCの

基本的な重要事項の審議処理に当たります。理事会は原則として毎月1回開催されます。理事会には直前会頭、顧問、監事、議長、特別委員長、委員長が出席して意見を述べるすることができます。

### 委員会

30の委員会があり、日本JC事業活動は委員会組織を通じて、日本JC委員会-ブロック委員会-LOCAL委員会、

というように行われています。

### 日本JCの関係会合

年に一度日本青年会議所全国大会を開催しており、別に各地区において地区会員大会が一度開かれます。総

会は定時総会が年に二度開かれ、全国理事長会議、地区協議会等の会合をもって縦横の調節が行われます。

### 日本JCの地区

日本JCは、運営上、全国を北海道、東北、関東、東海、北陸信越、近畿、中国、四国、九州、沖縄の10地区に分けています。また地区担当常任理事主宰の下に「地区協議会」あり、地区JC間、あるいは日本JCと各地のJCと連絡

事項を協議・調節する役割を果たしています。また地区ごとに毎年1回全員大会(89年度・90年度は休止になった)が開催され、会員相互の意見の交換や党議を通じた親睦がはかられています。

### 日本JCの定款諸規程

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| (1)定款            | (7)経理規則                |
| (2)運営規則          | (8)会計規則                |
| (3)全国全員大会に関する細則  | (9)災害対策活動基金特別会計管理・運営規則 |
| (4)会頭選挙規則        | (10)会計監査人規則            |
| (5)会員資格規則        | (11)理事会議事運用規程          |
| (6)青年会議所新設に関する規程 | 他                      |

### 日本JC歴代会頭

1951年 黒川光朝(東京JC)	1982年 黒川光博(東京JC)	2013年 小畑宏介(秋田JC)
1952年 小坂俊雄(東京JC)	1983年 榎本一彦(福岡JC)	2014年 鈴木和也(岡崎JC)
1953年 掘越善雄(東京JC)	1984年 斉藤斗志二(富士JC)	2015年 柴田剛介(金沢JC)
1954年 服部禮次郎(東京JC)	1985年 野津喬(岡山JC)	2016年 山本樹育(大阪JC)
1955年 森下泰(大阪JC)	1986年 河村忠夫(八戸JC)	2017年 青木照護(名古屋JC)
1956年 森下泰(大阪JC)	1987年 浅利治(横浜JC)	2018年 池田祥護(新潟JC)
1957年 三輪善兵衛(東京JC)	1988年 川越宏樹(宮崎JC)	2019年 鎌田長明(高松JC)
1958年 橋上保久(東京JC)	1989年 更家悠介(大阪JC)	2020年 石田全史(浪江JC)
1959年 千玄室(京都JC)	1990年 藤田公康(広島JC)	
1960年 石川六郎(東京JC)	1991年 川島偉良(岐阜JC)	
1961年 山崎富治(東京JC)	1992年 西村予史男(静岡JC)	
1962年 古市実(大阪JC)	1993年 岡田伸浩(横浜JC)	
1963年 瀬味保城(東京JC)	1994年 小原嘉文(佐賀JC)	
1964年 小谷隆一(京都JC)	1995年 山本潤(伊丹JC)	
1965年 遠山直道(東京JC)	1996年 榎畑直尚(和歌山JC)	
1966年 辻兵吉(秋田JC)	1997年 村岡兼幸(由利本荘JC)	
1967年 柳沢昭(東京JC)	1998年 新田八朗(富山JC)	
1968年 神野信郎(豊橋JC)	1999年 松山政司(福岡JC)	
1969年 牛尾治朗(東京JC)	2000年 上島一泰(大阪JC)	
1970年 米原正博(鳥取JC)	2001年 土屋龍一郎(長野JC)	
1971年 秋保盛一(大阪JC)	2002年 松本秀作(枚方JC)	
1972年 小野正孝(長野JC)	2003年 揚原安麿(福井JC)	
1973年 佐藤助九郎(東京JC)	2004年 米谷啓和(姫路JC)	
1974年 前田完治(東京JC)	2005年 高竹和明(倉敷JC)	
1975年 佐藤敬夫(秋田JC)	2006年 池田佳隆(名古屋JC)	
1976年 田口義嘉壽(名古屋JC)	2007年 奥原祥司(呉JC)	
1977年 小沢一彦(横須賀JC)	2008年 小田與之彦(七尾JC)	
1978年 麻生太郎(飯塚JC)	2009年 安里繁信(那覇JC)	
1979年 井奥貞雄(松戸JC)	2010年 相澤弥一郎(東京JC)	
1980年 鴻池祥肇(尼崎JC)	2011年 福井正興(京都JC)	
1981年 森輝彦(大阪JC)	2012年 井川直樹(松山JC)	

## JCI・日本JC歴代役員出向者一覧表

## 1951年度(1951年1月1日～6月30日)

大隈 孝一 副会頭  
神野 三男 理事

## 1952年度(1951年7月1日～1952年6月30日)

神野 三男 副会頭  
青木 賢三 理事

## 1953年度(1952年7月1日～1953年6月30日)

青木 賢三 副会頭  
豊田幸吉郎 理事  
青木 賢三 理事

## 1954年度(1953年7月1日～1954年6月30日)

豊田幸吉郎 常任理事

## 1955年度(1954年7月1日～1955年6月30日)

八代健三郎 理事

## 1957年度(1957年1月1日～12月31日)

中部政次郎 理事

## 1958年度(1958年1月1日～12月31日)

白木 信平 理事

## 1959年度(1959年1月1日～12月31日)

白木 信平 副会頭

## 1960年度(1960年1月1日～12月31日)

白木 信平 副会頭

## 1961年度(1961年1月1日～12月31日)

盛岡 家弘 理事  
内藤 明人 理事

## 1962年度(1962年1月1日～12月31日)

服部 英一 理事

## 1963年度(1963年1月1日～12月31日)

内藤 明人 副会頭  
吉村 太郎 理事  
白木 信平 JCI経済活動(委)委員長

## 1964年度(1964年1月1日～12月31日)

鈴木 正治 理事  
白木 信平 JCI副会頭

## 1965年度(1965年1月1日～12月31日)

国枝 寅雄 理事  
富田 和夫 理事

## 1966年度(1966年1月1日～12月31日)

加藤 嘉紀 理事  
JCI地区担当副会頭

## 1967年度(1967年1月1日～12月31日)

富田 和夫 常任理事  
田中丸福男 理事

## 1968年度(1968年1月1日～12月31日)

伊藤洋太郎 常任理事  
天野 源博 理事  
富田 和夫 監事  
加藤 喜紀 JCI地区担当副会頭

## 1969年度(1969年1月1日～12月31日)

伊藤洋太郎 常任理事  
網島 彰 理事

## 1970年度(1970年1月1日～12月31日)

伊藤洋太郎 副会頭  
林 純蔵 理事

## 1971年度(1971年1月1日～12月31日)

松尾 宗倫 理事  
川村 梯式 理事  
伊藤洋太郎 監事

## 1972年度(1972年1月1日～12月31日)

川村 梯式 常任理事  
久留宮歆人 理事

## 1973年度(1973年1月1日～12月31日)

田口義嘉壽 常任理事  
木村 茂 理事

## 1974年度(1974年1月1日～12月31日)

木村 茂 常任理事  
鈴木 勝義 委員長

## 1975年度(1975年1月1日～12月31日)

田口義嘉壽 副会頭  
広瀬 武 委員長  
田口義嘉壽 特別委員長

## 1976年度(1976年1月1日～12月31日)

田口義嘉壽 会頭  
広瀬 武 常任理事  
西村 嘉紘 委員長

## 1977年度(1977年1月1日～12月31日)

田口義嘉壽 直前会頭  
川村 梯式 法制顧問  
柏木 順彦 常任理事  
西村 嘉紘 特別委員長  
広瀬 武 APDC議長  
小林 丈紘 地区特別委員長

## 1978年度(1978年1月1日～12月31日)

川村 梯式 専務理事  
田口義嘉壽 特別顧問  
西村 嘉紘 常任理事  
加藤 千磨 特別委員長  
川村 梯式 特別委員長  
広瀬 武 JCI副会頭

## 1979年度(1979年1月1日～12月31日)

西村 嘉紘 専務理事  
野寄東太郎 常任理事  
杉本 仁至 評議員  
嶋飼 治昭 規則委員長  
吉田 春樹 社会開発委員長

## 1980年度(1980年1月1日～12月31日)

西村 嘉紘 専務理事  
牧野 昌司 規則委員長  
青山 孝雄 経済問題委員長

## 1981年度(1981年1月1日～12月31日)

西村 嘉紘 財政顧問  
鈴木 和雄 指導力開発委員長  
雨宮 治昭 第一会員委員長

## 1982年度(1982年1月1日～12月31日)

青山 孝雄 政策室長  
襟木 正雄 拡大委員会委員長  
雨宮 治昭 全国大会運営委員会委員長

## 1983年度(1983年1月1日～12月31日)

青山 孝雄 財政顧問  
安藤 重良 愛知ブロック協議会会長  
田島 慶雄 LOMサービス委員会委員長  
山口 勝弘 国際交流委員会委員長

## 1984年度(1984年1月1日～12月31日)

鈴木 邦夫 政策室長常任理事  
平松潤一郎 国際交流委員会委員長  
浅野 純史 家庭教育問題委員会委員長

## 1985年度(1985年1月1日～12月31日)

鈴木 邦夫 副会頭  
橋元 幸次 情報サービス委員会委員長  
館 健吾 国際交流委員会委員長

## 1986年度(1986年1月1日～12月31日)

館 健吾 国際室長  
'86年世界会議連絡会議副議長  
伊藤 幸太 国際問題委員会委員長  
長瀬由司久 第3研修委員会委員長

## 1987年度(1987年1月1日～12月31日)

館 健吾 監事  
橋元 幸次 全国大会委員会特別委員長  
立松 賢 褒賞委員会委員長  
伊藤 幸太 JCI最重点テーマ・コーディネーター  
加来 純一 JCI会頭特別補佐

## 1988年度(1988年1月1日～12月31日)

岡嶋 昇一 文化政策委員会委員長  
伊藤 幸太 JCI副会頭  
加来 純一 JCIコミュニケーション室スタッフ  
鬼頭 完次 愛知ブロック協議会会長

## 1989年度(1989年1月1日～12月31日)

伊藤 幸太 JCI副会頭  
田口 利寿 グローバルプログラム委員会委員長  
渡辺 嘉一 アジア太平洋開発委員会担当役員  
加来 純一 JCIオフィシャルフォトグラファー  
JCIアスバック  
セネター会議財政顧問  
林 芳行 東海地区協議会会長

## 1990年度(1990年1月1日～12月31日)

澤木 孝夫 人間開発室室長  
加藤 芳一 地域国際交流委員会委員長  
加来 純一 JCIオフィシャルフォトグラファー

## 1991年度(1991年1月1日～12月31日)

澤木 孝夫 財政顧問  
新谷 岳史 地域国際交流委員会委員長  
長屋 博 第二政策委員会委員長

## 1992年度(1992年1月1日～12月31日)

渡辺 嘉一 人地域応援室室長  
野畑 幹徳 国際交流委員会委員長

## 1993年度(1993年1月1日～12月31日)

白瀧 正人 総務委員会委員長  
富永 浩司 クローバルトレーニングスクール委員会委員長

## 1994年度(1994年1月1日～12月31日)

新谷 岳史 国際貢献室長  
水野 新平 国際貢献プログラム委員会委員長

## 1995年度(1995年1月1日～12月31日)

光田 敏夫 環境室長  
網島 裕明 地球環境問題委員会委員長

## 1996年度(1996年1月1日～12月31日)

光田 敏夫 副会頭  
菊岡 宏弘 メディアコミュニケーション委員会委員長  
富永 浩司 愛知ブロック協議会会長

## 1997年度(1997年1月1日～12月31日)

富田 英之 監事  
松尾 宗典 教育政策委員会委員長

## 1998年度(1998年1月1日～12月31日)

松尾 宗典 全国大会運営会議議長  
酒井 良太 APDC議長特別補佐

## 1999年度(1999年1月1日～12月31日)

松尾 宗典 「心の教育」創造実践室室長  
西脇 正導 企業家ジュニア育成委員会委員長

## 2000年度(2000年1月1日～12月31日)

酒井 良太 国際アカデミー特別委員会特別委員長  
鈴木 利明 サマーコンファレンス運営特別委員会特別委員長

## 2001年度(2001年1月1日～12月31日)

西脇 正導 新クロニクル創造グループ室長  
神野 恭寿 国境なき奉仕団特別委員会特別委員長

## 2002年度(2002年1月1日～12月31日)

笹野 暢宏 社会起業家育成委員会委員長

## 2003年度(2003年1月1日～12月31日)

伊藤 武史 APDC出向役員  
伊藤 嘉浩 国際アカデミー委員会委員長  
西脇 正導 愛知ブロック協議会会長

## 2004年度(2004年1月1日～12月31日)

伊藤 武史 JCI会頭特別補佐  
笹野 暢宏 業種別部会運営会議議長

## 2005年度(2005年1月1日～12月31日)

池田 佳隆 副会頭  
雨宮 秀寿 道徳力創造委員会委員長

**2006年度(2006年1月1日～12月31日)**

池田 佳隆 会頭  
 柚木 猛 経営資質向上委員会委員長

**2007年度(2007年1月1日～12月31日)**

池田 佳隆 直前会頭  
 伊藤 嘉浩 会務常任(国際グループ)  
 杉本 高男 倫理道徳力教育実践委員会委員長

**2008年度(2008年1月1日～12月31日)**

堤 創 マスメディア検証委員会委員長

**2009年度(2009年1月1日～12月31日)**

杉本 高男 会務常任(「真日本建国」創造グループ)  
 後藤 諭 サマーコンファレンス運営特別委員会委員長

**2010年度(2010年1月1日～12月31日)**

末岡 仁 たくましく生き抜く力実践委員会委員長

**2011年度(2011年1月1日～12月31日)**

杉本 高男 副会頭  
 青木 照護 ナショナルアイデンティティ確立会議議長

**2012年度(2012年1月1日～12月31日)**

杉本 高男 顧問  
 鈴木 拓将 全国大会運営会議議長  
 柚木 猛 愛知ブロック協議会会長

**2013年度(2013年1月1日～12月31日)**

末岡 仁 地区担当常任  
 青木 照護 会務常任(未来グループ)  
 杉浦 卓 拡大委員会委員長

**2014年度(2014年1月1日～12月31日)**

大和 直樹 サマーコンファレンス運営委員会委員長  
 川中洋太郎 新・日本風景論創造委員会委員長

**2015年度(2015年1月1日～12月31日)**

青木 照護 副会頭  
 河村 直樹 日本の未来選択委員会委員長

**2016年度(2016年1月1日～12月31日)**

青木 照護 副会頭  
 浅野 弘義 共感ネットワーク構築委員会委員長

**2017年度(2017年1月1日～12月31日)**

青木 照護 会頭  
 中林 良太 内部会計監査人グループ東海地区代表  
 光田 侑司 経世済民会議議長  
 荒尾 政弘 渉外委員会委員長

**2018年度(2018年1月1日～12月31日)**

青木 照護 直前会頭  
 光田 侑司 会務担当常任理事  
 浅野 弘義 愛知ブロック協議会会長  
 白龍 征人 稼ぐ人財創出委員会委員長

**2019年度(2019年1月1日～12月31日)**

鈴木 信輝 JCI APDC事務総長  
 澤木 信男 地域経済再興委員会委員長

**2020年度(2020年1月1日～12月31日)**

浅野 弘義 顧問  
 深澤 和将 JCI APDC開発担当役員  
 早矢仕友幸 アジアアライアンス構築委員会委員長

## 公益社団法人名古屋青年会議所の歩み

- 第1年度** 大隈孝一(1950/8~1951/6) 50名  
“早熟な大人になるに勿れ”のスローガンのもとに、名古屋経済、文化の調査研究日本JC設立への協力、JCの運営についての会員の意見調査をおこなった。
- 第2年度** 神野三男(1951/7~1952/6) 52名  
“住みよき美しい名古屋に”をテーマに美化運動を強力に推進する一方、企業の問題、市の将来像、青年不良化防止などについて研究し、事業活動を展開していった。
- 第3年度** 青木賢三(1952/7~1953/6) 54名  
前年度にひきつづき電力委員会を開設、電力不足の問題を研究、提言を行った。JCIマニラ会議に参加の際、モンテンパ取容所の死刑囚に家族の声を送り届ける。
- 第4年度** 豊田幸吉郎(1953/7~1954/6) 56名  
第1回全国会員大会を11月7~8日、名古屋商工会議所をメイン会場として各地30JC155名の参加を得て盛大に挙行了。又記念事業として桜通に500本のプラタナス植樹。
- 第5年度** 八代健三郎(1954/7~1955/6) 60名  
荒川宗三郎  
完成間もないテレビ塔に大日章旗を寄贈、東山公園で国旗に対する意識調査を実施。西独フランクフルトJCと国際児童画交換を企画、60の優秀作品を送った。
- 第6年度** 荒川宗三郎(1955/7~1956/12) 70名  
竹中康浩  
広小路資生堂画廊にて日独児童画展開催。身障者の救護施設“新生寮”慰問。自動車事故急増対策として、伏見町角に歩行者専用信号寄贈。南ベトナムに医療支援班を派遣。
- 第7年度** 白木信平(1957/1~12) 78名  
服部英一  
JCI世界会議東京大会を前に、名古屋JC主管、第8回東海地区大会開催。オーストラリアのニューカッスルJCとベンフレンド交換等国際色豊かな事業展開。
- 第8年度** 中部政次郎(1958/1~12) 82名  
安藤壽彦  
JCIアジア地域会議にて名古屋JC初褒賞。虚弱児童保護施設“ひばり荘”慰問。交通道徳をテーマに映画“いつも仲よく”を制作。定款を変更し、組織の強化を図った。
- 第9年度** 盛田慶吉(1959/1~12) 98名  
内藤明人・釈治  
伊勢湾台風被害校にスポーツ用具を贈る。青少年不良化防止標語を記した時計塔を東山公園に設置。皇太子殿下ご成婚を祝し記念植樹。国際児童画交換、国旗寄贈等実施。
- 第10年度** 服部英一(1960/1~12) 116名  
内藤明人・杉浦勝一  
例会等を利用し“効果的な話し方”の研究。10周年記念行事として、大地球儀の目録を市長に贈呈、又“安全通学、よい子のつとめ”を名交会館にて開催。
- 第11年度** 安藤壽彦(1961/1~12) 123名  
前田直純・中部政次郎・鈴木正治  
内部充実と組織の強化を行動指針とし、経済活動、会員訓練両委員会を新設。働く人々の考え方を調査、又特別会員の会社や家族を毎月1回訪問し貴重な意見を得た。
- 第12年度** 内藤明人(1962/1~12) 138名  
小島鏡次郎・吉村太郎・鈴木忠源  
“10年後の名古屋”をメインテーマに名古屋の都市発展の方向を探求。都市美化運動の“誓いのしおり”を配布、くずかごを東山公園に寄贈。東京大阪に次いで社団法人化。

- 第13年度** 鈴木正治(1963/1~12) 174名  
沢田裕之・鈴木靖一郎・小栗稔也  
JCデー統一事業として、“都市計画と都市美”のテーマで市長を囲む座談会を開催。又松坂屋にて“美しい街作り展”を開いた。白木信平君をJCI副会頭に送る。
- 第14年度** 小島鏡次郎(1964/1~12) 181名  
富田和夫・伊藤次郎左衛門・国枝寅雄  
JC交通パトロール隊を結成。“みんなの町を美しく”のテーマのもとでテレビスポットキャンペーン放映、又各所にポリ袋配布。韓国JCへ友愛の木を贈る。
- 第15年度** 吉村太郎(1965/1~12) 181名  
森村和正・中北智久・加藤嘉紀  
Jayceeらしくを行動原理に、中小企業と経営意識についての討論会実施。毎月の会社訪問による実態調査、身障者の為のチャリティ色紙展、中電ホールにて15周年記念式典。
- 第16年度** 富田和夫(1966/1~12) 176名  
青島邦夫・永井譲・天野源博  
自民、民社、社会三党青年局長によるパネルディスカッション。誇りある日本人としての社会連帯感の再構築のテーマのもと中部地区市長座談会開く。犬山にて“青年経営者セミナー”開催。
- 第17年度** 伊藤次郎左衛門(1967/1~12) 219名  
今井亮次・田中丸福男・林純蔵  
“明るい豊かな中部圏の創造”のスローガンのもとキャラバン隊は45JCを訪問。例会では中部圏問題を討論した。ハーバード方式による“第2回青年経営者セミナー”開催。
- 第18年度** 国枝寅雄(1968/1~12) 249名  
池山辰己・綱島彰・堀田逞二  
「最適社会の経済学」の著者加藤寛教授らを講師に第3回青年経営者セミナー開催。愛知青少年協会の中にJCの文庫創設。日本JC、JCIともに最優秀広報誌賞を受賞。
- 第19年度** 林純蔵(1969/1~12) 278名  
水野金平・近藤徹・綱島彰・久留宮歓人  
“輝ける名古屋の未来にそなえJC”“全国会員大会を成功させるかけ橋になろう”をテーマに、①地元経営者100社訪問、②青少年育成の為にMusic Festival、③交通安全の推進、④名古屋の街づくり討論会等を行う。翌年の名古屋全国大会理念の確立と体制づくりに邁進した。
- 第20年度** 綱島彰(1970/1~12) 317名  
三木庸行・伊藤鏡一・松尾宗倫・川村梯式  
名古屋JC創立20周年を迎え“日本人としての共感の内に新しい価値観を創造しよう”をスローガンとして、全国に先駆け例会毎に市民参加を呼びかけた。念願の第19回全国会員大会を1万余名の参加を得て成功裡に終わる。
- 第21年度** 中北智久(1971/1~12) 344名  
首藤康文・黒川勇司・木村茂・八神弘雄  
心豊かな幅広い人間性をもって企業経営に努力してこそ、企業の社会的経営的役割が果たされるの発想に基づき、岡本太郎らを講師に「心の開発セミナー」開催。中国他アジア諸国との交流活動展開。よき都市環境作りを討論。
- 第22年度** 伊藤鏡一(1972/1~12) 383名  
伊藤泰弘・松尾宗倫・長谷川真弘・田口義嘉壽  
樹木の育たない所に人間は住めない、の発想によりリモートセンシング方式により名古屋市及び周辺地域の緑樹の活力度を診断、大きな反響を呼んだ。“日本の原点”をテーマに経営セミナー、“若者の集いリズムの祭典”等実施。
- 第23年度** 久留宮歓人(1973/1~12) 416名  
杉野峯一郎・宮地国行・川村敏雄・堀田日夫  
島田総裁を招き“世界のエネルギー危機と日本”をテーマに講演会。初の社会経済視察団をカルフォルニアに派遣、米国企業の新しい社会的側面を訪問調査。“あおい地球”を心に書き、最も荒れた公園緑化キャンペーン実施。

**第24年度** 田 口 義嘉寿(1974/1~12) 448名

南館 欣也・柏木 順彦・大隈 園彦・小林 一夫  
専務理事 西村 嘉紘

前年の緑に続き水の診断“みんなで考えよう、郷土の水”シンポジウム開く。参議院選を前に5党の衆議院議員を集めテレビ討論開催。“ラブ・ナゴヤ”をメインテーマに、永六輔らによるチャリティーショー“恐れを知らぬ音楽会”他多面的にJCデー統一事業展開。戦後最高の倒産が発生する中、身障者の為の雇用バンク設立に努力。

**第25年度** 木 村 茂(1975/1~12) 509名

高村 博三・鈴木 勝義・山口 直樹・小林 丈紘  
専務理事 森 博一

創立25周年記念講演は土光敏夫、草柳大蔵講師にて“これからの日本”を開催。記念誌「若い樹はさらに」刊行。タイムカプセル<21世紀への夢のプレゼント>を科学館前庭に埋設。JCデー統一事業は区民集会“みんなで語ろうPTA”そして市民集会“日本の教育の課題”を永井文部大臣、中村メイコにて開催した。

**第26年度** 川 村 悌 式(1976/1~12) 555名

大島規仔志・加藤 千麿・安藤 龍彦・松岡 浩一  
専務理事 杉本 仁至

田口義嘉寿を日本JC会頭として支援し、“若い力で拓け未来へつづく道”をスローガンに「草の根文化」のテーマにて事業を展開。JCデー統一事業は交通問題シンポジウム、第7回芸術部会展、市民文化会議、ちびっ子会議等を展開。名古屋市民の歌<我が名古屋>を公募。ヨーロッパ経済視察団を派遣。

**第27年度** 加 藤 千 麿(1977/1~12) 464名

岡田 克巳・伊藤 善朗・野寄東太郎・古川 爲之  
専務理事 町田 重夫

(1)JC運動を通じて自分の企業活動を考え、自立した強い個人になるべく努力、(2)同志的連帯感の再確認、(3)健全な地域社会の確立へ努力、(4)明日の名古屋のコミュニティー作りを考える。この4つを軸に“新しい経済秩序の確立と明日への繁栄をめざして”のテーマで経済シリーズ例会を開催。「名古屋経済会議」「名古屋青年会議」を開催。

**第28年度** 野 寄 東太郎(1978/1~12) 551名

田嶋 好博・待井 雄介・杉本 仁至・吉田 春樹・大原 康之  
専務理事 鶴飼 治昭

(1)地についたJC運動を(2)企業と経済人の進む道を考えよう(3)市民のニーズに応える地方自治に取り組もう(4)広い視野に立ち国際都市名古屋を考えよう。この4つを軸に「名古屋青年会議」は88年オリンピック名古屋誘致の調査研究「名古屋経済会議」は「自由主義経済と企業家精神」JCデー統一事業は“企業活動とJC運動”を開催。

**第29年度** 古 川 爲 之(1979/1~12) 551名

稲川 守彦・吉田 大士・水谷 鎮夫・安藤 重良・青山 孝雄  
専務理事 武部 宏

(1)国家的国際的な見地から愛する名古屋の将来を考え、心を込めた運動を(2)思いやりと対話で会員意識のギャップをなくし、連帯を深め効率的な活動を(3)国家青年会議所の先駆けとして自覚をもって責任ある活動。以上3点にて事業展開。特に2年に亘った「青年会議」「経済会議」を「名古屋大都市圏青年会議」に集大成。“名古屋オリンピックを誘致をすすめる会”を各界に働きかけ発足させるために尽力した。

**第30年度** 吉 田 春 樹(1980/1~12) 564名

島本 迪彦・鶴飼 治昭・雨宮 治昭・金森徳三郎・鈴木 和雄  
専務理事 樺木 正雄

“拡げよう世界の和、育もうなごやの心、たかめよう青年の意識”のスローガンのもと事業展開。特に5月の「名古屋オリンピックフェスティバル」にて名古屋で初めてのシティマラソンを市民各層の参加を得て実施。又、「こどもの祭典」も実施。30周年記念事業は(1)ナゴヤまつりフェスティバル(2)青少年まつり文化大賞(3)記念出版(4)記念式典と懇談会(5)中国のチビッツ大使「小紅花芸術団」の公演を開催。JCデー統一事業は“日本の安全と防衛”のテーマもとの三分科会を開きその後パネルディスカッション方式により総括的な討論会を開催。

**第31年度** 青 山 孝 雄(1981/1~12) 647名

安井 隆豊・山本 祥二・河原 好彦・鬼頭 康之・那須 國宏  
専務理事 天野 椒明

「私と私たち」というキャッチフレーズのもとに、(1)新しい時代における先見性の確立と2001年への提案を!!

(2)活き活きとした名古屋の実現へより具体的な働きかけを!!(3)次代を担う青年実業家としての見識を高め果敢に発言し行動を!!を基本姿勢の三本柱とした31年度の事業はスタートした。名古屋シティマラソンは5000名の市民ランナーの歓声のうちに終了、「若き企業家セミナー」は果敢に発言し行動をする青年実業家を目指す我々にとってバラエティに富んだ講師団から啓示を受け、更に「トークインナゴヤ」では数度に亘る勉強会を重ね、中央と名古屋とのパイプ作りの初期の目的を十分に果たした。「名古屋オリンピック」は残念ながらソウルに敗れてしまったが、これまで蓄積されてきた力と情熱を失うことなく新たな闘志が生まれた年であった。

**第32年度** 安 藤 重 良(1982/1~12) 607名

岩田 玄知・久郷 省二・酒井 敏彦・丹羽 幸彦・鈴木 邦夫  
専務理事 牧野 昌司

「精神的拡充」「少数から多数」「未来に挑戦する青年」「活力とゆとり」という4つの目標を最優先されるべき問題としてとらえて活動が展開された。同時に、名古屋JC自らが名古屋の国際化と活性化を積極的に展開する為、近い将来に「JCI世界会議」を名古屋に誘致することを決議し、日本JC、JCIへ開催の意志ありの正式な表明を行った。

**第33年度** 鈴 木 邦 夫(1983/1~12) 624名

嶋田 健二・竹田 光宏・堀田 達夫・吉田 雅樹・伊藤 建一  
専務理事 尾上 昇

変化が複合、そして加速していく今日、今こそ「新たな座標軸」が求められる。こと命題のもとに数多くの事業が遂行された。外に対しては恒例の「第4回ナゴヤシティマラソン」、「懸賞論文」、「行革フォーラム」、「シネソン」の多岐にわたった。内にあたっては指導者の倫理を問うとして4つの経営塾委員会がそれぞれ独自に経営塾を開設した。また念願のJCI世界会議はこうした事業活動と並行して積極的に誘致運動が展開され、11月の台北での世界会議で1986年名古屋開催が内定された。

**第34年度** 伊 藤 建 一(1984/1~12) 686名

大原 広昭・山口 道夫・鈴木 幹雄・鬼頭 完次・岩田 栄一・平松潤一郎  
専務理事 石田 喜樹

名古屋JCのアイデンティティの確立を図ると共に、一方では、'86世界会議の名古屋誘致を成功させることを目標に一年間の事業が展開された。継続事業は、市民参加のイベントとして定着してきた。数々の新たな特別事業が企画され、名古屋パソコンフェスティバル、都市デザイン展、わんぱく相撲、ゲートボール大会等が実施された。更に世界会議誘致に関しては、積極的なキャンペーンがなされた。世界会議の開催決定と共に、名古屋の活性化、国際化を目指して遭遇した1年だった。

**第35年度** 吉 田 雅 樹(1985/1~12) 671名

渡辺 岳宏・村井 優文・長瀬由司久・白木 勝久・伊藤 幸太  
専務理事 浅野 幸次

不確実な境遇だからこそ、自らの手によって変革の気概を持った魅力ある地域のニューリーダーとして、青年会議所会員が時代を創造する「チェンジメーカー」としてふさわしい資質を得ているかどうか常に挑戦し検証してゆく謙虚な姿勢を忘れないことを活動の基本とした。

また、86年の世界会議準備の年として委員会を機能的に編成し、国内はもとより世界中どの大会にもグリーンジャケットがPRに勇躍した1年であった。

**第36年度** 山 口 道 夫(1986/1~12) 754名

後藤 正憲・館 健吾・加藤 順造・加藤 和豊・白木 勝久・平松潤一郎・立松 賢  
専務理事 鈴木 幹雄

「21世紀への挑戦—今、グローバルコミュニケーション—地球・技術・人間愛」をテーマに第41回JCI世界会議を開催した。名古屋での国際的な行事として海外に62ヵ国2200名、国内を合わせて1万3000余人が参加し過去に例をみないスケールとなり、国際都市推進に寄与し、地域に密着した市民のための青年会議所のイメージを定着させ、名古屋青年会議所の歴史の中でエポックメイキングイベントとして1ページを飾るにふさわしい快挙であった。

**第37年度** 加 藤 和 豊(1987/1~12) 714名

鈴井 優・名倉 嗣治・奥村 和敏・石田 喜樹・林 芳行  
専務理事 北澤 恒雄

名古屋JCを次代に向けどのように方向づけるか。世界会議開催を通じて与えられた力を新たな事業展開の中で地域社会に還元し、肥大化した組織を簡素化し充実させる事を基本方針とした。「大名古屋圏のアメニティを求めて」の統一テーマの下8回にわたるシリーズ例会を開催し、その研究成果を踏まえた10月特別例会、「ハイクオリティライフ'87」「ときめきパビリオン'87」の各事業を展開し広く市民行政に名古屋の未来を提言し、「デザイン博」の先駆けとなった。

**第38年度** 林 芳 行(1988/1~12) 790名

占部 憲一・浅野 幸次・尾関 和成・澤木 孝夫・田口 利寿  
専務理事 新実 宣英

本年は四つの重点事業をはじめ継続事業、新規事業を含め大小様々な事業を展開しJC運動の目的とするリーダーシップの育成と地域開発に努めた。「アジアNICSとの国際会議」は経済協力の体制を各国地域の官学民の立場から意義深い議論がなされた。また要人の諸氏との交流を通じて将来有効な人脈が期待できる。「クリーンナゴヤ運動」はJC運動のかつての指針であった奉仕活動を全会員が体験した。単に美化運動に留らぬよう体験を通じて街の景観を考える機会とした。また他団体と共に行動することによりJC運動に対する地域の評価を実感することができた。「デザイン事業」はデザイン博白鳥会場に14,000枚のタイルで600平米の鳥の図を描く壮大な企画が採用された。少年少女が20センチメートルのタイルに夫々の想いを込めて描いた図柄は焼きつけのち、来年会場に敷設される。「優良企業の実態調査」は地域の優良企業100社を訪問し経営者と直に接する事により青年経済人としての資質向上に努めた。報告書は市販の同類の書には見られない斬新な視点があり、調査に携わった会員は勿論のこと、一般会員にも企業経営を考える有益な資料となろう。

**第39年度** 澤 木 孝 夫(1989/1~12) 691名

鈴木 聖三・安藤 貞行・岡嶋 昇一・岩口 孝一  
専務理事 異相 武憲

行動様式としての「交流」と行動理念としての「貢献」をキーワードに、アジア交流祭、留学生ホームステイを実施し文化交流・人的交流を推進するとともに、名古屋市制100周年を記念して開催された世界デザイン博覧会に対しては、前年度からの継続事業であった「みーんなあーちすと」タイル事業を完成させた。また、対内的には、例会開催日を年間スケジュールに予め組み込んで、会員の出席に便宜を図るなどメンバーサービスに心掛け、効果をあげることができた。

**第40年度** 田 口 利 寿(1990/1~12) 697名

岩田 達七・橋元 幸次・桜井 繁・渡辺 嘉一・小坂井雅生  
専務理事 石原 和幸

「グローバルリズム」と「創造的環境改革」をテーマに、大胆な改革をした。「グローバルリズム」では、国家や民族を超え、地球人としてグローバルに考え行動するという哲学を名古屋地球市民会議の開催という形で実践した。「創造的環境改革」では、社会、経済、政治、文化、教育、都市など様々な分野の問題や政策についてトータルな視点から考えた。これらを基にシンクタンク設置に関する研究、JCビジネススクールの開催、対外機関誌の発行、ライブラリー機能の推進、政策開発研修委員会の設置などを行った。

**第41年度** 渡 辺 嘉 一(1991/1~12) 744名

菊地 啓介・金森 茂明・吉岡 正人・岩井 浩司・大竹 敬一  
専務理事 中島 吉隆

多価値化社会に移り変わった今、豊かさの意味を考え見つけ直し、世界・日本・社会・地域・企業・個人の各々が21世紀に向けてのあるべき姿を求め、問い直す機会の一年とした。「人間文明への飛翔一人はもって豊になれる」をテーマに「ビジョンフォーラム21」をメイン事業として開催。国際交流の「留学生ホームステイ事業」、音楽を通じた交流「ミュージックタウン名古屋'91」と各種市民団体との交流「夢いちば'91」の開催など市民の方々と共に活動し、積極的な係わりを推進した。

**第42年度** 大 竹 敬 一(1992/1~12) 776名

長屋 博・井上 隆司・加藤 芳一・篠田 尚久・新谷 岳史  
専務理事 今村 憲治

「意識改革―善への回帰」を理念とし、「環境への積極的関与」を行動指針として、新たな改革のための充実の都市とすることを目標として事業を展開した。教育環境フォーラム'92「地域が育てる子供の未来」を開催し、21世紀を担う子供達のあるべき未来像を多くの方々と一緒に考えた。「フィランソロビー」の研究と実践、国際貢献の研究と海外ミッションの実施、「アイチ未来」と「ナゴヤビジョン」の研究等を行いつつ、各分野における諸団体とのネットワークを推進し、「政策ビジョン」と「長期ビジョン」の策定を行った。

**第43年度** 新 谷 岳 史(1993/1~12) 795名

矢口 隆明・山田 慎也・中野 貴紀・野畑 幹徳・光田 敏夫  
専務理事 大場 泰裕

「新たなJCムーブメントの創造」を基本理念に掲げ、(1)会員自らが資質を高めるための新しい例会の模索や企業家セミナー。(2)地球市民意識を深めるためのベトナム貢献ミッション、米国草の根交流サミット。(3)まちの空気を肌で感じるためのタウンミーティング、ピオトブ運動。(4)家族が共に学び育てあう育児サッカージャンボリー、わんぱく相撲、シティマラソン。(5)新しい時代の新しいJC(New JC)創りの第一歩として理事委員長分離を始めとする諸改革の着手。New JC像発信の場として2001年第50回全国会員大会誘致の総会決議などを行った。新しい理事あるいは委員長の出選方法は決定に至らず、次年度にて継続審議の旨申し送った。

**第44年度** 光 田 敏 夫(1994/1~12) 804名

北 鉄郎・山本 基博・富永 浩司・関谷 俊征・富田 英之  
専務理事 水野 一樹  
常務理事 坂田 稔

あなたはなぜJCに入会したのか。JCはあなたの人生にとって何なのか。時代が大きく変化することで、これまでの価値観の問い直しや新しい秩序の構築が必要となった。「経済人としての社会開発運動」を基本理念とし、社会的な意義・価値ある事業を開催し、自らの資質向上を目指し、家族や企業や所属団体を通して結果として社会の発展につなげる「間接的社会貢献」と2つの方針を基に運動を展開した。委員会に複数参加できるエントリー制度の導入。委員会の目的・内容にあわせ人数の適正配置を行なった。伴い選挙制度の改革をおこなった。またメイン事業として広く市民の参加を求めた「名古屋経済人会議」。愛知国体の開催に伴い「ゆめびっくあいち・後夜祭」の開催など新たな事業とともに、ベトナム貢献活動、中国ミッションの実施をはじめ継続事業を含めて本年度の基本理念を達成することが出来た。

**第45年度** 富 田 英 之(1995/1~12) 738名

水野 新平・湯地 保雄・広里 元英・神谷日出男・鈴木龍一郎  
専務理事 堀田 豊弘  
常務理事 中村 貴之

「人と人との縁を大切に、互いに助け合い、逞しく生きる」を基本テーマに掲げ、従来からの社会貢献事業を推進する一方、以下の事業に取り組んだ。

- (1) 会員データベースの作成・異業種交流例会の開催など、経済人の団体として、メンバー相互の今まで以上に深い交流を目指した。
- (2) 内外の若手経営者を対象として企業経営の哲学や知識を学ぶ<経営塾>を開催した。
- (3) 45周年事業として、変革期の政治・行政・経済を学ぶ<名古屋政経フォーラム>を各界著名人を多数招聘して開催した。
- (4) 年会費を改訂し、財政の健全化を図った。名古屋JCで知り合った青年経済人が生き方や生きる術を学び合い助け合って、地域も企業も家庭も豊かにする、かかる理想に向けて邁進した転換期の1年であった。

**第46年度** 水 野 新 平(1996/1~12) 782名

柴田 芳樹・前川 弘美・綱島 裕明・川津 昌作・金森 伸夫  
専務理事 菊池 一人  
常務理事 木村 隆之

「明るく、自由で、思いやりのあるカオスをめざして」を基本理念に「個の自立」と「真の民主主義」を常にメンバー相互に問いかけ継続事業をはじめ、年間の事業に取り組んだ。

- <対内・対外事業>
- (1) 政治・経済・情報・環境・新産業をテーマに、多くの市民にも参加を頂き、フォーラムを開催。研究成果を提言、報告にまとめ発表した。
  - (2) エントリー事業の積極的開催など「JC活動参画」への機会創出を行う。
  - (3) 万博誘致決議や名古屋の文化を育成支援する決議など21世紀にむけての活動の方向性を提示。
- <組織・運営面>
- (1) 情報化の波に先駆け、インターネットなどの情報活用の具現化や電子化の実用に着手。
  - (2) 選挙制度の改革の実行。
  - (3) 日本、東海地区、ブロックへの出向者の支援の在り方を研究するとともに、ロム全体で支援活動を行った。
  - (4) 対内・対外広報活動の重要性を認識し広く理解を得るべく活動した。46年度の事業の達成はメンバーによる「共通体験」の賜物であったとともに、「カオスの時代」を生き抜く為の証しになった。

**第47年度** 綱 島 裕 明(1997/1~12) 659名

弘田 賢司・伊藤 明人・堀 正人・中村 貴之・菊岡 宏弘  
専務理事 石濱 勇人  
常務理事 原田 弘人

経済の成長にも拘わらず依然として変わらないカオスの中で「精神的にゆとりのある豊かな社会」の実現をめざして「個人の尊厳」・「弱者の尊敬」・「綺麗な地球を子供たちに」・「新たな経済思想の構築」をテーマに以下の事業に取り組んだ。

- (1) 政治・経済・国際交流・環境をテーマに多くの市民にも参加を頂き、名古屋フォーラムを開催。研究成果を提言、報告にまとめ発表した。
- (2) ゆうあいピック愛知・名古屋大会後夜祭を、多数のボランティアの方々の参加・協力で依り開催した。
- (3) 高齢化社会に関する研究をし、生涯学習をテーマとしたセミナーを開催した。
- (4) 2005年愛知万博誘致を支援し、誘致に貢献した。

**第48年度** 鈴木 龍一郎 (1998/1~12) 655人

加藤 啓介・浜 洋一・社本 光永・木村 重夫・松尾 宗典  
 専務理事 鷹野 昇  
 常務理事 加藤 元康

「社会に意見する青年であれ」をテーマに政治や行政にむけて、あるべき日本の方向性の提示を行い、また我々の世論を形成する運動等を中心に活動した。情報公開、地方分権、行政改革、規制緩和などの必要性を具体的に世の中に広める事業に取り組んだ。

- (1) 今、我々にとって必要な経営開発、環境、教育等の勉強を行い、世の中に役立つべく様々なボランティア事業に取り組んだ。
- (2) 「国のかたちと、国民のあり方」という提言集を作成し、1,200人以上が参加した名古屋フォーラムで発表した。その要旨をビデオ化し、市民、各JC、政治・行政の各方面に配り、高い評価を得た。
- (3) JC運営10の指針を提唱し、不況の中、時間的・金銭的負担を減らし参加しやすいJCにしていくように取り組んだ。
- (4) 21世紀ビジョン策定会議の議論をもとに、理事会・総会での多くの議論の末、時代に則した形で選挙制度を改訂した。

**第49年度** 社本 光永 (1999/1~12) 600人

山口 茂樹・入谷 宏典・安藤 真也・杉本 雅彦・加藤 靖始  
 専務理事 早川 直樹  
 常務理事 酒井 良太

「少子化問題」をテーマとしたフォーラムを開催。子供たちがそれぞれの夢を模擬体験する「夢かなえ隊」を開催。21世紀の名古屋JC運動の方向性について、例会でプレゼンテーションを行い、5つの指針を提案した。JCIアワードセミナー開催。

**第50年度** 松尾 宗典 (2000/1~12) 597人

長屋 偉人・加藤 貴史・中北 馨介・西脇 正導  
 専務理事 波多野正春  
 常務理事 下村 直實

【—「真の豊かさ」への挑戦— 今、新しい「自信と誇り」を確立し 断固たる意志を持って 未来の地球を創造し実践躬行する 新たなる旅路に向けて…】を基本理念に掲げ、新しい価値観や方法論に則った政治・経済・社会システムの構築が急がれる中、我々青年会議所が何をすべきか、青年会議所会員として何をなすべきかを自問自答し、そのあり方を議論した上で、運動を展開した。

特に名古屋青年会議所会員一人ひとりが「自信と誇り」を持って活動するためには、まず会員個人個人の資質を向上させることが必要であり、ひいてはそれが組織の活性化につながるとの考えから、会員研修に力を注いだ。

また年当初より、「真に豊かな社会」とは何かを議論し、それを提言書や報告書、さらには様々な実践プログラムへと活かすことができた。そして50周年関連事業として開催された、50周年記念式典、記念フォーラム、地球組、サポート事業、タイムカプセル事業等は、現役会員だけでなく特別会員や全国の青年会議所会員、また行政関係者や財界、マスコミ、さらには市民からも様々な協力や参加をいただき、創立50周年を対外的にも十分にアピールすることができた。

第50年度は名古屋青年会議所にとって大きな節目の年であり、また20世紀最後の年として大きな転換期となった。先輩方が築いてくださった50年という伝統を踏襲した上で、21世紀へ向かって新たな一歩を踏み出すべく、名古屋青年会議所2000年宣言を策定し、名古屋青年会議所の礎を築くことのできた一年であった。

**第51年度** 中北 馨介 (2001/1~12) 616人

金原 泰成・富田 勘司・青木 宏文・山口 哲司  
 専務理事 山田 尚武  
 常務理事 松尾 和彦

## ●(基本方針)

第51年度の名古屋青年会議所は、50年間の節目の年を終えた上で、「つなぐ」をテーマに、行政、経済、環境、教育、国際交流等の分野での活動を展開してまいりました。昨今の大変厳しい経済環境の中、メンバー一丸となって、「集中と徹底」「百花繚乱」を合言葉に、一年間がんばりました。

## ●(主な事業)

第51年度の事業の目玉が、7月のITフォーラムと8月のNPOフォーラムの二つフォーラムです。

7月のテーマは、「ITでつなごう!私たちの未来～一人ひとりがネットワークの主役～」。堺屋太一氏などの著名な講師をお迎えし、広く市民の方々を招き、参加総数2,000名となりました。この事業では日経新聞とのタイアップを実現、そして広く企業の協賛を募り、インパクトのある事業としました。

8月のテーマは、「NPO全国フォーラム2001東海会議 オープニングフォーラム 協働の理念と行動」。講師にイオ

ンの岡田卓也氏などをお迎えし、年に1回開催されるNPO全国フォーラムとの共同開催を実現し、参加総数1,000名に上りました。

## ●(選挙制度改革等)

選挙制度改革として、メンバーの権利に鑑み、従来の役員選出選挙及び理事選挙の際の、選挙権取得の要件である例会出席規定の削除をしました。

また、2005年愛知万博開催に向けて、名古屋JCとしての国際交流ないしは国際化に向けてのインパクトのある事業を展開する運動を行うために、(社)日本青年会議所第17回(2004年度)国際アカデミー誘致の決議をしました。

JCI世界会議にアワードの申請をするべく、「アワード隊」を結成し、各委員会の手作りで合計14のアルバムを作成し、JCIに提出いたしました。惜しくも受賞にはあたりませんでした。名古屋青年会議所の事業の意義目的を改めて問い直すよききっかけとなりました。

**第52年度** 西脇 正導 (2002/1~12) 687人

佐橋健一郎・石濱 光哉・鈴木 昌義・池田 佳隆  
 専務理事 神谷 竜也  
 常務理事 佐野 丈教

「未来は青年である私たちがデザインしていく」をテーマに、今までの活動を通して得た様々な社会問題についての考え方を更に進化させて、新世紀社会のグランドデザインを構築し、その実現に向けた具体的な活動を実践した。「哲学」をキーワードに、正しい社会とは何か、21世紀における明るい豊かな社会とはどんな社会なのかを議論し、環境と融合した楽しく心地よい進化したライフスタイルを考える場として2,500人が参加した名古屋フォーラムを開催した。また、初の試みとしてチケット販売による、家族のあり方を子ども達がミュージカルにした例会や社会の中の組織と組織の議論や繋がりをもつインターメディアリー(主体的仲介者)の役割を担ったケッタフェスティバル、名古屋まちづくりマーケット主催した。提言書ではダイジェスト版を作り名古屋市内の全ての小学校に配布し、市民・行政に対して名古屋青年会議所の意見を発信する事が出来た。組織を活性化させるため、コンベによる委員会事業を行うと共に協議と審議の間を一ヶ月置き、ボトムアップで意見が事業に反映され易いようにした。これらの事業を行うことで本年度のスローガンである「進化させようJayceeの哲学、デザインしよう名古屋創世記」を実現することが出来た。

**第53年度** 鈴木 昌義 (2003/1~12) 674人

神野 恭寿・盛田 秀一・原 啓祐・伊藤 武史  
 専務理事 盛田 秀一  
 常務理事 釘宮 祐治

第53年度は、「和の魂」を基本理念に、「闘魂」を活動理念に青年会議所運動を展開してきた。活動のテーマや課題については、特に目新しいものはなかった。それは、明るい豊かな名古屋を実現するための課題は毎年変わる性質のものではないからである。

しかしながら、会員が「和の魂」という日本独自の倫理観・道徳観を念頭におき、事業に取り組んだ結果、ここ数年継続している環境や教育といったテーマにおいても事業の内容は斬新なものとなった。

対外的な事業においては、市民の方々に「和の魂」の大切さ、尊さを理解していただける内容となった。ともすると、理屈っぽい内容になりがちな「和の魂」というキーワードを、どの事業もわかりやすく表現できたと思う。高い倫理観・道徳観を持った人たちが構成される地域は、間違いなく「明るい豊かな社会」といえる。市民の方々の倫理観・道徳観を高める一助となったと自負できる事業ばかりであった。

**第54年度** 池田 佳隆 (2004/1~12) 649人

村田 芳邦・川島 浩二・丹坂 和弘・加藤 徹・伊藤 嘉浩  
 専務理事 矢崎 信也  
 常務理事 熊田 光男

イラク戦争や拉致問題、潜水艦の領海侵犯など、国際情勢の急激な変化により、世界平和や自立した国家の在り方について、国家に依存するのではなく、国家を形成する地域が率先して活動する時代に入った。

このような時代に、第54年度名古屋青年会議所としては、JC運動の理念である「世界平和」実現を旗印に、世界平和に率先して貢献しうる日本国創造に向けて「人と社会を開発する」日本の青年会議所を示すべく、「美しき日本(にっぽん) 尊き日本魂(やまとだまし) 今学びの瞬間(とき)」をスローガンに活動を展開した。

行政や政治ではできない、我々が直接市民にアプローチする「JCアプローチ」を実施するために、倫理や道徳、地域や教育、など様々な分野での「学び」を実施した。正しい知識や精神性を有した我々JAYCEEこそが真のリーダーとして、市民を牽引できることを伝えることができたと思える。

特に、国際アカデミーでは、海外で活動する同じ志をもった会員に日本の精神性や美しさを伝え、世界平和実現のための道筋を提示できたことは、我々の活動が国内のみならず世界へも通ずることを会員が再認識できたと思う。

我々JAYCEEは社会に進言できる青年知識人として、日々積極的に学ばなければならない。そして自己の研鑽と同時に、子どもたちの心豊かな成長のために「学ぶ」ことの大切さを伝えられた1年であった。

**第55年度** 加藤 徹(2005/1~12) 632人

横山 剛也・木村 陽一・松窪 秀司・安藤 幸久  
専務理事 安田 照幸  
常務理事 千田 穰

我々は、経済的豊かさを追い求めてきた結果、自然や静寂といった、祖先から受け継いできた無形の財産や風景として記憶できるものを失っている。また、果てしない便利さを追求してきたため、人間としての「走ったり、投げたりする体の機能」や、「自然の豊かさや危機を感じることでできる五感」も確実に衰え、さらには、生き物や人に対する思いやりや優しさという感情をも失いつつあると感じます。

そこで、第55年度(社)名古屋青年会議所は、様々なつながりを生かし、我々会員だけでなく広く市民にも『豊かさの記憶』を後世に伝えるべく、「取り戻そう豊かさの記憶 駆け抜けよう青春を 今『未来の夢』に向かって」をスローガンに様々な運動を展開した。

我々世代は、日本の四季の移り変わりを通じて体感し、子どもの頃に実感した懐かしく温かな豊かさの記憶をこれからの子どもたちに伝えていく使命がある。次代を担う子どもたちが元気で在り続けるために、美しいものを美しいと感じる感性を育むことができる多様な命との共生の暮らしが必要だと考える。

そのような中、日本が「国家プロジェクトとして世界に発信した日本国際博覧会(愛・地球博)」がこの愛知の地にて「自然の叡智」をテーマに開催された。会期中には、日本青年会議所のエントリー事業に会員一人ひとりがキャストとなって参画し、本年度我々が目指した運動の「豊かさの記憶」に参加した子どもたちに伝えるだけでなく、広く世界中の人々に発信することができたと思う。

また、この国際博覧会に絡んで(社)日本青年会議所のメッセージ発信の場であるサマーコンファレンスも名古屋で開催された。全国各地から1万人を超える青年会議所メンバーがこの地に集い、青年会議所らしい若さと夢溢れる交流事業を展開し、名古屋の地に訪れた人々に名古屋の魅力を伝えることができたと思う。

第55年度は、今までにないこれら全ての活動を通して、それぞれが学び感動したことを広く市民に発信し、「森と水の環境国家」日本実現から世界平和に向けて、豊かな心を伝える大きなムーブメントをおこし、人の心を動かし感動を与えるような取り組みを行うことができた1年であった。

**第56年度** 伊藤 嘉 浩(2006/1~12) 616人

西本 一幸・小玉 正明・笹野 暢宏・雨宮 秀寿・安藤 和樹  
専務理事 堺 朋一  
常務理事 古澤 仁之

第56年度は「責任ある青年として、動けJAYCEE!!ほんものの市民社会実現のために」をスローガンに、会員一人ひとりが社会に対する責任と自覚を持ち、市民から頼りにされ社会から信用される「社会の公器」として、市民とともに夢と思いやりある「ほんものの市民社会」実現を目指し、地域において社会の変化を実感することができる実践活動を展開した。

我々JAYCEE一人ひとりが地域に飛び出し、市民と語り合い、地域のニーズを把握し、そしてともに汗を流し、活動内容をより広く効果的に発信することができた。

「いのちへの感謝の気持ち」を育むことを目的として16区の小学校で同時期に開催した名古屋市全体事業(8月例会)、地域により近いかたちで各区において市民とともに予選大会を開催したわんぱく相撲、地球の視点に立ったシステムと伝統的な日本人の精神性が融合した持続可能な新型地球社会を感性豊かに提示したJCフォーラムなど、関係各所から大きな反響をいただき、変化の実感の一步につなげることができた。

**第57年度** 雨宮 秀 寿(2007/1~12) 635人

井上 伸二・大塚 康洋・大口 浩毅・八神 範明  
専務理事 後藤慎一郎  
常務理事 佐藤鑛一郎

57年度は「磨こう志、集めよう感動。こころある社会の実現に向けて」をスローガンに、公と私の上に優しく温かい概念として「公共」を定め、(その心)公共心を行動で現せる人づくり運動を展開しました。また理事、委員長を目指す人が減少しつつあったことから、委員会での候補者支援活動や、その他選挙手法を見直し、理事、委員長を目指すメンバーが増えるよう努力致しました。

- ①他人のことも自分のことのように大切にできるこころある自分への自己革新。
- ②環境と景観、健康を考えた持続可能なまちづくり。
- ③情操教育による日本人の感性磨き。
- ④地域のニーズに合わせた社会貢献活動(委員発想自由テーマ)

以上、4つのテーマで活動致しました。

人間本来が持つ、人の役に立ちたいと思うところを、事業として行動に移すことで、自分以外のものに役に立てた後

で感じる気持ちよさを実感してもらいました。

**第58年度** 大口 浩 毅(2008/1~12) 646人

浅野 有・伊藤弘一郎・木村 浩樹・杉本 高男  
専務理事 木村 樹生  
常務理事 平林 拓也

第58年度は、「灯そう信念の炎(ひ) 発信しよう理想のまち 希望と誇りの持てる名古屋の実現へ向けて」をスローガンに、「地域からの変革」というキーワードを掲げ、地球的な視野を持ちながらも、自分たちの住んでいるまちに対する「思いやり」の心を涵養し、自然と共存しながらも発展することのできる社会を目指し、希望と誇りの持てるまちづくり運動を展開した。具体的には、自然環境、歴史・文化、教育といった面から、名古屋の独自性や素晴らしさを今一度見直し、そこから名古屋市民が誇りに思えるような新しい価値へと発展させることに繋がる事業を実施した。

2010年には、名古屋は開府400年などの大きな節目の年を迎え、また生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の名古屋での開催が決定している中で、今後の地球環境にとって重要な会議を迎えるにあたり、名古屋の歴史や文化からその独自性を見出し、名古屋市民が我が街に誇りと愛着を持つと同時に、これからの未来を切り拓く名古屋の新しい価値を全国、世界へ発信する準備へとつなげることができたと思われる。

この1年間、我々JAYCEEが市民のリーダーとして責任感と使命感をもって名古屋のまちのために行動したこと、その信念が名古屋市民の心を打ち、市民にJC運動を伝播させることにつながったものと信じている。

また、名古屋青年会議所の正会員が一人丸となって愚直にJC活動に取り組んできたこと、約2000名の特別会員の皆さまのご理解とご協力により、第56年度の総会で決議された社団法人日本青年会議所が主催する2011年度の第60回全国会員大会の誘致に成功することができた。今後は、2011年に向けて、全国JC会員の共感と連帯を生み出す全国会員大会を目指し、準備していく必要がある。

**第59年度** 木村 浩 樹(2009/1~12) 703人

川口 由高・盛田 一行・森 智史・柚木 猛  
専務理事 松下 昌弘  
常務理事 岩村 幸正

近年、世間を騒がせる、倫理欠落による企業の不祥事、人間関係の希薄化によるコミュニティの衰退、身近な場所での凶悪な犯罪。これらの問題は、他者への感謝を忘れ、利己的な行動を起こす人が増えた事が一因であるだろう。

第59年度は「感謝のこころ溢れる共生のまち名古屋の実現を目指して」をテーマに、人との共生・自然との共生・街との共生の三つを柱に運動を展開した。

事業においては、全国会員大会での記念事業を想定し、予算面・人的面において大規模な運動が可能な室単位の事業を行うことで、市民に対して強くメッセージを発信することが出来た。

対内では、オリエンテーション生募集活動で190名弱の募集を頂き、さらにアスパック、愛知ブロック会員大会、全国会員大会において、われわれの活動が評価され、計3つの褒賞を頂いた。さらに、12月には愛知県第1号となる公益社団法人へ移行することが出来た。

どの活動も一人の力で達成する事は出来ず、会員それぞれが自らの役割を認識し能動的に行動したことで、結果に繋がったと考える。

第59年度の活動を通じ、JC運動とは何か・名古屋JCに出来る事は何かを会員それぞれが体感し、次につなげていく事で、公益社団法人名古屋青年会議所としての新たな第一歩が開かれていくだろう。

**第60年度** 杉本 高 男(2010/1~12) 756人

河合 秀紀・今津 邦博・遠山 武志・後藤 論・山下 寛高  
専務理事 雨宮 隆昭  
常務理事 堤 創

第60年度は、「名古屋BREAK、和の精神(こころ)が地球を救う!」というスローガンのもと、「日本の和」「NAGOYAの和」「地域の和」「JCの和」という柱を軸に、日本や地域に漂う閉塞感を打破するような運動を展開し、情緒溢れるまち名古屋の実現を目指して活動してきました。

毎月の各例会は、各テーマにおける問題意識及びその解決方法を明確に意識した上でその発信方法に至るまで十分に議論や準備を行ったことから、時代を一步先を行く内容の例会や参加者の意識に強烈な印象を与えるよう



な例会を開催することができました。事業は、各テーマに関する事業だけでなく地域貢献事業も開催し、地域に密着してまちづくりを行うような事業から多くの市民と共に作りあげたダイナミックな事業まで多岐にわたって有意義な運動を実施することができました。

また、設立60周年記念式典の開催及び設立60周年記念誌の作成により、これまでの運動を支えていただいた皆様や先輩に敬意を表すと共に、今後の運動の更なる発展を誓うことができました。広報活動に関しては、テレビCM等の新しい手法にも取り組むことができました。テレビ局とタイアップしてテレビ映画を製作及び放映することにより、参加者や視聴者等に愛郷心等を高めていただいただけでなく、公益社団法人名古屋青年会議所のブランディングにも繋がったものと実感しています。

是非、第60年度の運動で醸成された挑戦し続ける精神を昇華し、社団法人日本青年会議所第60回全国会員大会名古屋大会を大成功させていたきたいです。名古屋に根付く他に与え他を満たす「思いやりの精神」こそが、日本を救い、世界・地球を救うものと信じています。

まちを変え、日本を変え、明るい豊かな社会を築き上げるのは、俺たちだ!!

#### 第61年度 後藤 諭(2011/1~12) 780人

森 孝義・加藤 謙一・山下 智己・中村 康成・末岡 仁  
専務理事 堀田 崇  
常務理事 桜井 博教

第61年度は、「心をこめてリスペクト 名古屋から動かそうみんなの心」をスローガンに運動を展開した。また、今年度は公益社団法人日本青年会議所第60回全国会員大会を主管することに加えて、3月11日に東日本大震災が起きたため、以降は改めて地域に根ざした運動、第60回全国会員大会の遂行、東日本大震災復興支援活動の三つを柱に据えるとともに、それぞれを相互にリンクさせ、運動に深みと広がりを持たせられるように意識しながら活動した。

地域に根ざした運動としては、公益社団法人として広く運動を発信する必要があることに鑑み、例会を対外的には「フォーラム」と称することとし、一般参加者に多く参加していただくとともに、その一方でフォーラム後には会員のみの意見交換会を行い、名古屋青年会議所の方向性を会員に直接伝える場を作った。

東日本大震災復興支援については、発災直後から直ちに行動を起こし、対策本部の設置、街頭募金活動、支援金募集活動に加えて、6月からは人的支援を開始した。多くの会員が被災地へ赴き、自分の眼で被害状況を見て、心をこめて支援活動を行ったことは、かけがえのない財産になったはずである。

全国会員大会については、東日本大震災により理念・テーマ・スローガンなど数々の変更を余儀なくされたが、人の心を動かす運動をしようという方針は一貫して変えなかった。私たちは、全国会員大会の開催を通じて、全国のJC会員はもとより、行政や関連団体とも深い絆を築くことができた。この経験を財産として、今後の運動に生かして欲しいと切に願う。

#### 第62年度 末岡 仁(2012/1~12) 800人

大橋 史忠・加藤 武功・鈴木 晶博・前田 将行  
専務理事 春馬 学  
常務理事 堀田 政宏

第62年度は、「踏み出そう新たな一歩～こころつながる名古屋をめざして～」をスローガンに掲げ運動を展開した。このスローガンは、ここ数年来、名古屋青年会議所が第60回全国会員大会の主管に注力してきたことをふまえ、その成功体験をもとに今一度原点に立ち返って「新たな一歩」を踏み出し、また、全国会員大会の実現に向けて行政や市民、各地会員会議所との間で築いた「つながり」をさらに強固にしていこうことを表現したものである。

各月の例会は、対外発信をメインに据えてフォーラムと称し、市民とのつながりを深めることを意識して開催した。具体的には、全てのフォーラムにおいて、単にこちらが伝えたいことを発信するのではなく、受け手である会員や市民の立場に立って考え、どのようにしたら伝わるか、興味を持って参加し、自然に学びを持ち帰ってもらうにはどうすべきか、という視点で構築をした。また、取り扱うテーマは各月ごとに個別ではあるが、一年を通して大きなストーリーを描くように構成し、10月のJCフォーラムにおいて一年の運動の集大成として発信した。これにより、名古屋成年会議所全体のつながりを構築し、また、統一感のあるフォーラムを開催することができたと考えた。

第62年度は、全国会員大会を主管したという経験を、疲弊感としてではなく大きな自信と達成感に昇華して運動を展開した一年であった。名古屋青年会議所の運動を全国に発信したこと、また、全国の会員の熱い思いを名古屋の地に受け入れたことは、数年来の労力を補って余りある自信と達成感を会員に残し、それにより、会員相互のつながり、行政や市民とのつながりを生かして、これまで以上に地域に根ざした運動を展開することができたものとする。このつながりを生かして今後の活動を展開していくことは市民意識変革運動の大きな礎となるものであり、今後も名古屋青年会議所の活動が大きな成果を挙げ続けていくものと信じて疑わない。

#### 第63年度 加藤 武功(2013/1~12) 810人

鈴木 拓将・大島千世子・山本 康弘・青木 照護  
専務理事 齊藤 裕也  
常務理事 太田 幸彦

第63年度の運動は「本質を見極め、諦めない情熱で未来を切り拓け!～誇りあるまち名古屋をめざして～」をスローガンに掲げて運動を展開し、日本が転生する一年を駆け抜けた。大きく変化する時代の中で、明るい未来を切り拓くためには、様々な諸問題の「本質」は何処にあるのかを見極めなくてはならず、いかなる困難を眼前にしても、理想の未来を描いていく情熱を燃やし続けていかなくてはならない。このスローガンは、第63年度を表すのに相応しいものだったといえる。

運動の内容としては、「ひと・まち・くに」を対象に会員・市民に対し、今という時代だからこそできる運動を展開した。新たな試みとしては、昨今の入会状況を鑑みて新入会員のオリエンテーションの塾を細分化して入会の増員を図った。また、会員益をもたらすための対内例会を数年ぶりに復活させて公益社団法人の可能性を広げ、全国大会において磨き上げた叡智と会員一人ひとりの力を再度結集させて、第63年度の集大成であるJC フェスティバルをセントラルパーク含む7つの会場で開催をし、1万人を超える動員によってさらなるブランディングの確立と会員一人ひとりが青年会議所の本質を知ってそれを誇りとし、一年間の運動の成果を我々が望む形で集約させることができた。

全国大会を終えてからの余韻も無くなり、大きく時代が変化する中で、第63年度は一区切りをつける役目を担い、さらなる青年会議所の可能性を拓けるために挑戦した。「本質」にこだわった新たな試みによって、「ひと」を変え、「まち」を変え、「くに」を変え、明るい豊かな社会へ繋がる連鎖反応の核となることを信じ、第63年度のまとめとする。

#### 第64年度 青木 照護(2014/1~12) 825人

川島 謙一・豊住 清・乃一 剛英・杉浦 卓  
専務理事 伊藤 貴範  
常務理事 三浦 恒

「一期一会」の覚悟 ～日本を変えるのは俺たちだ!!～

をスローガンにJCそのものの価値を高め日本をリードする名古屋に焦点を当て、その為には実行力のある運動の展開、会員資質の向上、会員拡大を3本柱とした。

その方針のもと政令指定都市では初めてとなる市民討議会、名古屋大学そして姉妹JCである香港・九龍JCとの協働によるスケール感に溢れる国際事業、名古屋市との共催による久屋大通再生プロジェクトなど実行力のある運動の展開を行った。また、13回を超える会員資質を向上する会員向けの事業の実施を行った。そして171名もの新たな会員の入会へと導いた。更にはこれらの運動を広く多くの方に伝播するためにブランディングに注力し目的とするJCの価値を高める事へと繋げた。加えて北名古屋青年会議所の設立に尽力し、2015年度より正式にスタートすることとなった。

#### 第65年度 杉浦 卓(2015/1~12) 817人

松林 映秀・大宮 隆志・川中洋太郎・大和 直樹  
専務理事 岩崎 友就  
常務理事 野阪 武司

「知行合一～覚醒せよ、名古屋プライド 踏み出していこう、100人の一歩を目指して～」のスローガンのもと、「先達への感謝と未来への挑戦、活力溢れた会員と市民の相互運動による、名古屋プライドの覚醒」の基本理念のもと運動を行い、先達が連綿と受け継いできた国やまちに感謝しつつ、名古屋のまちをより進化させ次代へと継承させるべく果敢な挑戦を続け、「日本を支える名古屋」の実現に向け力強く展開した。

第65年度は、毎月の対内例会だけでなく会員向けの対内例会を行い会員の意識を向上させ、1990年の台北女子JC以来であるハワイJCとの姉妹締結を結ぶなど、国内だけでなく海外にも目を向けた活動を展開した。そして、新入会員の入会方法を大幅に変更し入会申込時に年会費を払ってその後オリエンテーションのガイダンスを受けるという形に変更したが182名という多くの会員に入会いただいた。さらに、除名審議の時期を大幅に前倒して5月末とするなどまさに大きなチャレンジを行った1年となった。

#### 第66年度 川中 洋太郎(2016/1~12) 858人

山田 剛士・鈴木 和貴・岩田 一成・山本 直人  
専務理事 河村 直樹  
常務理事 阪野 照定

第66年度は「不撓不屈のJAYCEE～揺るぎない情熱による『世界の中心となる名古屋』の実現を目指して～」のスローガンのもと、「ひとづくり」、「まちづくり」、「未来ビジョンの確立」を3本の柱として運動を展開した。

「ひとづくり」においては、会員に揺るぎない情熱を持った真の青年経済人へと成長してもらう運動を構築するとともに、市民に地域を発展させる新たな時代のハングリー精神と本物のリーダーシップを伝えた。また、「まちづくり」において

は、市民への発信を重視しテレビ番組とのタイアップもしつつ、名古屋の誇りを確立し「ものづくりを支える」という新たな観点なども踏まえつつ名古屋の魅力を発信した。また、愛知県剣道協会から次年度以降でも実施して欲しいと熱望された文武両道を実践する事業や「市長杯」の名を初めて冠したわんぱく相撲など名古屋のまちに大きなインパクトを与えた。そして、未来ビジョンの確立の点においては、民間外交や教育ビジョンの確立といった観点に加え、いわゆる「18歳選挙権元年」という時宜を捉えた「名古屋の未来の選択」という問題と向き合いつつ、未来ビジョンとして「世界の中心となる名古屋」を発信した。また、名古屋の歌である「このまちとともに」を作成しJCフォーラムにて発表したほか、我々の運動が丹羽宇一郎氏の著書に取り上げられるなど、形が残る運動でもあった。そして、会員募集において185名の新たな同志を迎えるとともに、公式Facebookの「いいね」数1万を達成するなど、運動を支える体制も充実させ、「世界の中心となる名古屋」という未来像の実現に向けて歩を進めた一年であった。

#### 第67年度 大和直樹(2017/1~12) 834人

細川 雅也・山本 一統・三宅 貴史・浅野 弘義  
専務理事 梅村 総  
常務理事 佐藤 寿倫

「未来は勇者のものである ~新たな価値観を創造しNAGOYAから世界へ~」  
このスローガンのもと、第67年度は、会員益の向上とリアルな社会問題の解決を羅針盤として、「ひとづくり」・「まちづくり」・「国際的機會」を3本の柱に据え、会員一人ひとりが勇者として未来を切り拓き、変化や困難を恐れない挑戦による「新たな価値観」の創造に取り組んだ。

また、日本青年会議所会頭輩出年度ということで、日本中・世界中から注目を集める中で、名古屋のまちの価値を高めようと様々な新たな試みが繰り返えされた。

それによって、歴史を重んじ、科学技術に触れながらリスクを検討し、子どもたちのイメージーションとクリエイティビティを刺激し、防災・減災への新たな取り組みを模索し、ノーマライゼーションやフェアトレードなどの時代を見据えた活動にも青年会議所だからこそ可能な手法で取り組むことができた。また、産学官の連携による経済へのアプローチや、激動する時代の潮流の中で経営者が必要とする心とは何かを探求し、具体的な課題解決に向けて挑戦した。さらに、国際への取り組みも多岐に渡り、ロボカップや名古屋市が姉妹都市締結したフランス・ランス市のJCとの交流、姉妹JCとの交流も非常に盛んに行った。

勇気を持って一歩踏み出した勇者たちが、過去と未来、ローカルとグローバルという時間軸と空間軸を大きく広げ、青年会議所の無限の可能性を改めて示す1年であった。

#### 第68年度 山本一統(2018/1~12) 823人

田中 良知・尾関 良祐・武田 裕規・佐地 宏之  
専務理事 伊藤 崇  
常務理事 鈴木 里英

「天・地・人~すべての人が夢に向かって躍動するまち名古屋へ~」  
このスローガンのもと、第68年度は「人づくり」・「まちづくり」・「国際的機會」を基盤に、すべての人が躍動するために仕組み作りを強化した1年であった。具体的には、他団体との協力を積極的に行い、課題解決に向けて、長期間、多数回で事業を行うことにより、より潜在的な問題の顕在化とその解決策の提案が行えた。

さらに、第68年度は規律と品格というキーワードのもと、対内・対外共に様々なチャレンジを行なった。具体的には、教育格差解消やダイバーシティ、成人教育やネットモラルなど昨今話題となっているトピックを取り上げた対外例会を行い、育児ステーションの開設やまち・国づくり参画プラットフォームの構築、名古屋のビッグデータをまとめるなど、市民にとって有用な仕組みづくりを行なった。対内では例年の会員拡大や対内事業などに加えて、出席規程の遵守など会員資質の向上に重点を置き、未来へ繋がる一年となった。

#### 第69年度 浅野弘義(2019/1~12) 858人

大井 貴正・荒尾 政弘・白瀧 征人・寺田 拓也・光田 侑司  
専務理事 春名 潤也  
常務理事 西原 政熙

第69年度は「草莽崛起~社会に尽くす未来ヒーローとなれ~」をスローガンに掲げ、しなやかなまち名古屋の実現を目指し、「社会に尽くす人づくり」「しなやかなまちづくり」「新たな世界とのネットワーク」「JCカンファレンス」を柱として運動を展開した。強烈な原体験と持続可能な仕組みづくりを強く意識した運動構築を各種例会・事業に対して行い、今まで以上に市民・行政・地域を巻き込むことで共に課題解決に取り組む名古屋青年会議所が社会に必要な存在であることを改めて市民・会員が認識することができたと考える。

そして、まだ社会的認知度が低かったSDGsの認知拡大・実践を前面に打ち出し、運動内容が市民に分かりやすく、今の課題だけでなくこれからの課題を把握し、率先して取り組む運動構築も第69年度の特徴であったと言える。また、第65年度以来となる、シドニーJCと新たな姉妹JC締結を行うなど国際にも目を向けた運動を展開した。

「雇用格差解消実現」「ジェンダー平等社会構築」といった、行政・企業・社会が直面している課題に対しても、

会員企業・一般参加企業が率先して実践し、関係会社などに伝播させていくなど、例会で発信したことを実践し、社会に普及させることで、市民意識変革を行ったと同時に名古屋青年会議所の持つ可能性を改めて感じることで1年であった。

最後に、全国的にも青年会議所の存在価値が大きく揺れている。だからこそ先達から受け継いだ精神を今一度思い出し、会員各々がしっかりと目的と自信を持ってこれからの青年会議所活動に邁進されることを祈念して第69年度のまとめとする。

#### 第70年度 光田侑司(2020/1~12) 787人

鈴木 信輝・橘田 英明・遠藤 圭・高橋 雅大  
専務理事 齋藤 亮治  
常務理事 土屋 勝義

「持続可能な名古屋をつくろう 過去を追わず、未来を待たず 今必要とされていることに挑戦しよう」を基本理念として、経済・人財・国際を3本柱に、パートナーと連携した社会課題解決の推進、社会実験を行った上での行政への提言を運動構築の基本方針とした。

残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大により、例会・事業の中止を余儀なくされる場合もあったが、WEBを用いるなど、開催可能な形に内容を見直し実施した。第70年度の基本方針を具現化したJCカンファレンス例会、ジェンダー平等社会の構築、障がい者と健常者の収入格差是正を目的とした商品開発、優秀な外国人と企業を結びつけるプラットフォームの構築、社会課題を抽出し解決に向かって行動できる人財の育成、人生100年時代を見据えたりカレント教育の推進、継続事業の3Gプロジェクトなどの他に、当初の計画にはなかったWEBでの情報発信や、献血プロジェクトなど、今必要とされていることに対して、できうる限りの活動を行った。

そして、当会議所の設立70周年にあたり、記念式典を開催したと共に、最大の運動発信の場としてJCフェスティバル例会を開催した。

また、これからの名古屋青年会議所がより一層持続可能な組織となるために、定款・諸規程の見直しを行った。どのような状況であっても、会員ができていないことに挑戦し続け、高い壁を乗り越えた先に、持続可能な名古屋のまちがつくられていることを切に願い、第70年度のまとめとする。

# ANNUAL REPORT 70's

公益社団法人 名古屋青年会議所

組織図

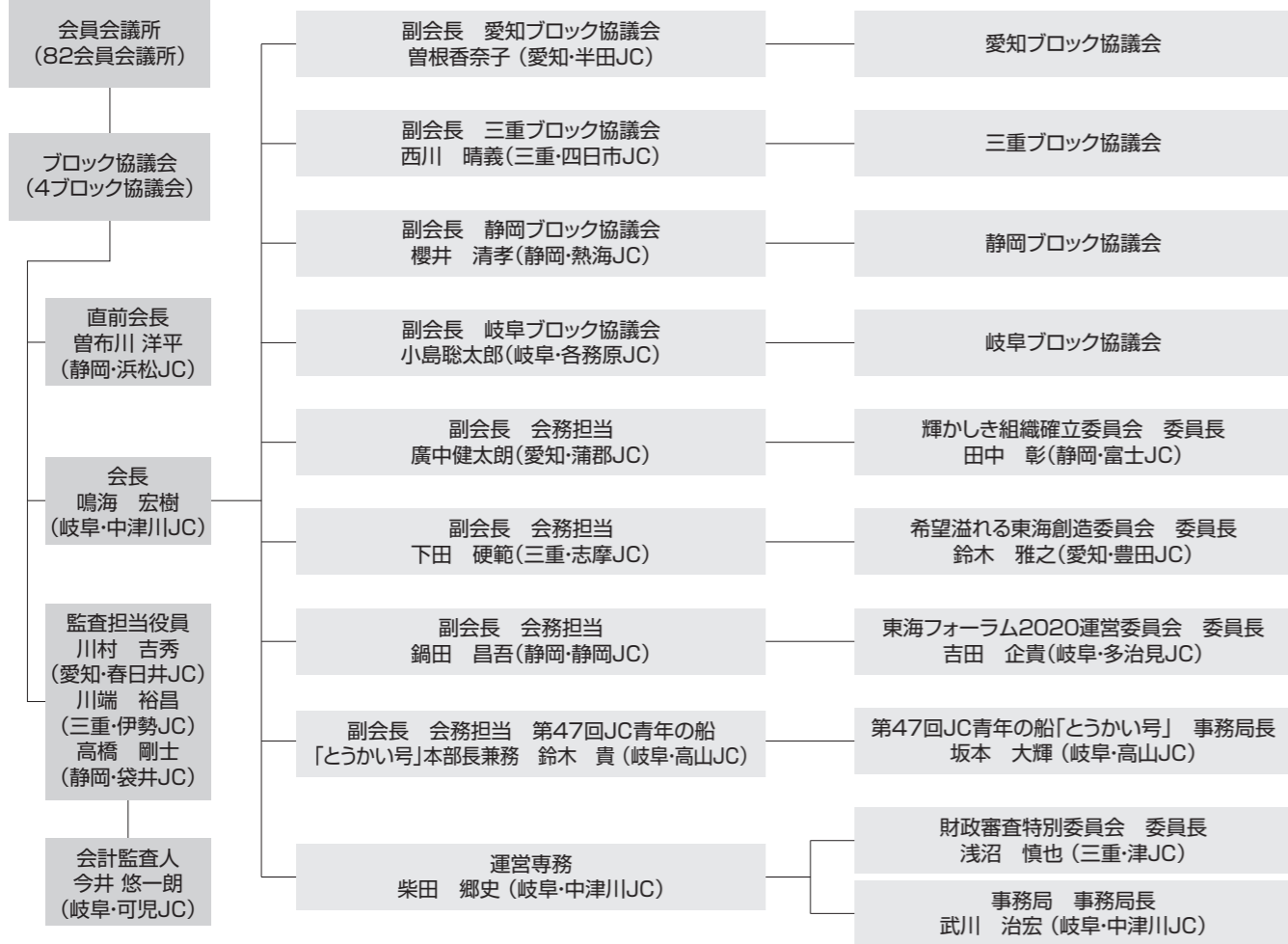






【東海地区協議会】

●組織図

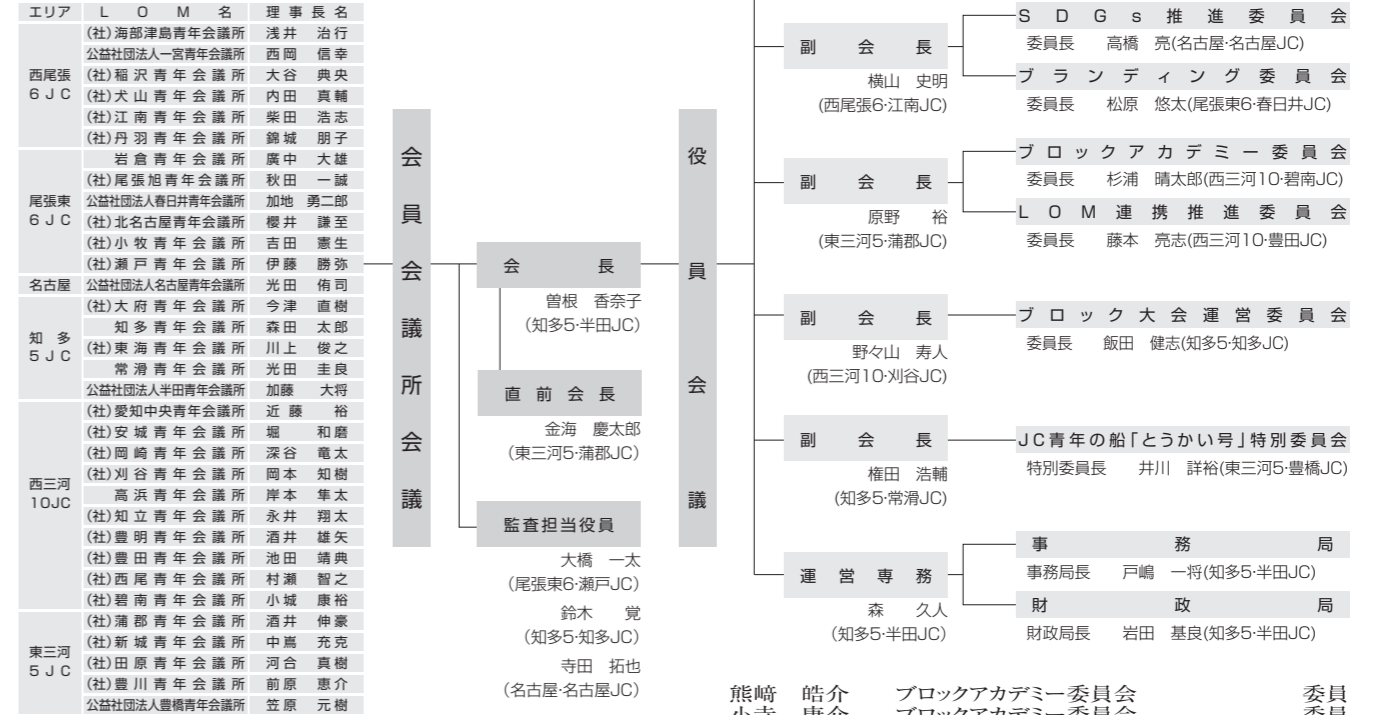


●出向会員

Table listing outgoing members with columns for name, position, and affiliation.

【愛知ブロック協議会】

●組織図



●出向会員

Table listing outgoing members for the Aichi Block Association, including names, roles, and affiliations.

公益社団法人名古屋青年会議所 第71年度(2021年度)組織図



**渉外室**

■渉外委員会  
副委員長: 新田 真之 野田 宏 弘田 武将 水島 秀輝 宮地 宏明 山口 敬  
委員: 青本 純利 市川 裕貴 井上 大前 上杉 謙二 梅田 伸彦 江場 崇  
太田 和宏 大野 康平 住田 大智 沖 隼年 小栗 嘉之 江場 和也  
榊原 一訓 白瀧 栄紀 富取 高取 高橋 嘉之 小栗 嘉之 江場 和也  
橋 紀久也 鶴見 峻介 内藤 宗拓 高橋 嘉之 小栗 嘉之 江場 和也  
古田 諒 山口 剛 渡部 恒之 高橋 嘉之 小栗 嘉之 江場 和也  
アドバイザー: 木下 智靖

■JCブランディング委員会  
副委員長: 岡山 将典 神谷 義 立野 晶弘 西村 大裕 安田 優  
委員: 生田 晃生 井原 純也 岡 晶久 加藤 晃平 丸 俊  
小山 洋史 笹本 和義 篠崎 ひとみ 下村 昌己 田中 陽 丸 俊  
徳石 翔太 土手下 哲広 服部 勇人 樋口 貴彦 水野 貴晴 山崎 幹根  
吉村 素乃子

■広報委員会  
副委員長: 油谷 景子 岩田 之寛 河合 康宏 中多 博 山本 将之  
委員: 岡田 智英 貝沼 宏徳 野 狩野 真旗 木下 太郎 櫻井 贊  
四位 高雄 玉田 洋平 成田 成田 利紀 野田 直季 野々 垣勝平 佐藤 一也  
松井 貴史 松田 吉史 水野 利紀 宮松 秀行 柳瀬 雅斗 菱田 陽平  
山本 朝美 陸田 直司 鶴飼 仲弥 仲弥

■褒賞委員会  
副委員長: 石川 大輔 石原 学 加藤 丈博 亀島 寛大 前畑 大輔 山田 英典  
委員: 赤堀 正典 猪子 俊満 戎谷 悠一 大山 周 小倉 寿康 山田 大貴  
北川 亮 桐生 巨 久喜 政美 小出 浩貴 小寺 康介 近藤 哲哉  
更谷 孝光 杉山 祐介 田中 嗣大 富永 晃司 新實 直志 浜脇 亮  
日比 美咲 堀尾 紀彰 牧野 浩介 寺岡 朋洋 的井 利樹 小田 原卓也  
伊藤 彰洋 篠田 旭弘 田口 知 寺岡 朋洋 的井 利樹 小田 原卓也  
阿部 圭介 石橋 弘隆 市村 寛 伊藤 肇宏 岡庭 翔平 小田 原卓也  
尾張 由晃 黒宮 梨愛 高瀬 久稔 高田 総一郎 竹内 亜沙美 寺町 暁彦  
白都 良洋 長谷川 聖仁 平川 良輔 福春 洋翔 松浪 秀晃 松本 純平  
水谷 亮介 山田 雄大 山田 善久

**時代に立ち向かう「人」育成特別委員会**  
副委員長: 伊藤 彰洋 篠田 旭弘 田口 知 寺岡 朋洋 的井 利樹 小田 原卓也  
委員: 阿部 圭介 石橋 弘隆 市村 寛 伊藤 肇宏 岡庭 翔平 小田 原卓也  
尾張 由晃 黒宮 梨愛 高瀬 久稔 高田 総一郎 竹内 亜沙美 寺町 暁彦  
白都 良洋 長谷川 聖仁 平川 良輔 福春 洋翔 松浪 秀晃 松本 純平  
水谷 亮介 山田 雄大 山田 善久

■名古屋の魅力発信委員会  
副委員長: 石川 雄一 柴田 直樹 保浦 功太郎 水谷 浩輔 安井 佑斗 和田 初明  
委員: 伊藤 誠悟 井上 裕 太田 和宏 小川 裕 小澤 里佳 加藤 靖子  
倉林 和正 佐藤 広治 椎葉 保雄 下深 迫優介 杉野 美奈 鈴木 了司  
高木 賢一朗 田中 健 田邊 誠 東谷 篤憲 長谷川 祐希 藤原 健祐  
松原 剛司 間野 友長 道川内 充 森 諸角 諸角 圭佑 山口 大貴  
アドバイザー: 安田 将之

■名古屋の未来選択委員会  
副委員長: 大林 哲也 加藤 将太 久津屋 利枝 鈴木 亮介 福島 伸吾 福田 智洋  
委員: 秋山 慎太郎 磯村 栄一 榎田 昌之 加藤 貴之 加藤 寛之 蒲生 佳大  
河島 萌花 熊田 憲一郎 齋田 元貴 高橋 修也 筒井 鉄平 中尾 俊介  
中嶋 恒彦 中島 優作 藤塚 光一朗 松尾 卓 吉井 建朗 渡邊 康真  
渡辺 雄太

■ICT社会推進委員会  
副委員長: 上岡 賢輔 加藤 丈尚 志村 昌彦 千田 亮太 中村 充伸 藤井 啓史  
委員: 鶴飼 貴司 粕尾 将一 神尾 太資 河本 和寛 木村 溪介 熊崎 皓介  
小島 将揮 籠谷 倫親 坂口 斗志也 櫻井 通 佐藤 雅俊 鈴木 雄登  
田邊 瑛二 永井 秀一郎 野田 裕之 野村 雅也 早崎 太亮 福岡 健太  
星尾 健二 宮地 隆将 山田 雄也 楊 旭 吉原 豊大



国際人財育成室

名古屋の国際化推進委員会 委員長：伊藤 友一
副委員長：朝木 拓 加藤 彰浩 中村 真悟 林 明香 水谷 剛
委員：市川 良典 伊藤 豊大 梅本 隆太 大島 真司 岡村 祥吾 小野 鳥輝
梶本 雅人 加藤 盛敬 木皿 孝平 小酒井 隆政 佐藤 涼 鈴木 則志
谷川 将也 平岡 勇治 藤川 典之 堀田 佳秀 昌山 慎 宮川 知徳
森 智彦 吉田 慎一郎
アドバイザー：岩崎 英一郎

SDGs実践委員会 委員長：道川内 知
副委員長：石神 正雄 小嶋 将 佐々木 愛 永島 詳大 中村 亮大 渡辺 真司
委員：石神 宏樹 井山 将成 小野 陽平 恩田 隼輔 加藤 喜世 金刺 廣長
木全 貴大 井保 圭佳 重田 一親 白石 大貴 高木 直樹 堀田 隼人 堀田 正希
谷口 貴規 田村 佳久 丹羽 崇裕 能森 亮輔 堀田 隼人 堀田 正希
松原 智哉 森 勇樹 山口 雄大 山田 翔太 横倉 津 横山 亮磨

次代の国際人育成委員会 委員長：横山 篤司
副委員長：伊藤 彬史 伊藤 祐一 岡田 壮平 河合 園子 佐藤 嘉紘 宍戸 友洋
委員：荒川 一喜 稲垣 好一 岩田 壮一 大嶋 剛生 久保 明愛 倉内 佑己
黒川 晋伍 小島 浩孝 坂口 雄哉 佐藤 恭亮 澤田 章弘 中塚 順士
那須野 晃雅 野田 典嗣 樋口 雄哉 舟橋 恭亮 松本 晃 松本 美佳
森山 高秀 八神 圭佑 山田 寅晴
アドバイザー：山田 洋資

国際ビジネス推進委員会 委員長：寺島 雅樹
副委員長：青木 久将 川津 友斗 小林 道弘 西川 郁弥 福原 彰 藤木 啓右
委員：石川 拓哉 石栗 文浩 石橋 秀俊 伊藤 貴哉 宇田 広志 岡 生太
上堀内 智也 川尻 達郎 河村 将成 久保 智裕 榊原 一輝 柴田 高
瀬戸 慶太郎 中根 裕矢 播磨 一夫 久湊 和也 平岩 敏明 本田 大三
松波 登記臣 水谷 僚 安江 康佑 吉川 英典 吉田 憲司

組織内交流活性化委員会 委員長：桑野 佑介
副委員長：青山 泰士 瓜生 研二 織田 真吾 中島 一樹 西村 宜起 服部 拓男
委員：内海 陽介 金沢 孝吉 児玉 昇之 小牧 直史 近藤 洋平 酒井 孝太郎
鈴木 雅貴 中川 将一 永坂 萌子 中郷 直史 西川 征吾 原 奈穂
原田 健司 平沼 貴浩 福樂 正旭 古橋 幸奈 馬淵 龍之輔 嶺田 英智
八木 隆広 山本 宣秀 横山 和宏 吉水 峰志
アドバイザー：小林 靖浩

持続可能な会員益探究委員会 委員長：酒井 伸彦
副委員長：伊藤 武則 川瀬 築 木全 皓男 水谷 紘基 山田 祐士 吉田 貴士
委員：浅井 篤史 石原 裕也 今川 洋介 岩田 公一 上村 英晃 大嶽 暁良
岡本 二世 尾崎 大輝 男城 月菜 金沢 龍柱 鎌田 豊 河合 祐二
北川 健一郎 熊倉 祐太 澁谷 歩 清水 豊大 世羅 凱強 高木 凌介
高山 勝行 西田 泰洋 早瀬 慎一 頼永 古川 雄規 水野 鐘太
南 佳孝 村瀬 友明 山内 結貴

時代に即した組織論探究委員会 委員長：中塚 喜雄
副委員長：江頭 尚 岡山 優 小島 文樹 小柳 智幸 齋藤 史明 松井 利安
委員：磯部 隼一 伊藤 淳 揖斐 晴基 太田 智紀 大野 祐揮 加藤 雅俊
神谷 一功 賀本 賢治 小林 生樹 櫻井 辰磨 寺田 美桜 遠山 直樹
長尾 和彦 中村 昭博 林 克徳 福井 敏志 松本 裕輔 宮脇 正貴
武藤 隆義 柳澤 幸佑
アドバイザー：三輪 大介

時代のうねりを勝ち抜く組織創造委員会 委員長：森 俊輔
副委員長：神山 真衣 豊田 将之 長江 輝幸 長尾 斉 馬場 慶輔 万木 斉
委員：足立 憲昭 市橋 孝晃 伊藤 弘晃 岩本 美多 上田 厚希
加藤 康平 河合 初雄 桑山 太雅 齋藤 智之 佐野 志賀
下郷 洋 下村 孝成 高木 茂太朗 坪井 健一郎 中西 宣仁 中村 新
濱田 梨紗 福田 紗也 山田 真也 山中 千昌

安心・安全な生活推進室

心身両面の健康増進委員会 委員長：大島 久敬
副委員長：伊藤 真司 桐村 大輔 小本 曾貴 田中 努 吉田 光宏
委員：石川 裕也 大嶋 啓太 大山 真由美 勝亦 成章 金田 和豊
金城 諒 黒田 勇樹 高坂 茂毅 高坂 幸正 合田 恵介
小林 秋宏 佐野 良浩 澤田 末永 末永 啓浩 菅原 慶太
西口 雄生 福田 紘大 藤井 達也 藤井 友樹 丸森 一慶

防災・防疫対策委員会 委員長：三野 一人
副委員長：加藤 亮太 酒井 貴憲 島田 大八 服部 暁彦 藤原 潤也
委員：青井 史織 青木 裕典 赤塚 幸司 石田 大輔 井上 有香
片山 浩 加野 永実 浦 西 神谷 真吾 黒谷 泰貴
越村 泰典 小林 優太 中西 虎ノ助 西村 愛吾 野田 陽子
吉田 拓矢 兼也
アドバイザー：安井 琢磨

総務室

総務委員会 委員長：中村 正俊
副委員長：石塚 健太郎 石野 洗平 川越 美希 坪内 禪 鳥原 裕史
委員：石川 倉三 岡田 善行 小原 成精 加藤 雄也 神谷 竜史
桐島 和江 木葉 良平 斉藤 ルイス 坂崎 晃啓 杉浦 勝彦
都世子 翔太 成瀬 寛展 長谷川 弘憲 長谷川 正和 東 勝彦
福井 誠 増田 謙二 三木 真志 山本 真輝 横井 直己
渡邊 裕紀

財務委員会 委員長：小栗 崇嗣
副委員長：相原 玲彦 坂口 見逸 富吉 裕二 中村 優也 花岡 正和
委員：阿比留 慶太 岡田 古池 将大 加藤 近藤 中井 金井 優高
久喜 晴外 古徳 倉丸 輝 将大 富田 裕樹 七種 浩一 酒井 靖子
筒井 康之 丸山 祐子 森 拓也 永井 貴博 永井 宏幸 長谷川 太一
藤本 桂介 藤本 桂介 丸山 輝 森 拓也 永井 俊陽 梁川 雄太
松岡 秀佳

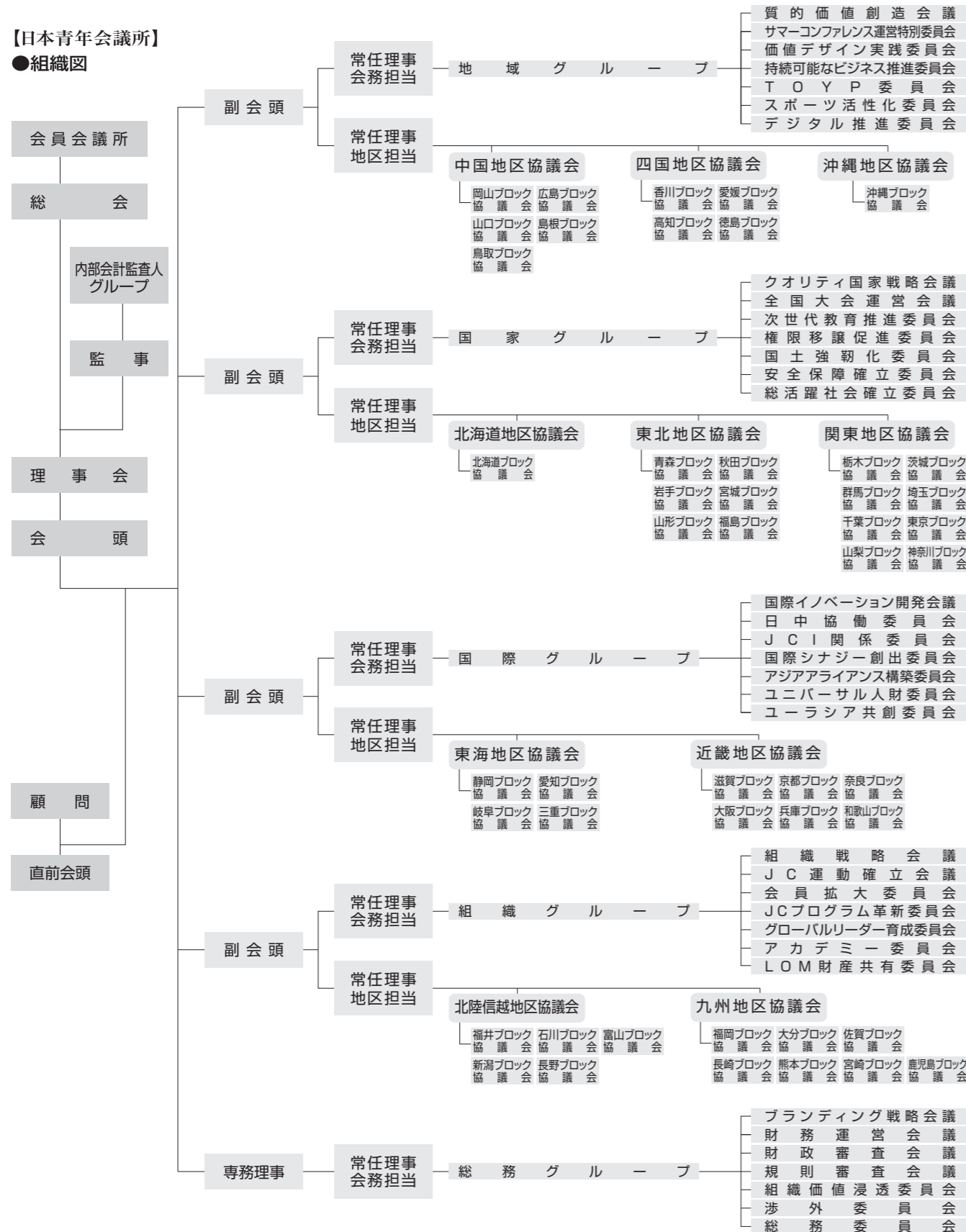
持続可能なJCI創造室

革新的な組織改革推進室

2021年度 出向会員一覧

【日本青年会議所】

●組織図

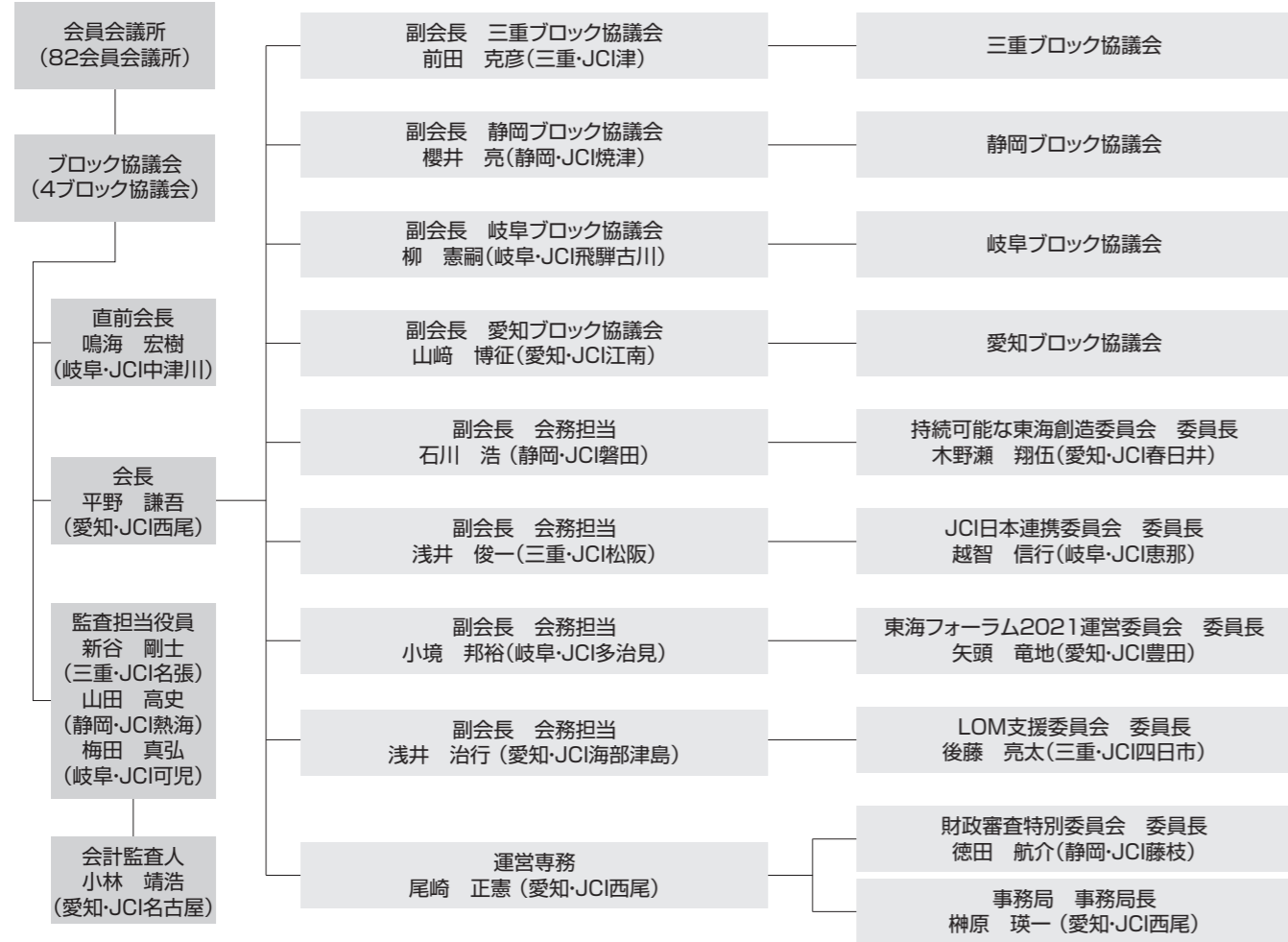


●出向会員

小林靖浩	内部会計監査人グループ	東海地区代表	岩田公一	アジアアライアンス構築委員会	委員
安井琢磨	デジタル推進委員会	委員長	近藤文浩	ユーラシア共創委員会	委員
伊藤淳	質的価値創造会議	副議長	久喜石栗	ユーラシア共創委員会	委員
中尾俊介	サマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長	佐藤涼	ユーラシア共創委員会	委員
石原裕也	次世代教育推進委員会	副委員長	西村愛吾	ユーラシア共創委員会	委員
播磨一夫	国際シナジー創出委員会	副委員長	神谷美奈	ユーラシア共創委員会	委員
高橋侑大	国際イノベーション開発会議	副議長	杉野美奈	LOM財産共有委員会	委員
澤田章弘	ユーラシア共創委員会	副議長	吉村素乃	LOM財産共有委員会	委員
鶴飼伸弥	JC運動確立会議	副議長	加藤永平	LOM財産共有委員会	委員
齋藤智之	アカデミー委員会	副委員長	河本和寛	JC運動確立会議	委員
越村泰典	LOM財産共有委員会	副議長	横山和宏	JC運動確立会議	委員
平岩敏明	ブランディング戦略会議	副議長	蒲生佳大	JC運動確立会議	委員
富永晃司	総務委員会	副委員長	伊藤一訓	アカデミー委員会	委員
森智彦	デジタル推進委員会	副委員長	山田雄也	アカデミー委員会	委員
坪井健一郎	総活躍社会確立委員会	副委員長	小幡千昌	アカデミー委員会	委員
河合初雄	日中協働委員会	副委員長	山中浩高	アカデミー委員会	委員
杉浦恵一	質的価値創造会議	副委員長	黒谷泰成	アカデミー委員会	委員
高木賢一朗	質的価値創造会議	副委員長	河村将一	ブランディング戦略会議	委員
本田大三	質的価値創造会議	副委員長	荒川加藤	ブランディング戦略会議	委員
柳澤幸佑	質的価値創造会議	副委員長	山口成田	ブランディング戦略会議	委員
加藤佳久	サマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長	八神東谷	総務委員会	委員
田村克徳	サマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長	佐藤根	総務委員会	委員
林宏樹	サマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長	中根男	総務委員会	委員
石神直樹	サマーコンファレンス運営特別委員会	副委員長			
丸森一慶	持続可能なビジネス推進委員会	副委員長			
近藤洋平	デジタル推進委員会	副委員長			
坂崎見啓	デジタル推進委員会	副委員長			
金沢孝吉	デジタル推進委員会	副委員長			
大嶋剛生	デジタル推進委員会	副委員長			
原奈穂	デジタル推進委員会	副委員長			
黒田勇樹	デジタル推進委員会	副委員長			
田中健	デジタル推進委員会	副委員長			
石橋弘隆	デジタル推進委員会	副委員長			
梁川雄太	デジタル推進委員会	副委員長			
清水豊大	デジタル推進委員会	副委員長			
松岡秀佳	デジタル推進委員会	副委員長			
渡邊紘子	デジタル推進委員会	副委員長			
石川倉三	デジタル推進委員会	副委員長			
樋口貴彦	クオリティ国家戦略会議	副委員長			
小島将揮	次世代教育推進委員会	副委員長			
神谷一功	次世代教育推進委員会	副委員長			
筒井康之	次世代教育推進委員会	副委員長			
下村昌己	次世代教育推進委員会	副委員長			
籠谷倫親	安全保障確立委員会	副委員長			
近藤稔浩	総活躍社会確立委員会	副委員長			
西田泰洋	国際イノベーション開発会議	副委員長			
岩田壮一	国際イノベーション開発会議	副委員長			
内藤宗拓	国際イノベーション開発会議	副委員長			
能森亮輔	国際イノベーション開発会議	副委員長			
山崎幹根	国際イノベーション開発会議	副委員長			
熊倉祐太	国際イノベーション開発会議	副委員長			
阿部圭介	日中協働委員会	副委員長			
宇田広志	日中協働委員会	副委員長			
山田寅晴	日中協働委員会	副委員長			
光田佑司	JCI関係委員会	副委員長			
山田洋資	JCI関係委員会	副委員長			
松本裕輔	国際シナジー創出委員会	副委員長			
大島真司	国際シナジー創出委員会	副委員長			
伊藤肇宏	国際シナジー創出委員会	副委員長			
都世子翔太	国際シナジー創出委員会	副委員長			
三宅功一	アジアアライアンス構築委員会	副委員長			

【東海地区協議会】

●組織図



●出向会員

- 小林 靖浩 事務局
- 児玉 昇之 事務局
- 小牧 直史 事務局
- 梅本 隆太 事務局
- 長谷川 祐希 事務局
- 松本 晃広 事務局

- 会計監査人 小林 靖浩
- 委員 児玉 昇之
- 委員 小牧 直史
- 委員 梅本 隆太
- 委員 長谷川 祐希
- 委員 松本 晃広

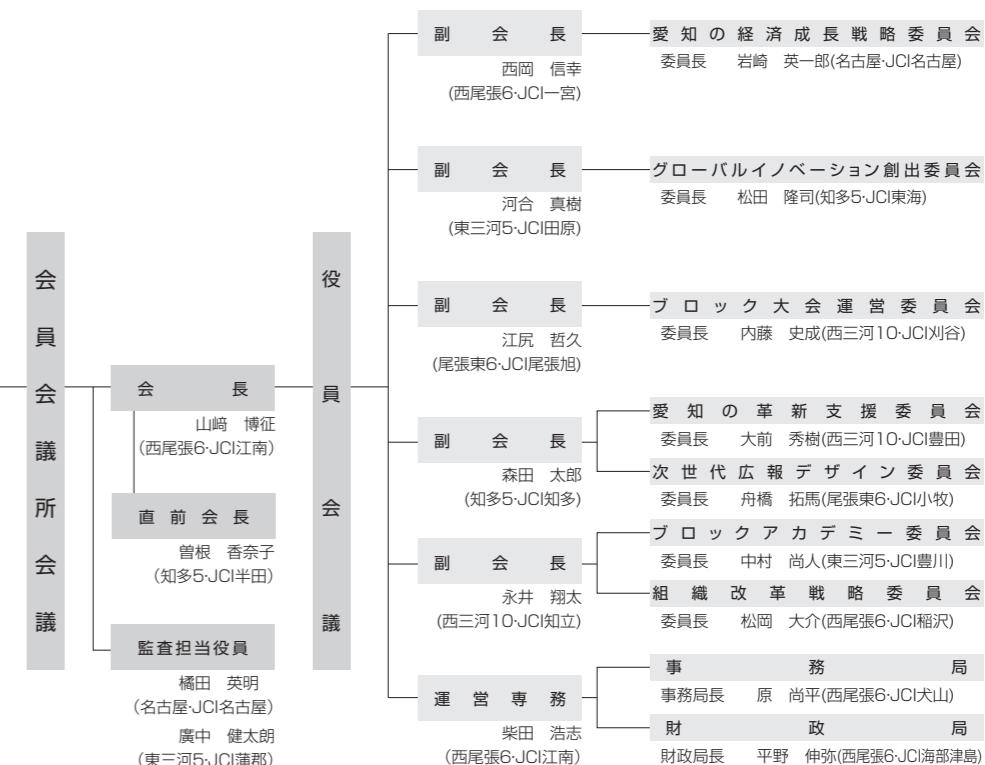
【愛知ブロック協議会】

●組織図

エリア	LOM名	理事長名
西尾張6JC	(社)海部津島青年会議所	加藤 昌之
	公益社団法人一宮青年会議所	野田 敬弘
	(社)稲沢青年会議所	富田 融生
	(社)犬山青年会議所	松田 修
尾張東6JC	(社)江南青年会議所	齊藤 麗菜
	(社)丹羽青年会議所	伊藤 真人
	岩倉青年会議所	河合 良弥
	(社)尾張旭青年会議所	戸原 弘二
名古屋5JC	公益社団法人春日井青年会議所	泰丘 良玄
	(社)北名古屋青年会議所	峰雪 真行
	(社)小牧青年会議所	熊谷 翔児
	(社)瀬戸青年会議所	鈴木 克典
知多5JC	公益社団法人名古屋青年会議所	寺田 拓也
	(社)大府青年会議所	岩村 健作
	知多青年会議所	飯田 健志
	(社)東海青年会議所	蟹江 祥裕
西三河10JC	常滑青年会議所	富田 結介
	公益社団法人半田青年会議所	芳金 秀展
	(社)愛知中央青年会議所	近藤 裕
	(社)安城青年会議所	笠原 昇悟
東三河5JC	(社)岡崎青年会議所	原田 真典
	(社)刈谷青年会議所	近藤 孝政
	高浜青年会議所	西尾 知也
	(社)知立青年会議所	加藤 道章
東三河5JC	(社)豊田青年会議所	脇本 泰志
	(社)豊田青年会議所	鈴木 悠介
	(社)西尾青年会議所	永江 秀光
	(社)碧南青年会議所	杉浦 晴太郎
東三河5JC	(社)蒲郡青年会議所	伊藤 健二
	(社)新城青年会議所	齊藤 竜也
	(社)田原青年会議所	眞木 高弘
	(社)豊川青年会議所	大石 宗弘
公益社団法人豊橋青年会議所		内藤 貴教

●出向会員

- 橘田 英明 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 岩崎 英一郎 事務局
- 高田 総一郎 事務局
- 岡村 祥吾 事務局
- 徳倉 祐子 事務局
- 神谷 竜史 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 七種 一明 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 大和 雄樹 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 諸角 圭佑 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 青木 裕典 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 長谷川 弘憲 愛知の革新支援委員会 委員
- 徳石 翔太 次世代広報デザイン委員会 委員
- 古川 雄規 ブロックアカデミー委員会 委員
- 嶺田 英智 ブロックアカデミー委員会 委員
- 貝沼 宏徳 組織改革戦略委員会 委員
- 早崎 太亮 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 青本 純利 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 田邊 誠 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 小川 裕 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 増田 謙二 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 金刺 廣長 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 井山 将成 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 橘 紀久也 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 中島 優作 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 山口 雄大 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 濱田 梨紗 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 福田 紗也 愛知の経済成長戦略委員会 委員
- 木葉 良平 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 佐藤 広治 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 高取 秀光 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 山田 真也 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 横倉 津 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 谷川 政康 グローバルイノベーション創出委員会 委員
- 黒川 晋伍 愛知の革新支援委員会 委員
- 小林 生樹 愛知の革新支援委員会 委員
- 足立 憲昭 愛知の革新支援委員会 委員
- 岡 徳久 愛知の革新支援委員会 委員
- 小出 浩貴 次世代広報デザイン委員会 委員



- 副会長 西岡 信幸 (西尾張6-JCI一宮)
- 副会長 河合 真樹 (東三河5-JCI田原)
- 副会長 江尻 哲久 (尾張東6-JCI尾張旭)
- 副会長 森田 太郎 (知多5-JCI知多)
- 副会長 永井 翔太 (西三河10-JCI知立)
- 副会長 小境 邦裕 (岐阜・JCI多治見)
- 副会長 浅井 治行 (愛知・JCI海部津島)
- 副会長 尾崎 正憲 (愛知・JCI西尾)
- 会長 山崎 博征 (西尾張6-JCI江南)
- 直前会長 曾根 香奈子 (知多5-JCI半田)
- 監査担当役員 橘田 英明 (名古屋・JCI名古屋), 廣中 健太郎 (東三河5-JCI蒲郡)
- 愛知の経済成長戦略委員会 委員長 岩崎 英一郎 (名古屋・JCI名古屋)
- グローバルイノベーション創出委員会 委員長 松田 隆司 (知多5-JCI東海)
- ブロック大会運営委員会 委員長 内藤 史成 (西三河10-JCI刈谷)
- 愛知の革新支援委員会 委員長 大前 秀樹 (西三河10-JCI豊田)
- 次世代広報デザイン委員会 委員長 舟橋 拓馬 (尾張東6-JCI小牧)
- ブロックアカデミー委員会 委員長 中村 尚人 (東三河5-JCI豊川)
- 組織改革戦略委員会 委員長 松岡 大介 (西尾張6-JCI稲沢)
- 事務局 事務局長 原 尚平 (西尾張6-JCI犬山)
- 財務政局 財政局長 平野 伸弥 (西尾張6-JCI海部津島)
- 主手下 哲広 次世代広報デザイン委員会 委員
- 松原 剛司 次世代広報デザイン委員会 委員
- 佐野 良浩 次世代広報デザイン委員会 委員
- 平岡 勇治 次世代広報デザイン委員会 委員
- 小野 陽平 ブロックアカデミー委員会 委員
- 桑山 太雅 ブロックアカデミー委員会 委員
- 住田 雄平 ブロックアカデミー委員会 委員
- 樋口 加奈 ブロックアカデミー委員会 委員
- 横井 俊祐 ブロックアカデミー委員会 委員
- 吉井 建朗 ブロックアカデミー委員会 委員
- 櫻井 辰磨 組織改革戦略委員会 委員
- 寺町 暁彦 財務政局 委員
- 岡 厚希 財務政局 委員

## 歴代理事会構成メンバー

### ● 第1年度 (1950~51)

理事長	大隈 孝一	
専務理事	磯部 鎌一	
監事	高橋 守彦	竹中 泰弘
	八代健三郎	
理事	青木 賢三	樋田 耕平
	井元 啓太	上遠野達三郎
	神野 三男	中村 達郎
	竹田 吉男	富田 孝
	遠山 孝三	

### ● 第2年度 (1951~52)

理事長	神野 三男	
専務理事	磯部 鎌一	
監事	春田 正策	盛田 和昭
	杉浦 勝一	
理事	安藤 壽彦	青木 賢三
	樋田 耕平	井元 啓太
	兼松 昭二	大隈 孝一
	積 治	白木 信平
	竹中 泰弘	富田 孝
	八代健三郎	

### ● 第3年度 (1952~53)

理事長	青木 賢三	
専務理事	磯部 鎌一	
監事	樋田 耕平	白木 信平
理事	荒川宗三郎	井元 啓太
	川内 武彦	小島鎌次郎
	三輪 隆康	鈴木 英一
	寺沢 栄一	遠山 孝三
	豊田幸吉郎	

### ● 第4年度 (1953~54)

理事長	豊田幸吉郎	
監事	竹中 康浩	川内 武彦
理事	荒川宗三郎	伴 充弘
	服部 英一	中部政次郎
	杉浦 勝一	角 嘉久次
	鈴木 英一	八代健三郎
	横井英太郎	

### ● 第5年度 (1954~55)

理事長	八代健三郎	
副理事長	荒川宗三郎	
監事	中部政次郎	杉浦 勝一
理事	安藤 壽彦	伴 充弘
	服部 英一	井元 啓太
	蟹江 一忠	白木 信平
	積 治	竹中 康浩
	塚原 文平	

### ● 第6年度 (1955~56)

理事長	荒川宗三郎	
副理事長	竹中 康浩	
監事	服部 英一	盛田 慶吉
	八代健三郎	
理事	安藤 壽彦	伊藤 寛
	兼松 昭二	前田 直純
	盛田 和昭	内藤 明人
	中部政次郎	白木 信平
	角 嘉久次	鈴木 英一

### ● 第7年度 (1957)

理事長	白木 信平	
副理事長	服部 英一	
監事	安藤 壽彦	前田 直純
	内藤 明人	
理事	阿部 鋼一	広瀬 隆
	伊藤 栄一	小島鎌次郎
	三輪 隆康	盛田 家弘
	小栗 稔也	積 治
	杉浦 勝一	鈴木靖一郎

### ● 第8年度 (1958)

理事長	中部政次郎	
副理事長	安藤 壽彦	
監事	服部 英一	高木 武彦
理事	阿部 鋼一	小島鎌次郎
	前田 直純	盛田 家弘
	内藤 明人	榊 由信
	沢田 裕之	新森 昭男
	積 治	角 嘉久次
	鈴木 正治	鈴木靖一郎
	塚原 文平	

### ● 第9年度 (1959)

理事長	盛田 慶吉	
副理事長	内藤 明人	積 治
監事	安藤 壽彦	中部政次郎
	角 嘉久次	
理事	伴 充弘	兼松 昭二
	蟹江 一忠	小島鎌次郎
	国枝 寅雄	前田 直純
	佐橋弘一郎	新森 昭男
	杉浦 勝一	鈴木 正治
	鈴木靖一郎	吉村 太郎

### ● 第10年度 (1960)

理事長	服部 英一	
副理事長	内藤 明人	杉浦 勝一
監事	盛田 家弘	佐橋弘一郎
	積 治	
理事	伴 充弘	伏原幹一郎
	蟹江 一忠	小島鎌次郎
	前田 直純	岡本 英造
	鈴木 正治	鈴木 忠源
	田中 一徹	上田 耕三
	山崎 照彦	吉村 太郎

### ● 第11年度 (1961)

理事長	安藤 壽彦	
副理事長	前田 直純	中部政次郎
	鈴木 正治	
監事	服部 英一	内藤 明人
	杉浦 勝一	
理事	伴 充弘	小島鎌次郎
	中北 智久	永井 讓
	沢田 裕之	新森 昭男
	白木 信平	積 治
	鈴木靖一郎	鈴木 忠源
	吉村 太郎	

### ● 第12年度 (1962)

理事長	内藤 明人	
直前理事長	安藤 壽彦	
副理事長	小島鎌次郎	吉村 太郎
	鈴木 忠源	
監事	白木 信平	前田 直純
	鈴木 正治	
理事	高木 武彦	林 永治郎
	岡本 英造	伏原順一郎
	伴 充弘	塩野 要
	田中 一徹	榊 明
	兼松 昭二	伊藤次郎左衛門
	国枝 寅雄	今井 亮次
	小栗 稔也	永井 讓
	盛田 家弘	杉浦 勝一

### ● 第13年度 (1963)

理事長	鈴木 正治	
直前理事長	内藤 明人	
副理事長	小栗 稔也	沢田 裕之
	鈴木靖一郎	
監事	小島鎌次郎	鈴木 忠源
	吉村 太郎	
理事	塩野 要	中北 智久
	富田 和夫	国枝 寅雄
	後藤 敏男	伏原順一郎
	滝上 賢一	伊藤次郎左衛門
	天野 源博	岡本 英造
	森村 和正	高木 武彦
	川瀬 雄司	安藤 壽彦
	林 永治郎	前田 直純
	積 治	白木 信平

● 第14年度 (1964)

理事長 小島 謙次郎  
 直前理事長 鈴木 正治  
 副理事長 富田 和夫 伊藤次郎左衛門  
 国枝 寅雄  
 監事 安藤 壽彦 内藤 明人  
 鈴木 靖一郎  
 理事 森村 和正 今井 亮次  
 青島 邦夫 天野 道造  
 林 純蔵 斎藤 健太郎  
 林 光雄 森田 和彦  
 加藤 嘉紀 水野 金平  
 永井 讓 志水 正弘  
 中北 智久 久世 武志  
 服部 英一 吉村 太郎

● 第16年度 (1966)

理事長 富田 和夫  
 直前理事長 吉村 太郎  
 副理事長 青島 邦夫 永井 讓  
 天野 源博  
 監事 服部 英一 安藤 壽彦  
 伊藤次郎左衛門  
 無任所理事 加藤 嘉紀 林 光雄  
 理事 林 純蔵 広瀬 隆  
 伊藤 鑛一 天野 道造  
 網島 彰 岩田 孝  
 池山 辰己 堀田 逞二  
 田中丸福男 首藤 康文  
 大脇 錠一 久留宮 歆人  
 水野 金平 川村 悌式  
 伏原 靖二 立木 秀明

● 第18年度 (1968)

理事長 国枝 寅雄  
 直前理事長 伊藤次郎左衛門  
 副理事長 池山 辰己 網島 彰  
 堀田 逞二  
 監事 天野 源博 田中丸福男  
 富田 和夫  
 理事 伊藤 泰弘 奥村 匡司  
 長谷川真弘 神谷 信清  
 松尾 宗倫 鈴木 勝義  
 三木 庸行 近藤 徹  
 西野田嘉生 中村 嘉孝  
 川村 悌式 天野 源治  
 林 幹治 久留宮 歆人  
 浦野 勉 首藤 康文  
 八神 弘雄 柏木 順老  
 森 博一 小島 謙次郎  
 伊藤 鑛一

● 第20年度 (1970)

理事長 網島 彰  
 直前理事長 林 純蔵  
 副理事長 三木 庸行 松尾 宗倫  
 川村 悌式 伊藤 鑛一  
 監事 天野 源博 加藤 嘉紀  
 田中丸福男  
 無任所常任理事 伊藤次郎左衛門  
 常任理事 鈴木 勝義 伊藤 泰弘  
 木村 茂 加藤 守  
 柏木 順老  
 無任所理事 中北 智久 杉野 峯一郎  
 堀田 逞二  
 理事 長谷川真弘 浦野 勉  
 黒川 勇司 日下 守  
 柴山 正彦 立木 秀明  
 小林 一夫 天野 源治  
 荒川 邦雄 川村 敏雄  
 宮地 国行 伴 正雄  
 森田 元夫 八神 弘雅  
 岡村 明吉

● 第15年度 (1965)

理事長 吉村 太郎  
 直前理事長 小島 謙次郎  
 副理事長 森村 和正 加藤 嘉紀  
 中北 智久  
 監事 安藤 壽彦 伊藤次郎左衛門  
 国枝 寅雄  
 無任所理事 富田 和夫  
 理事 今井 亮次 井上 文夫  
 池山 辰己 角 富之助  
 荒川 卓治 堀田 逞二  
 久世 武志 辻 幸広  
 水野 金平 杉本 邦彦  
 伏原 靖二 井上 雅之  
 林 光雄 佐橋 弘一郎  
 内藤 明人 服部 英一  
 志水 正弘

● 第17年度 (1967)

理事長 伊藤次郎左衛門  
 直前理事長 富田 和夫  
 副理事長 今井 亮次 田中丸福男  
 林 純蔵  
 監事 青島 邦夫 小島 謙次郎  
 国枝 寅雄  
 無任所理事 天野 道造  
 理事 斎藤 健太郎 塩内 長俊  
 杉野 峯一郎 伊藤 鑛一  
 伊藤 泰弘 近藤 徹  
 伏原 靖二 井上 雅之  
 首藤 康文 木村 茂  
 久留宮 歆人 長谷川真弘  
 神谷 信清 堀田 逞二  
 柏木 順老 網島 彰  
 尾関 武弘 鈴木 勝義

● 第19年度 (1969)

理事長 林 純蔵  
 直前理事長 国枝 寅雄  
 副理事長 水野 金平 網島 彰  
 近藤 徹 久留宮 歆人  
 監事 富田 和夫 天野 源博  
 永井 讓  
 堀田 逞二  
 無任所理事 塩内 長俊 奥村 匡司  
 理事 黒川 勇司 松尾 宗倫  
 柴山 昌比浩 伊藤 泰弘  
 安藤 勉 鈴木 勝義  
 宮地 国行 長谷川真弘  
 神谷 弥甫 三木 庸行  
 八神 弘雄 森 博一  
 加藤 守 首藤 康文  
 浦野 勉 伊藤 鑛一  
 木村 茂 伊藤次郎左衛門  
 川村 悌式 池山 辰己

● 第21年度 (1971)

理事長 中北 智久  
 直前理事長 網島 彰  
 副理事長 首藤 康文 黒川 勇司  
 木村 茂 八神 弘雄  
 監事 伊藤 鑛一 林 純蔵  
 三木 庸行  
 常任理事 伊藤次郎左衛門 川村 悌式  
 松尾 宗倫  
 無任所理事 柴山 正彦 鈴木 勝義  
 森 博一 久留宮 歆人  
 理事 天野 源治 奥村 匡司  
 林 俊郎 伊藤 与朗  
 井上 喬詞 井上 文夫  
 小林武千代(文絃) 大隈 園彦  
 田口義嘉壽 一柳 錡  
 小林 一夫 上村 晋也  
 青山 正幸 宮地 国行  
 西村 嘉紘

● 第22年度 (1972)

理事長	伊藤 鑛一	
直前理事長	中北 智久	
副理事長	伊藤 泰弘	松尾 宗倫
	長谷川真弘	田口義嘉壽
監 事	伊藤次郎左衛門	林 純蔵
	三木 庸行	
無任所常任理事	川村 梯式	
常任理事	川村 敏雄	大隈 罔彦
	小林 一夫	天野 源治
	西村 嘉紘	加藤 守
	杉野峯一郎	
無任所理事	久留宮歆人	
理 事	南館 欣也	坂 誠
	森 博一	伊藤 修策
	堀田 日夫	安藤 龍彦
	谷沢 光治	恒川 義朗
	大橋 忠泰	小林武千代(文紘)
	一柳 鏝	荒川 邦雄
	田嶋 好博	高岡 次郎
	大島清(規仔志喜十郎)	伊藤 政弘
	高村 博三	

● 第23年度 (1973)

理事長	久留宮歆人	
直前理事長	伊藤 鑛一	
副理事長	堀田 日夫	杉野峯一郎
	宮地 国行	川村 敏雄
監 事	林 純蔵	松尾 宗倫
	川村 梯式	
無任所常任理事	田口義嘉壽	
常任理事	大島清(規仔志喜十郎)	小林武千代(文紘)
	高村 博三	安藤 龍彦
	安井 隆豊	南館 欣也
無任所理事	木村 茂	
理 事	町田 重夫	山本 光夫
	細野 恭弘	吉田 春樹
	山本 祥二	祖父江義弘
	神谷 信清	稲川 守彦
	堀場 正武	伊藤 勝彦
	千田 毅	酒井 善弘
	森 光雄	加藤 千磨
	日下 守	西村 嘉紘
	一柳 鏝	

● 第24年度 (1974)

理事長	田口義嘉壽	
直前理事長	久留宮歆人	
副理事長	南館 欣也	柏木 順老
	大隈 罔彦	小林 一夫
専務理事	西村 嘉紘	
監 事	伊藤 鑛一	川村 梯式
	宮地 国行	
無任所常任理事	木村 茂	
常任理事	森 博一	柴山 正彦
	森田 素生	安井 隆豊
	青山 正幸	加藤 千磨
	上村 晋也	
無任所理事	小林武千代(文紘)	鈴木 勝義
理 事	杉浦日出夫	春日 文明
	青山 良雄	森 武保
	舟橋 樺光	細野 恭弘
	岡田 克己	立木 秀明
	松岡 浩一	清水 昌一
	山口 直樹	伊藤 善朗
	川口 将二	鶴田 欣也
	立松 悦治	浜田 武
	待井 雄介	長谷川士郎
	菅家 久栄	佐藤 静彦

● 第25年度 (1975)

理事長	木村 茂	
直前理事長	田口義嘉壽	
副理事長	高村 博三	鈴木 勝義
	山口 直樹	小林武千代(文紘)
専務理事	森 博一	
監 事	久留宮歆人	川村 敏雄
	柏木 順老	
常任理事	高岡 次郎	青山 良雄
	松岡 浩一	伊藤 善朗
	鶴田 欣也	浜田 武
	細野 恭弘	吉田 春樹
	川村 梯式	
無任所理事	杉野峯一郎	広瀬 武
	春日 文明	
理 事	田嶋 好博	高村 武彦
	平野鉄二郎	西村 光雄
	神谷 弥甫	高桑 秀幸
	丹羽 一征	杉本 仁至
	野崎東太郎	古川 爲之
	白木 喬	早川 和夫
	宮下幸二郎	早川 東助
	杉山 恭彦	長谷川林平
	青木 泰樹	佐藤 善乙
	坂 誠	大河内正雄
	村瀬雄一郎	

● 第26年度 (1976)

理事長	川村 梯式	
直前理事長	木村 茂	
副理事長	大島清(規仔志喜十郎)	加藤 千磨
	安藤 龍彦	松岡 浩一
専務理事	杉本 仁至	
監 事	久留宮歆人	杉野峯一郎
	南館 欣也	
特別顧問	田口義嘉壽	
無任所常任理事	広瀬 武	
常任理事	町田 重夫	田嶋 好博
	春日 文明	坂 誠
	岡田 克己	早川 和夫
	伊藤 政弘	古川 爲之
	千田 毅	野崎東太郎
	鈴木 勝義	村瀬雄一郎
無任所理事	西村 嘉紘	柏木 順老
	長谷川林平	
理 事	井高 博	水野 義夫
	武田 和久	稲川 守彦
	諏訪 光之	原 勝彦
	鬼頭 康之	加藤 寿彦
	飯田 隆	野崎 博
	樫木 正雄	竹田 光宏
	水谷 鎮夫	青山 孝雄
	中村 守人	井原 康成
	堀田 明利	保浦 文郎
	長谷川 武	丹羽 一之
	安藤 重良	大原 康之
	大河内健二	沢井 孝郎
	江口 太郎	小川 克己

● 第27年度 (1977)

理事長	加藤 千磨	
直前理事長	川村 梯式	
副理事長	野寄東太郎	岡田 克己
	古川 爲之	伊藤 善朗
専務理事	町田 重夫	
監事	木村 茂	小林 一光
	大隈 園彦	
特別顧問	田口義嘉壽	
無任所常任理事	柏木 順孝	
常任理事	稲川 守彦	鬼頭 康之
	飯田 隆	佐藤 善乙
	長谷川 武	杉山 恭彦
	大原 康之	水谷 鎮夫
	待井 雄介	村瀬雄一郎
	杉本 仁至	杉浦日出夫
無任所理事	小林 丈紘	広瀬 武
	春日 文明	西村 嘉紘
理事	松田 紀興	水野 義雄
	鶴飼 治昭	横山 昇
	鈴木 重光	伊藤 雅隆
	近藤 正典	吉田 大士
	加藤 勝久	西村 光雄
	牧野義雄	武部 宏
	真野 清	川村 康夫
	金森徳三郎	山田 隆雄
	加知 武司	小山 慎介
	吉田 安広	久郷 省三
	国分 孝雄	牧野 昌司
	安井 隆豊	

● 第28年度 (1978)

理事長	野寄東太郎	
直前理事長	加藤 千磨	
副理事長	田嶋 好博	待井 雄介
	杉本 仁至	吉田 春樹
	大原 康之	
専務理事	鶴飼 治昭	
監事	川村 梯式	柏木 順孝
	大隈 園彦	
特別顧問	田口義嘉壽	
顧問	伊藤 善朗	
無任所常任理事	西村 嘉紘	
常任理事	松田 紀興	早川 和夫
	横山 昇	吉田 大士
	樫木 正雄	金森徳三郎
	青山 孝雄	沢井 孝郎
	安藤 重良	牧野義雄
無任所理事	江口 太郎	
	広瀬 武	小林 丈紘
理事	小林 一光	
	那須 國宏	森川 幸洋
	山口 道夫	国分 孝雄
	横井 寿男	坂川 勝
	鈴木 和雄	伊藤 哲郎
	雨宮 治昭	尾畑 孝
	伴 禎夫	島本 迪彦
	森 良雄	筒井 信之
	鶴田 辨弘	山端 康平
	渡辺 文雄	斉藤 文孝
	恵美 哲雄	牧野 昌司

● 第29年度 (1979)

理事長	古川 爲之	
直前理事長	野寄東太郎	
副理事長	稲川 守彦	吉田 大士
	水谷 鎮夫	安藤 重良
	青山 孝雄	
専務理事	武部 宏	
監事	待井 雄介	西村 嘉紘
	大隈 園彦	
顧問	田嶋 好博	広瀬 武
無任所常任理事	杉本 仁至	
常任理事	那須 國宏	恵美 哲雄
	鈴木 和雄	伊藤 哲郎
	雨宮 治昭	尾畑 孝
	小山 慎介	島本 迪彦
	山田 隆雄	渡辺 文雄
	国分 孝雄	鶴飼 治昭
無任所理事	吉田 春樹	
理事	加藤 勝昭	伊東 信吉
	舟橋 政男	宮田 五郎
	岩根 敬泰	岩田 玄知
	小池 教夫	谷 喜久郎
	堀田 達夫	鬼頭 完次
	大竹 勇司	吉田 雅樹
	河原 好彦	田島 慶雄
	恒川 知彦	嶋田 健二
	山内 芳郎	田中 義一
	酒井 敏彦	稲川 久
	天野 俣明	遠藤 正昭

● 第30年度 (1980)

理事長	吉田 春樹	
直前理事長	古川 爲之	
副理事長	島本 迪彦	鶴飼 治昭
	雨宮 治昭	金森徳三郎
	鈴木 和雄	
専務理事	樫木 正雄	
監事	杉本 仁至	吉田 大士
	野寄東太郎	
顧問	待井 雄介	西村 嘉紘
	安井 隆豊	
常任理事	西村 光雄	伴 禎夫
	天野 俣明	河原 好彦
	嶋田 健二	山内 芳郎
	近藤 正典	森川 幸洋
	竹田 光宏	酒井 敏彦
	加藤 勝久	那須 國宏
無任所理事	青山 孝雄	牧野 昌司
	筒井 信之	
理事	井桁 正保	丹羽 幸彦
	井口 外昭	若月 純人
	祖父江泰治	西川 輝男
	本多 清治	福永 仁
	長瀬由司久	丹下 康廣
	辻本 昌孝	吉木 洋二
	増田 盛英	宮崎 渡
	平手 満彦	安藤 恒春
	宮堂 史朗	伊藤 建一
	山口 勝弘	鈴木 邦夫
	尾上 昇	山田 靖典

● 第31年度 (1981)

理事長	青山 孝雄		
直前理事長	吉田 春樹		
副理事長	安井 隆豊	山本 祥二	
	河原 好彦	鬼頭 康之	
	那須 國宏		
専務理事	天野 俣明		
監事	吉田 大士	鶴飼 治昭	
	大隈 園彦		
顧問	西村 嘉紘	野寄東太郎	
常任理事	尾上 昇	久郷 省二	
	稲川 久	堀田 達夫	
	鈴木 邦夫	丹羽 幸彦	
	西川 輝男	本多 清治	
	宮崎 渡	牧野 昌司	
	岩田 玄知	筒井 信之	
無任所理事	鈴木 和雄	雨宮 治昭	
	安藤 重良	金森徳三郎	
理事	草野 勝彦	鈴木 幹雄	
	森本 健市	川口 喜朗	
	大原 広昭	三輪完太郎	
	吉木 洋二	梶田 佳洋	
	福本 豊彦	嶺木 昌行	
	富永 康文	加藤 直義	
	関 正之	渡辺 岳宏	
	長谷川敬修	岩田 栄一	
	浅野 純史	足立 雄一	
	長尾 昌彦	西川 良三	
	谷 喜久郎	酒井 敏彦	
	辻本 昌孝	西村 光雄	
	林 清重		

● 第32年度 (1982)

理事長	安藤 重良		
直前理事長	青山 孝雄		
副理事長	岩田 玄知	久郷 省二	
	酒井 敏彦	丹羽 幸彦	
	鈴木 邦夫		
専務理事	牧野 昌司		
監事	野寄東太郎	河原 好彦	
	鈴木 和雄		
顧問	古川 爲之	吉田 春樹	
	那須 國宏		
常任理事	鈴木 幹雄	宮堂 史朗	
	岩田 栄一	長瀬由司久	
	加藤 直義	伊藤 建一	
	吉田 雅樹	坂川 勝	
	山口 勝弘	田中 義一	
	大原 広昭	金森徳三郎	
無任所理事	雨宮 治昭	樺木 正雄	
	鬼頭 康之	本多 清治	
理事	児山 积明	鶴見 正明	
	乃一 稔	大和 哲郎	
	辻 正春	長瀬徳八郎	
	吉村 充敏	杉山 雄彦	
	篠田 光浩	奥村 洋	
	森 保彦	橋元 幸次	
	石田 喜樹	成田 国立	
	尾関 和成	後藤 保正	
	高橋 靖裕	館 健吾	
	平松潤一郎	鬼頭 完次	
	岡田 啓作	細野 憲二	
	小林 国夫	杉江純一郎	
	国分 義雄		

● 第33年度 (1983)

理事長	鈴木 邦夫		
直前理事長	安藤 重良		
副理事長	嶋田 健二	竹田 光宏	
	堀田 達夫	吉田 雅樹	
	伊藤 建一		
専務理事	尾上 昇		
監事	吉田 春樹	酒井 敏彦	
	古川 爲之		
顧問	樺木 正雄		
無任所常任理事	青山 孝雄		
常任理事	杉山 雄彦	石田 喜樹	
	鬼頭 完次	浅野 純史	
	福本 豊彦	尾関 和成	
	長尾 昌彦	草野 勝彦	
	平松潤一郎	武部 宏	
	高橋 靖裕	岩田 栄一	
無任所理事	山口 勝弘	田島 慶雄	
理事	水野 裕善	田茂井克典	
	志水 義祐	唐木 寛	
	伊藤 幸太	各務 修	
	名倉 嗣治	松波 恒彦	
	築山 敏朗	浅野 幸次	
	大岡 洋三	山中 岩男	
	近藤 武彦	柴田 信義	
	村井 優文	星野 幹夫	
	大矢 英憲	白石 信雅	
	福与 恵俊	西川 広義	
	山田 敏雄	阿部 博	
	山口 道夫	鈴木 強	
	高木 清秀	白木 勝久	

● 第34年度 (1984)

理事長	伊藤 建一		
直前理事長	鈴木 邦夫		
副理事長	大原 広昭	山口 道夫	
	鈴木 幹雄	鬼頭 完次	
	岩田 栄一	平松潤一郎	
専務理事	石田 喜樹		
監事	古川 爲之	青山 孝雄	
	堀田 達夫		
顧問	吉田 雅樹		
常任理事	唐木 寛	宮田 五郎	
	伊藤 幸太	乃一 稔	
	渡辺 岳宏	浅野 幸次	
	村井 優文	白木 勝久	
	橋元 幸次	名倉 嗣治	
	森本 健市	山田 敏雄	
	館 建吾		
無任所理事	田中 義一	浅野 純史	
理事	富田 尚志	加藤 益也	
	柏木 功	渡辺 剛男	
	浅野 好司	池 潤	
	天野 正明	加藤 和豊	
	村山 博志	立松 賢	
	加藤 順造	上野 広志	
	平野 貞義	大野 幸彦	
	林 国太郎	澤田 壽之	
	間瀬 和臣	神谷 裕之	
	古川 隆	今阪 邦雄	
	宮尾 紘司	辻阪 幸雄	
	伊藤 隆夫	永岡 滋	
	後藤 正憲	鈴木 優	



● 第35年度 (1985)

理事長	吉田 雅樹	
直前理事長	伊藤 建一	
副理事長	渡辺 岳宏	村井 優文
	長瀬由司久	白木 勝久
	伊藤 幸太	
専務理事	浅野 幸次	
監事	丹羽 幸彦	鈴木 邦夫
	大原 広昭	
顧問	山口 道夫	鈴木 幹雄
世界会議顧問	鬼頭 完次	岩田 栄一
	平松潤一郎	
常任理事	児山 釈明	三輪完太郎
	立松 賢	加藤 順造
	長瀬憲八郎	鈴木 強
	後藤 正憲	高木 清秀
	永岡 滋	加藤 和豊
	鈴木 優	浅野 好司
	阿部 博	
無任所理事	館 健吾	石田 喜樹
	橋元 幸次	
理事	戸塚十三雄	古橋 富夫
	古川 桂司	柘 勝
	中野 俊治	森下 幹人
	増田 太	河田 洋司
	奥村 和敏	満田 貴男
	米川 登	和田 政司
	鈴木 清嗣	松岡宗之介
	田口 利寿	北澤 恒雄
	松本 直	水野 鈴雄
	小笠原 暁	一柳 伸
	大沢 隆	林 芳行
	新美 宣英	岡嶋 昇一
	澤木 孝夫	市川 周作
	長谷川正親	加藤愛一郎
	長瀬 傳郎	

● 第36年度 (1986)

理事長	山口 道夫	
直前理事長	吉田 雅樹	
副理事長	後藤 正憲	立松 賢
	加藤 順造	加藤 和豊
	白木 勝久	平松潤一郎
	館 健吾(無任所)	
専務理事	鈴木 幹雄	
監事	鈴木 邦夫	伊藤 建一
	渡辺 岳宏	
顧問	村井 優文	石田 喜樹
世界会議顧問	大原 広昭	
常任理事	尾関 和成	古川 桂司
	橋元 幸次	北澤 恒雄
	長瀬 傳郎	大矢 英憲
	鈴木 優	神谷 裕之
	林 芳行	澤木 孝夫
	間瀬 和臣	長谷川正親
	奥村 和敏	
無任所理事	鬼頭 完次	岩田 栄一
	長瀬由司久	伊藤 幸太
理事	西村 利夫	高木 康行
	西脇 司	春間 則広
	加来 純一	田中 哲男
	高橋 靖裕	占部 憲一
	藤井 雅邦	小坂井雅生
	安藤 貞行	唐木 寛
	松原 邦夫	野田 剛司
	和田 政司	吉岡 正人
	本多 清	山本 裕三
	加藤 芳一	須原 茂樹
	異相 武憲	山口 裕
	矢口 隆明	新美 宣英
	加村 稔	山口 典宏
	岩口 孝一	藤岡 省吾
	柴田 光朗	

● 第37年度 (1987)

理事長	加藤 和豊	
直前理事長	山口 道夫	
副理事長	鈴木 優	名倉 嗣治
	奥村 和敏	石田 喜樹
	林 芳行	
専務理事	北澤 恒雄	
監事	後藤 正憲	鈴木 幹雄
	平松潤一郎	
顧問	加藤 順造	長瀬由司久
	鬼頭 完次	白木 勝久
	伊藤 幸太	
	館 健吾	
無任所常任理事		
常任理事	戸塚十三雄	吉岡 正人
	田中 哲男	占部 憲一
	岡嶋 昇一	田口 利寿
	小坂井雅生	本多 満
	岩口 孝一	異相 武憲
	林 国太郎	
無任所理事	宮堂 史朗	立松 賢
	橋元 幸次	
理事	吉田 敬岳	杉戸 良治
	加藤 光保	長崎 守利
	大月 一彦	渡辺 嘉一
	谷口 仁志	諏訪 明
	山田 慎也	柴原 實
	北折 芳男	山田順一郎
	米坂みよ古	鈴木 聖三
	山田 幹夫	加納 裕
	西川 誠也	鈴木 雅夫

● 第38年度 (1988)

理事長	林 芳行	
直前理事長	加藤 和豊	
副理事長	占部 憲一	浅野 幸次
	尾関 和成	澤木 孝夫
	田口 利寿	
専務理事	新美 宣英	
監事	加藤 順造	岩田 栄一
	長瀬由司久	
顧問	平松潤一郎	石田 喜樹
	立松 賢	伊藤 幸太
	白木 勝久	
無任所常任理事	鬼頭 完次	
常任理事	田茂井克典	須原 茂樹
	吉田 敬岳	大澤 隆
	安藤 貞行	加納 裕
	加藤愛一郎	加藤 芳一
	鈴木 聖三	和田 政司
	中野 俊治	小笠原 暁
	一柳 伸	
無任所理事	岡嶋 昇一	
理事	廣瀬 寿重	中島 吉隆
	松田 高男	近藤 宏行
	桜井 繁	岩井 浩司
	稲熊 宏樹	水野 茂生
	飯田 鳴登	伊藤 秀樹
	寺島 一男	岩田 達七
	大竹 敬一	鬼頭 進
	岡本 善博	石原 和幸
	牧野 恒久	松岡 泰宏
	菊地 啓介	加藤 憲司
	下村 直己	

● 第39年度 (1989)

理事長 澤木 孝夫  
 直前理事長 林 芳行  
 副理事長 鈴木 聖三 安藤 貞行  
 岡嶋 昇一 岩口 孝一  
 専務理事 異相 武憲  
 監事 石田 喜樹 浅野 幸次  
 伊藤 幸太  
 顧問 尾関 和成 田口 利寿  
 常任理事 岩井 浩司 柘 勝  
 菊地 啓介 飯田 鳴登  
 岩田 達七 桜井 繁  
 矢口 隆明 渡辺 嘉一  
 大月 一彦 石原 和幸  
 下村 直巳 鈴村 雅夫  
 鶴見 正明  
 理事 吉田 敬三 長屋 博  
 阿石 重男 出口 幹人  
 谷口 和也 富永 浩司  
 大山 泰裕 斎藤 清治  
 佐橋 敬三 西村 守央  
 伊藤 武博 櫻井 英明  
 渡辺 英二 長谷川直人  
 八代 芳明 宮崎 良一  
 金森 茂明 佐藤 貞明  
 入谷 正章 今村 憲治  
 須田 益市 辻本 正人  
 佐藤 正博 神谷日出男

● 第40年度 (1990)

理事長 田口 利寿  
 直前理事長 澤木 孝夫  
 副理事長 岩田 達七 橋元 幸次  
 桜井 繁 渡辺 嘉一  
 小坂井雅生  
 専務理事 石原 和幸  
 監事 尾関 和成 岡嶋 昇一  
 顧問 異相 武憲 岩口 孝一  
 常任理事 杉戸 良治 佐藤 正博  
 大山 泰裕 八代 芳明  
 金森 茂明 市川 周作  
 吉田 敬三 大竹 敬一  
 長屋 博 中島 吉隆  
 今村 憲治 吉岡 正人  
 宮崎 良一 鈴木 清詞  
 加藤 芳一 菊地 啓介  
 大橋 英生 井藤久仁俊  
 山口 直彦 田中 信彦  
 長崎多賀巳 坪井 進吾  
 江端 茂義 石田 直城  
 中野 貴紀 生田 恵一  
 加藤 厚 加藤 基吉  
 川真田栄次 遠山 真人  
 加藤 英晃 亀井 茂  
 山本 基博 篠田 尚久  
 野畑 幹徳 佐藤 貴之  
 新谷 岳史 西澤 茂  
 井上 隆司 伊藤 暁

無任所理事  
 理事

● 第41年度 (1991)

理事長 渡辺 嘉一  
 直前理事長 田口 利寿  
 副理事長 菊地 啓介 金森 茂明  
 吉岡 正人 岩井 浩司  
 大竹 敬一  
 専務理事 中島 吉隆  
 監事 澤木 孝夫 橋元 幸次  
 桜井 繁  
 顧問 石原 和幸 小坂井雅生  
 常任理事 大橋 英生 山田 慎也  
 田中 信彦 江端 茂義  
 野畑 幹徳 中野 貴紀  
 井上 隆司 加藤 芳一  
 篠田 尚久 西澤 茂  
 伊藤 暁 石田 直城  
 谷口 和也  
 無任所理事 大矢 英憲 岩口 孝一  
 長屋 博 新谷 岳史  
 理事 石原 基次 水野 一樹  
 國本 桂史 関谷 俊征  
 白瀧 正人 國井 鉄也  
 水野 恒平 星野 信利  
 川本 嘉博 村松 豊久  
 井上 勇 早瀬 孝文  
 北 鉄郎 光田 敏夫  
 伊藤 明人 大井 俊明  
 柴田 幹夫 角倉 元  
 村上 斎 大場 泰裕  
 蟹江 義雄 高木 正己  
 深澤 欽二 宮川 龍男

● 第42年度 (1992)

理事長 大竹 敬一  
 直前理事長 渡辺 嘉一  
 副理事長 長屋 博 井上 隆司  
 加藤 芳一 篠田 尚久  
 新谷 岳史  
 専務理事 今村 憲治  
 監事 田口 利寿 岩口 孝一  
 吉岡 正人  
 顧問 岩井 浩司 中島 吉隆  
 石原 和幸 小坂井雅生  
 常任理事 山本 基博 坪井 進吾  
 神谷日出男 村上 斎  
 北 鉄郎 宮川 龍男  
 角倉 元 富永 浩司  
 蟹江 義雄 西村 守央  
 光田 敏夫 石原 基次  
 出口 幹人 大場 泰裕  
 野畑 幹徳  
 無任所理事 湯地 保雄 柴山 英樹  
 理事 吉田 隆一 鶴見 俊成  
 古川 晴一 内田 龍  
 湯浅 茂樹 白井 薫  
 白木 基之 伊藤 亨司  
 森 敏郎 永谷 英夫  
 古田 一夫 藤井 一彦  
 戸谷 裕治 梶野 剛弘  
 澤田 幹夫 坂田 稔  
 久野 雅芳 広里 元英  
 石原 義久 水野 敬三  
 成瀬 輝雄 富田 英之  
 吉田 憲司 弘田 賢司

● 第43年度 (1993)

理事長	新谷 岳史		
直前理事長	大竹 敬一		
副理事長	矢口 隆明	山田 慎也	
	中野 貴紀	野畑 幹徳	
	光田 敏夫		
専務理事	大場 泰裕		
監事	吉岡 正人	岩井 浩司	
	加藤 芳一		
顧問	篠田 尚久	石原 和幸	
常任理事	藤井 一彦	生田 恵一	
	伊藤 明人	森 敏郎	
	柴田 幹夫	富田 英之	
	國本 桂史	川本 嘉博	
	関谷 俊征	長崎多賀巳	
	永谷 英夫	湯地 保雄	
	水野 一樹	石原 義久	
無任所理事	伊藤 暁	白瀧 正人	
	富永 浩司		
理事	穂刈 泰男	佐野 由典	
	日比野龍一	伊尾木憲一	
	社本 光永	水野 新平	
	菊岡 宏弘	鈴木龍一郎	
	前川 弘美	秋山 修蔵	
	丹羽 澄吉	川津 昌作	
	城戸 康近	柴田 義介	
	田辺 清隆	木村 和史	
	鳥飼 正幸	瀬尾 保雄	
	酒井 久義	鈴木 康仁	
	沼田 孝子	上野 源治	
	栗田 俊郎	金森 伸夫	
	菊池 一人	堀田 豊弘	

● 第44年度 (1994)

理事長	光田 敏夫		
直前理事長	新谷 岳史		
副理事長	北 鉄郎	山本 基博	
	富永 浩司	関谷 俊征	
	富田 英之		
専務理事	水野 一樹		
常務理事	坂田 稔		
監事	篠田 尚久	石原 和幸	
	山田 慎也		
顧問	中野 貴紀	野畑 幹徳	
	大場 泰裕		
常任理事	弘田 賢司	酒井 久義	
	広里 元英	栗田 俊郎	
	沼田 孝子	日比野龍一	
	鈴木龍一郎	白瀧 正人	
	古川 晴一	堀田 豊弘	
	川津 昌作	藤井 一彦	
	湯地 保雄	水野 新平	
無任所理事	大脇 弘資	横井 幹夫	
理事	横田 幸孝	前田 利信	
	吉田 直正	松浦 隆	
	網島 裕明	山口 正裕	
	加藤 昌之	柴田 芳樹	
	藤川 和久	松尾 宗典	
	武田 英昭	万木 啓彰	
	高田 和裕	加藤 哲也	
	鈴木 英司	野村 朋永	
	神谷 香子	木村 重夫	
	中村 貴之	川島 昌二	
	加藤 嘉成	坪井 良憲	
	深谷英一郎	杉本 雅彦	
	菅沼 洋司	新田 芳希	
	小塚 純一	堀 正人	

● 第45年度 (1995)

理事長	富田 英之		
直前理事長	光田 敏夫		
副理事長	水野 新平	湯地 保雄	
	広里 元英	神谷日出男	
	鈴木龍一郎		
専務理事	堀田 豊弘		
常務理事	中村 貴之		
監事	新谷 岳史	野畑 幹徳	
	山本 基博		
顧問	中野 貴紀	富永 浩司	
	関谷 俊征		
常任理事	藤川 和久	伊藤 亨司	
	社本 光永	前田 利信	
	久野 雅芳	前川 弘美	
	菊池 一人	鈴木 英司	
	木村 重夫	古田 一夫	
	坂田 稔	菊岡 宏弘	
	柴田 芳樹	金森 伸夫	
無任所理事	網島 裕明		
理事	島本 一	長屋 好昭	
	中村美由喜	早稲田昌大	
	吉村 俊哉	坂 英臣	
	伊藤 英修	木村 隆之	
	鈴木 康秀	安藤 真也	
	三井 潤	古川 善幸	
	石田 信文	平野 晃	
	中村 存登	大野 蔵彦	
	和藤 健	渡 仁孝	
	澤田 裕介	高村 芳行	
	高下 修	寺野 哲也	
	落合 法正	早川 直樹	
	平林 秀一	山口 義浩	
	石濱 勇人	永谷 光男	
	入谷 宏典		

● 第46年度 (1996)

理事長	水野 新平		
直前理事長	富田 英之		
副理事長	柴田 芳樹	前川 弘美	
	網島 裕明	川津 昌作	
	金森 伸夫		
専務理事	菊池 一人		
常務理事	木村 隆之		
監事	光田 敏夫	湯地 保雄	
	富永 浩司		
顧問	大場 泰裕	水野 一樹	
	広里 元英	神谷日出男	
	関谷 俊征		
無任所常任理事	菊岡 宏弘		
常任理事	松尾 宗典	堀 正人	
	木村 和史	万木 啓彰	
	高田 和裕	坂 英臣	
	杉本 雅彦	田辺 清隆	
	弘田 賢司	石濱 勇人	
	澤田 裕介	鈴木龍一郎	
	菅沼 洋司	加藤 哲也	
	早川 直樹		
理事	山本 康敬	兒島 輝忠	
	富田 勘司	奥村 哲司	
	藤谷 龍美	久保田幸児	
	長谷川 亨	服部 晃尚	
	内藤 米二	杉本 達哉	
	渡辺 敬文	竹田 新吾	
	加藤千寿夫	加藤 啓介	
	酒井 祥宏	角 嘉一郎	
	小島 絵理	神野 智正	
	浜 洋一	加藤 靖始	
	加藤 悦生	花木 桂一	
	山下 幸男	山田 孝志	
	井村 裕雄	安保 秀秋	
	鷹野 昇	原田 弘人	

● 第47年度 (1997)

理事長	網島 裕明		
直前理事長	水野 新平		
副理事長	弘田 賢司	伊藤 明人	
	堀 正人	中村 貴之	
	菊岡 宏弘		
専務理事	石濱 勇人		
常務理事	原田 弘人		
監事	富田 英之	広里 元英	
	関谷 俊征		
顧問	神谷日出男	川津 昌作	
	堀田 豊弘	金森 伸夫	
	鈴木龍一郎		
常任理事	鷹野 昇	入谷 宏典	
	加藤 啓介	竹田 新吾	
	角 嘉一郎	加藤 悦生	
	久保田幸児	安保 秀秋	
	小島 絵理	横井 幹夫	
	島本 一	安藤 真也	
	浜 洋一	山下 幸男	
無任所理事	松尾 宗典		
理事	辻 雅人	上田 修義	
	伊藤 康司	加藤 元康	
	清水 康二	山口 茂樹	
	後藤 義裕	永野 光容	
	林 育生	古市晴比彦	
	柴田 和昭	佐分利清信	
	池山 紀之	武山 光治	
	長谷川弘道	野原 秀雄	
	酒井 友義	梶川 真一	
	池田 芳郎	吉田 秀樹	
	山口 誠	森 俊夫	
	加藤 貴史	芹沢 豊宏	

● 第48年度 (1998)

理事長	鈴木龍一郎		
直前理事長	網島 裕明		
副理事長	加藤 啓介	浜 洋一	
	社本 光永	木村 重夫	
	松尾 宗典		
専務理事	鷹野 昇		
常務理事	加藤 元康		
監事	富田 英之	川津 昌作	
	中村 貴之		
顧問	堀 正人	堀田 豊弘	
	金森 伸夫	菊池 一人	
	石濱 勇人		
常任理事	伊藤 康司	加藤 貴史	
	清水 康二	古市晴比彦	
	加藤 靖始	渡 仁孝	
	寺野 哲也	長谷川 亨	
	池田 芳郎	山口 茂樹	
	富田 勘司	長谷川弘道	
	辻 雅人	松浦 隆	
無任所理事	菊岡 宏弘		
理事	西脇 正導	小林 禎志	
	酒井 良太	梶浦 顕治	
	大木 一信	大藪 淳一	
	青木 宏文	伊藤 倫文	
	山田 尚武	中北 馨介	
	黒川 博司	永嶋 雅之	
	長屋 憲幸	波多野正春	
	長屋 偉人	後藤 幸治	
	林 左希也	佐治 勝	
	北川 博文	安井 司	
	金原 泰成	遠山 眞樹	
	松任 孝之	尾崎 雅人	

● 第49年度 (1999)

理事長	社本 光永		
直前理事長	鈴木龍一郎		
副理事長	山口 茂樹	入谷 宏典	
	安藤 真也	杉本 雅彦	
	加藤 靖始		
専務理事	早川 直樹		
常務理事	酒井 良太		
監事	浜 洋一	木村 重夫	
	石濱 勇人		
顧問	加藤 元康	鷹野 昇	
	菊岡 宏弘	松尾 宗典	
常任理事	長屋 偉人	杉本 達哉	
	佐治 勝	加藤 嘉成	
	上田 修義	中北 馨介	
	井村 裕雄	尾崎 雅人	
	波多野正春	青木 宏文	
無任所理事	西脇 正導	加藤 貴史	
理事	錦見 泰郎	服部 陽一	
	西山 淳	菊田 宗一	
	水野 昌樹	町田 功	
	服部 千代	齋藤 健	
	加藤 直幸	古澤 利明	
	水野 功一	長谷川ゆかり	
	池田 幸平	山口 哲司	
	児玉 大資	市岡 裕規	
	下村 直資	林 比佐司	
	神野 恭寿	西上日出己	

● 第50年度 (2000)

理事長	松尾 宗典		
直前理事長	社本 光永		
副理事長	長屋 偉人	加藤 貴史	
	中北 馨介	西脇 正導	
専務理事	波多野正春		
常務理事	下村 直資		
監事	鈴木龍一郎	入谷 宏典	
顧問	早川 直樹	安藤 真也	
	杉本 雅彦	加藤 靖始	
出向役員	鈴木 利明		
常任理事	西上日出己	林 左希也	
	神野 恭寿	錦見 泰郎	
	北川 博文	山田 尚武	
	山口 哲司	金原 泰成	
	服部 陽一		
無任所理事	酒井 良太	清水 康二	
理事	渡邊 一博	神谷 竜也	
	植木 准	佐橋健一郎	
	加藤 款也	石濱 光哉	
	神谷 正親	池田 佳隆	
	松尾 和彦	舟橋 直昭	
	岡島 直樹	鈴木 昌義	
	鈴木 健司	廣瀬 光彦	
	水越多加夫	夏目 勇人	
	塚原 鋼平	池田 則浩	

● 第51年度 (2001)

理事長	中北 馨介		
直前理事長	松尾 宗典		
副理事長	金原 泰成	富田 勘司	
	青木 宏文	山口 哲司	
専務理事	山田 尚武		
常務理事	松尾 和彦		
監事	安藤 真也	加藤 靖始	
顧問	下村 直資	杉本 雅彦	
	菊岡 宏弘	波多野正春	
常任理事	西脇 正導		
	加藤 款也	古澤 利明	
	石濱 光哉	植木 准	
	神谷 竜也	佐橋健一郎	
	遠山 眞樹	長谷川ゆかり	
	舟橋 直隆	鈴木 昌義	
無任所理事	池田 佳隆		
理事	佐治 勝	神野 恭寿	
	鈴木 利明	石原 武志	
	小出 昭司	後藤 克典	
	野村 昌弘	松浦 利信	
	加藤 泰之	藤間鋼太郎	
	盛田 秀一	川島 浩二	
	村田 芳邦	伊藤 武史	
	加藤 徹	笹野 暢宏	
	橋本篤一郎		

● 第53年度 (2003)

理事長	鈴木 昌義		
直前理事長	西脇 正導		
副理事長	神野 恭寿	盛田 秀一	
	原 啓祐	伊藤 武史	
専務理事	盛田 秀一		
常務理事	釘宮 祐治		
監事	波多野正春	中北 馨介	
顧問	佐野 丈教	山口 哲司	
	山田 尚武	池田 佳隆	
常任理事	近藤 政典	川島 浩二	
	本部 建二	笠原 英夫	
	丹坂 和弘	加藤 徹	
	木村 陽一	矢崎 信也	
	笹野 暢宏	橋本篤一郎	
	加藤 泰之	伊藤 嘉浩	
無任所理事	駒木 博之	田口健一郎	
理事	松宮 弘明	三澤 宗邦	
	一柳 泰樹	中島 吉之	
	堀内 孝明	熊田 光男	
	藤間鋼太郎	村上 幸久	
	横山 剛也	安藤 幸久	
	小玉 正明	筒井 康仁	
	安田 照幸	佐藤 好範	

● 第52年度 (2002)

理事長	西脇 正導		
直前理事長	中北 馨介		
副理事長	佐橋健一郎	石濱 光哉	
	鈴木 昌義	池田 佳隆	
専務理事	神谷 竜也		
常務理事	佐野 丈教		
監事	菊岡 宏弘	松尾 宗典	
顧問	加藤 靖始	青木 宏文	
	波多野正春	山口 哲司	
中長期ビジョン 策定会議議長	山田 尚武		
常任理事	神野 恭寿		
	石原 武志	小出 昭司	
	後藤 克典	松浦 利信	
	池田 幸平	加藤 泰之	
	盛田 秀一	町田 功	
	村田 芳邦	伊藤 武史	
無任所理事	神谷 正親		
理事	笹野 暢宏		
	伊藤 樹孝	筒井 達之	
	原 昭則	川村 晃司	
	釘宮 祐治	近藤 政典	
	原 啓祐	本部 建二	
	笠原 英夫	丹坂 和弘	
	木村 陽一	松窪 秀司	
	矢崎 信也	安藤 和樹	
	伊藤 嘉浩		

● 第54年度 (2004)

理事長	池田 佳隆		
直前理事長	鈴木 昌義		
副理事長	村田 芳邦	川島 浩二	
	丹坂 和弘	加藤 徹	
専務理事	伊藤 嘉浩		
常務理事	矢崎 信也		
監事	熊田 光男		
顧問	山口 哲司	山田 尚武	
	原 啓祐	伊藤 武史	
常任理事	笹野 暢宏		
	町田 功	一柳 泰樹	
	中島 吉之	横山 剛也	
	村上 実	松窪 秀司	
	安藤 幸久	小玉 正明	
無任所常任理事	安田 照幸		
理事	藤間鋼太郎		
	加藤 康幸	浅野 龍司	
	望月理久風	太田 通利	
	大村 將一	三井 博美	
	高木 潤	西本 一幸	
	井上 伸二	千田 穰	
	佐藤 謙一郎	白神 良二	
	雨宮 秀寿	堺 朋一	
	大口 浩毅	八神 範明	
	近藤 裕貴	浅野 有	
	田辺 健一	古澤 仁之	

● 第55年度 (2005)

理事長	加藤 徹		
直前理事長	池田 佳隆		
副理事長	横山 剛也	木村 陽一	
	松窪 秀司	安藤 幸久	
専務理事	安田 照幸		
常務理事	千田 穰		
監事	伊藤 武史	丹坂 和弘	
顧問	熊田 光男	矢崎 信也	
	伊藤 嘉浩		
無任所常任理事	雨宮 秀寿		
常任理事	大村 一幸	三井 博美	
	西本 朋一	井上 伸二	
	堺 朋一	大口 浩毅	
	安藤 和樹		
理事	加藤 喜之	石原 宏亮	
	齋藤 順一	能澤 浩智	
	新田 治郎	鈴木 雅登	
	浅井 幹雄	大塚 康洋	
	横井 繁明	後藤慎一郎	
	竹内 郁人	福島 由真	
	岡田 博道	遠山 武志	
	杉本 昭一	大原 学	
	山下 智己	柚木 猛	

● 第57年度 (2007)

理事長	雨宮 秀寿		
直前理事長	伊藤 嘉浩		
副理事長	井上 伸二	大塚 康洋	
	大口 浩毅	八神 範明	
専務理事	後藤慎一郎		
常務理事	佐藤 謙一郎		
監事	小玉 正明	安田 照幸	
顧問	笹野 暢宏	堺 朋一	
	安藤 和樹		
常任理事	鹿倉 祐一	杉本 昭一	
	木村 樹生	浅野 有	
	武市 勝敏	山下 智己	
	木村 浩樹	伊藤 弘一郎	
無任所常任理事	杉本 高男		
議長	佐藤 好範		
理事	松下 昌弘	伊藤 恒利	
	今津 邦博	磯野 智也	
	大隅 浩一	高橋 典子	
	盛田 一行	平林 拓也	
	堤 創	大塚 耕介	
	柴山 裕子	滝本 英一朗	

● 第56年度 (2006)

理事長	伊藤 嘉浩		
直前理事長	加藤 徹		
副理事長	西本 一幸	小玉 正明	
	笹野 暢宏	雨宮 秀寿	
専務理事	安藤 和樹		
常務理事	堺 朋一		
監事	古澤 仁之		
顧問	木村 陽一	池田 佳隆	
	矢崎 信也		
	横山 剛也	熊田 光男	
	安田 照幸		
出向役員	柚木 猛		
常任理事	横井 繁明	後藤慎一郎	
	八神 範明	岡田 博道	
	近藤 裕貴	佐藤 好範	
	大塚 康洋	浅井 幹雄	
理事	鈴木 雅登		
	後藤 論	鹿倉 祐一	
	安田 正宜	川口 由高	
	木村 浩樹	杉本 高男	
	宇佐美克之	渡辺良太郎	
	中村 吉之	江村 公一	
	武市 勝敏	佐藤 聰	
	川田 幸久	伊藤 弘一郎	
	木村 樹生	森 智史	

● 第58年度 (2008)

理事長	大口 浩毅		
直前理事長	雨宮 秀寿		
副理事長	浅野 有	伊藤 弘一郎	
	木村 浩樹	杉本 高男	
専務理事	木村 樹生		
常務理事	平林 拓也		
監事	堺 朋一	八神 範明	
顧問	伊藤 嘉浩	大塚 康洋	
	後藤慎一郎		
常任理事	柚木 猛	後藤 論	
	今津 邦博	大隅 浩一	
	川口 由高	松下 昌弘	
	森 智史	盛田 一行	
無任所理事	堤 創		
理事	河合 秀昭	中山 雄一朗	
	黒川 弘康	江川 正晃	
	武藤 英史	中村 康成	
	内田 直志	河合 秀紀	
	岩村 幸正	村瀬 真司	
	雨宮 隆昭	山下 寛高	
	佐藤 和哉		

● 第59年度 (2009)

理事長	木村 浩樹		
直前理事長	大口 浩毅		
副理事長	川口 由高	盛田 一行	
	森 智史	柚木 猛	
専務理事	松下 昌弘		
常務理事	岩村 幸正		
監事	浅野 有	木村 樹生	
相談役	伊藤 嘉浩		
顧問	平林 拓也	伊藤弘一郎	
	古澤 仁之	杉本 高男	
出向役員	後藤 論		
常任理事	河合 秀昭	遠山 武志	
	伊藤 恒利	大原 学	
	内田 直志	河合 秀紀	
	雨宮 隆昭	山下 寛	
	森 孝義	堀田 崇	
	岳田 幸成	松本 浩二	
	太田 晶久	末岡 仁	
	鈴木 拓将	古川 幹哲	
	長谷川 裕一	柴田 軒吾	
	加藤 謙一	桜井 博教	
	青山 成行	伊藤 彰記	

● 第61年度 (2011)

理事長	後藤 論		
直前理事長	杉本 高男		
副理事長	森 孝義	加藤 謙一	
	山下 智己	中村 康成	
専務理事	末岡 仁		
常務理事	堀田 崇		
監事	桜井 博教		
	古澤 仁之	木村 浩樹	
	山下 寛高	柚木 猛	
	岩村 幸正	堤 創	
	鈴木 拓将	山本 康弘	
	太田 晶久	齊藤 裕也	
	大橋 史忠	徳永 宏志	
	鈴木 晶博	南野 忠義	
	春馬 学	長谷川 裕一	
	加藤 武功		
	前田 将行		
	青木 照護	小山 雅也	
無任所理事	堀田 政宏	三輪 陽介	
出向役員	鈴木 和幸	遠藤 隆一郎	
理事	河村 直樹	平床 樹志	
	松本 幸樹	足立 兼敏	
	細野 晃稔	足立 兼敏	
	澤田 尚久	大島 千世子	
	伊藤 貴範	水野 祐啓	
	山下 元希		

● 第60年度 (2010)

理事長	杉本 高男		
直前理事長	木村 浩樹		
副理事長	河合 秀紀	今津 邦博	
	遠山 武志	後藤 論	
専務理事	山下 寛高		
常務理事	雨宮 隆昭		
監事	堤 創		
	浅野 有	木村 樹生	
	古澤 仁之	柚木 猛	
	森 智史	岩村 幸正	
	堀田 崇	佐藤 聰	
	武藤 英史	中村 康成	
	村瀬 真司	柴田 軒吾	
	佐藤 和哉	加藤 謙一	
	末岡 仁	江川 正晃	
無任所理事	徳永 宏志		
理事	加藤 惠三	青木 照護	
	春馬 学	前田 将行	
	鈴木 晶博	牧野 弘之	
	山本 康弘	勝野 宜也	
	南野 忠義	加藤 武功	
	大橋 史忠		

● 第62年度 (2012)

理事長	末岡 仁		
直前理事長	後藤 論		
副理事長	大橋 史忠	加藤 武功	
	鈴木 晶博	前田 将行	
専務理事	春馬 学		
常務理事	堀田 政宏		
監事	山下 寛高	木村 浩樹	
	山下 智己	堀田 崇	
	堤 創	桜井 博教	
	中村 康成	柚木 猛	
	青木 照護	伊藤 貴範	
	水野 祐啓	伊藤 彰記	
	勝野 宜也	大島 千世子	
	三輪 陽介		
	鈴木 拓将	長谷川 裕一	
出向役員	川中洋太郎	豊住 清	
理事	住野 新	川島 謙一	
	武田 哲明	長芝 研司	
	後藤 祥崇	太田 幸彦	
	岩崎 友就	見田 昌靖	
	三浦 恒	松林 映秀	
	筒井 康広	長瀬 史典	
	井戸 孝子	杉浦 卓	
	早川 剛英	乃一 剛英	

● 第63年度 (2013)

理事長	加藤 武功		
直前理事長	末岡 拓将		
副理事長	鈴木 康弘	大島 千世子	
	山本 裕也	青木 照護	
専務理事	齊藤 裕也		
常務理事	太田 幸彦		
監事	山下 智己	堀田 崇	
	鈴木 晶博	春馬 学	
	柚木 猛	前田 将行	
	堀田 政宏		
	豊住 清	川島 謙一	
	河村 直樹	乃一 剛英	
	足立 兼敏	川中洋太郎	
	岩崎 友就	杉浦 卓	
	伊藤 貴範	小山 雅也	
	岩田 一成	洋平 泰徳	
	木村 篤志	石橋 宏典	
	徳山 喜保	永井 隆志	
	森 真悟	大宮 有紀	
	海田 雅史	神戸 直人	
	白村 陽秀	山本 和之	
	岩間 義人	藤田 文徳	
	田中 良知	森田 直樹	
	鈴木 雅也	大和	

● 第64年度 (2014)

理事長	青木 照護		
直前理事長	加藤 武功		
副理事長	川島 謙一	豊住 清	
	乃一 剛英	杉浦 卓	
専務理事	伊藤 貴範		
常務理事	三浦 恒		
監事	鈴木 晶博	春馬 学	
	齊藤 裕也	山本 康弘	
	末岡 仁	太田 幸彦	
	鈴木 雅也	小山 雅也	
	松林 映秀	神戸 直人	
	大宮 隆志	藤田 和之	
	山本 直人	永井 宏典	
	川中洋太郎	大和 直樹	
	阪野 照定	伊藤 崇	
	阪野 公夫	風岡 一城	
	野 正志	光岡 徹	
	河合 武司	梅村 大祐	
	山田 剛士	山田 和貴	

● 第65年度 (2015)

理事長	杉浦 卓		
直前理事長	青木 照護		
副理事長	松林 映秀	大宮 隆志	
	川中 洋太郎	大和 直樹	
専務理事	岩崎 友就		
常務理事	野阪 武司		
監事	齊藤 裕也	山本 康弘	
	伊藤 貴範	川島 謙一	
	豊住 清	乃一 剛英	
	三浦 恒		
	伊藤 崇	森 正志	
	田中 良知	岩田 一成	
	山田 剛士	鈴木 和貴	
	山本 一統	中林 良太	
	風岡 一城	梅村 総	
	白村 陽秀		
	河村 直樹	山本 直人	
	河合 慎太		
	長谷川 正樹	林 絵梨子	
	浅野 弘義	田中 祐治	
	大井 貴正	陣田 裕司	
	前田 義浩	川出 明	
	相川 悟郎	佐地 宏之	
	小木曾 仁	阿部 雄介	
	尾関 良祐	村瀬 雄介	
	赤林 竜弘	細川 雅也	
	高木 秀典	三宅 貴史	
	林 稚人	鈴木 直明	
	武田 裕規		

● 第66年度 (2016)

理事長	川中洋太郎		
直前理事長	杉浦 卓		
副理事長	山田 剛士	鈴木 和貴	
	岩田 一成	山本 直人	
専務理事	河村 直樹		
常務理事	阪野 照定		
監事	伊藤 貴範	川島 謙一	
	乃一 剛英	岩崎 友就	
	青木 照護	大和 直樹	
	前田 義浩	相川 悟郎	
	河合 慎太	三宅 貴史	
	鈴木 直明	細川 雅也	
	尾関 良祐	川地 宏之	
	浅野 弘義	佐藤 崇	
	白瀧 征人	高山 純平	
	秋山 知弘	山下 貴広	
	峯田 百良	山田 隆人	
	岩田 修昌	上田 富浩	
	岩尾 信輝	鈴木 政鉄	
	荒尾 重夫	三輪 邦裕	
	仲谷 重夫	寺田 拓也	
	光田 侑司		

● 第67年度 (2017)

理事長	大和 直樹		
直前理事長	川中洋太郎		
副理事長	細川 雅也	山本 一統	
	三宅 貴史	浅野 弘義	
専務理事	梅村 総		
常務理事	佐藤 寿倫		
監事	乃一 剛英	岩崎 友就	
	鈴木 和貴	岩田 一成	
顧問	青木 照護	山本 直人	
	阪野 照定		
常任理事	大井 貴正	武田 裕規	
	長谷川正樹	寺田 拓也	
	藤井 富浩	林 稚人	
	白瀧 征人	佐地 宏之	
出向役員	鈴木 信輝	光田 侑司	
	中林 良太		
理事	落合 徹哉	保田 隼希	
	川村 浩嗣	春名 潤也	
	田村 昌之	三輪 大介	
	井上 剛	遠藤 圭	
	橋田 英明	八木 俊行	
	山邊 信之	只井 秀明	
	林 宏和	鈴木 里英	
	松永 圭太	高橋 雅大	

● 第69年度 (2019)

理事長	浅野 弘義		
直前理事長	山本 一統		
副理事長	大井 貴正	荒尾 政弘	
	白瀧 征人	寺田 拓也	
	光田 侑司		
専務理事	春名 潤也		
常務理事	西原 政熙		
監事	山本 直人	三宅 貴史	
	田中 良知	伊藤 崇	
顧問	尾関 良祐	武田 裕規	
	佐地 宏之		
常任理事	橋田 英明	野田雄二郎	
	齋藤 亮治	松永 圭太	
	平手 康司	遠藤 圭	
	只井 秀明	桑田 正和	
	安田 伸志		
出向役員	鈴木 信輝	澤木 信男	
理事	荒川 典明	水谷 昇	
	高橋 亮	太田 武志	
	高田 智仁	山内 昭吾	
	土屋 勝義	蟹江 誠一	
	駒田 光	内田 利弘	
	小林 靖浩	稲葉 有俊	
	神谷 勇輝	早矢仕友幸	
	深澤 和将	相羽 哲弘	
	山田 洋資	杉山 浩子	

● 第71年度 (2021)

理事長	寺田 拓也		
直前理事長	光田 侑司		
副理事長	太田 武志	野田雄二郎	
	平手 康司	山内 昭吾	
専務理事	松永 圭太		
常務理事	杉原 雅也		
監事	大井 貴正	春名 潤也	
	遠藤 圭	鈴木 信輝	
顧問	橋田 英明	高橋 雅大	
常任理事	深澤 和将	吉川 徹	
	秋元 隆弘	岩田 明子	
	三宅 功一	早矢仕友幸	
	岩下 大高	竹腰 正見	
	神谷 勇輝	高橋 亮	
出向役員	安井 琢磨	小林 靖浩	
理事	中山 隼人	朱宮 豊	
	渡邊 建介	安藤 恭平	
	石川 和寛	吉田 直人	
	杉原 範彦	伊藤 友一	
	道川内 知	横山 篤司	
	寺島 雅樹	桑野 佑介	
	酒井 伸彦	中塚 喜雄	
	森 俊輔	大島 久敬	
	三野 一人	中村 正俊	
	小栗 崇嗣		

● 第68年度 (2018)

理事長	山本 一統		
直前理事長	大和 直樹		
副理事長	田中 良知	尾関 良祐	
	武田 裕規	佐地 宏之	
専務理事	伊藤 崇		
常務理事	鈴木 里英		
相談役	青木 照護		
監事	鈴木 和貴	岩田 一成	
	山本 直人	三宅 貴史	
顧問	浅野 弘義		
常任理事	鈴木 信輝	荒尾 政弘	
	三輪 大介	林 宏和	
	落合 徹哉	八木 俊行	
	高橋 雅大	春名 潤也	
出向役員	光田 侑司	白瀧 征人	
	寺田 拓也		
理事	澤木 信男	長村 明子	
	山本 洋一	梅本 昌裕	
	神谷昭一郎	鷗飼 伸弥	
	服部 大	野田雄二郎	
	横山 亮介	西原 政熙	
	木下 智靖	桑田 正和	
	平手 康司	齋藤 亮治	
	安田 伸志	一之瀬 修	

● 第70年度 (2020)

理事長	光田 侑司		
直前理事長	浅野 弘義		
副理事長	鈴木 信輝	橋田 英明	
	遠藤 圭	高橋 雅大	
専務理事	齋藤 亮治		
常務理事	土屋 勝義		
監事	田中 良知	伊藤 崇	
	大井 貴正	春名 潤也	
顧問	武田 裕規	佐地 宏之	
	白瀧 征人	寺田 拓也	
	西原 政熙		
常任理事	小林 靖浩	木下 智靖	
	高田 智仁	山田 洋資	
	太田 武志	山内 昭吾	
	鷗飼 伸弥	相羽 哲弘	
	杉山 浩子		
出向役員	深澤 和将	早矢仕友幸	
理事	竹腰 正見	吉川 徹	
	岩下 大高	安田 将之	
	岩崎英一郎	安井 琢磨	
	太田 佳典	松岡 秀佳	
	三宅 功一	寺嶋 聡	
	杉原 雅也	秋元 隆弘	

JC歴別会員名簿

Table listing members by grade from 1st year to 4th year. Each grade has a header row and multiple rows of member names.

Table listing members by grade from 5th year to 15th year. Each grade has a header row and multiple rows of member names.



年度別卒業予定者名簿

Table listing graduates by year from 令和3年 (2021) to 令和20年 (2028). Each row contains names and their respective schools/locations.

Table listing graduates by year from 令和8年 (2026) to 令和20年 (2028). Each row contains names and their respective schools/locations.





発行所／公益社団法人 名古屋青年会議所  
〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目15番24号  
TEL (052) 221-8590  
FAX (052) 202-0464  
編集責任者／吉川 徹

発行日／令和3年7月

**70<sup>th</sup>**  
ANNIVERSARY

**JCI**  <sup>TM</sup>  
Nagoya